

学修・教育目標コード	学修・教育目標（ディプロマポリシー）
a	質の高い英語力の基礎や心身の健康の重要性の理解等、現代社会での活躍に必要なリテラシーや幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができています。
b	学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。
c	子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。
d	教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。
e	学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。
f	他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す	
				学修目標コード	ポイント配分
新入生セミナー	大学生活を送るうえで必要とされる、自主的かつ自律的な態度および学習の進め方を学ぶことができるように企画された科目である。	各学習・教育目標を達成する基礎として、新入生を大学における学習全体へと導く役割を担う必修科目である。	・日々の生活や学習における自己管理、時間管理ができるようになる。 ・大学という場を理解するとともに、学習を進めるうえで必要な知識、技能を身につける。 ・将来的なキャリア形成を見通しながら自己を認識し、それぞれの専門分野とつながりのある職業について学ぶことで、今後4年間の過ごし方について考え始める。	a	0.4
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0.3
				f	0.3
Integrated English I A	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Integrated English I B	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Integrated English II A	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Integrated English II B	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Advanced English I (Intensive Reading)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Pleasure Reading)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Academic Writing)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Essay Writing)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Public Speaking)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Presentation)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Advanced English I (Discussion & Debate)	<p>1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。</p> <p>TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。</p> <p>以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。</p>	<p>地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。</p>	<p>「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。</p>	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Speech Clinic)	<p>1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。</p> <p>TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。</p> <p>以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。</p>	<p>地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。</p>	<p>「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。</p>	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Vocabulary Building)	<p>1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。</p> <p>TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。</p> <p>以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。</p>	<p>地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。</p>	<p>「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。</p>	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Communicative Grammar)	<p>1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。</p> <p>TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。</p> <p>以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。</p>	<p>地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。</p>	<p>「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。</p>	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Media English)	<p>1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。</p> <p>TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。</p> <p>以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。</p>	<p>地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。</p>	<p>「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。</p>	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (Cinema English)	<p>1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。</p> <p>TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。</p> <p>以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。</p>	<p>地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。</p>	<p>「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。</p>	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Advanced English I (TOEIC)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (TOEFL)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English I (EAP)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
スポーツと健康	集団的スポーツと個人的スポーツ(軽スポーツ的な内容を含む)から、学生は、希望の種目を受講する。自己の体力および心身の健康への認識を深め、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上を図る。チームワークを高め、試合運営について熟知できるようにして、様々な人達と接する機会を増やしながら、グループ間での学び合いなど、社会・対人関係力の形成に努める。また、運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけも行う。 以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後に発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを旨とする。	生涯にわたる豊かなライフスタイルの形成に向けた心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解させる科目である。	身体・体方面(自己コントロール、適応力、耐性、自律性、達成感など)とともに社会・対人関係面(共感性、リーダーシップ、協調性、連帯感、コミュニケーションなど)における能力が身につけている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
情報処理基礎	情報化社会で必要不可欠とされる情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力を学び、情報活用の実践力を養い、情報の科学的理解を深める。	すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。	情報社会に創造的に参画する素養を身につける。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
とちぎ仕事学	「卒業後、どこで、何を、どう生きていくか?」 大学で学ぶ数年間の拠点となる「栃木」を知り、「栃木」を通して「地域社会」を知り、栃木をフィールドに「生き方」「働き方」「地域社会との関わり方」を考えてゆく授業です。この授業では、「仕事」の定義を、単に報酬に代える「労働」としてではなく、社会参画の「活動」として考えます。それは何故でしょう。「そもそも地域で働くってどういうこと?」という発問から授業を始めていきます。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。 基盤教育総合系科目の達成目標に沿って、学外の社会人も招き行う課題解決型学習の授業です。	・地域社会の課題を自分自身の学びや生活との関係性において捉え、現代社会に生きる当事者としての基本的な学びの姿勢を身につけます。 ・地域社会の可能性を自分自身のこれからの可能性と重ねあわせ、専門で学ぶことを活かし、ポジティブに課題の解決策や可能性の活かし方を考えていくための基礎体力を養成します。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Advanced English II (Pleasure Reading)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English II (Presentation)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English II (TOEIC)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English II (Academic Writing)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English II (Cinema English)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English III (Pleasure Reading)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Advanced English III (Presentation)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English III (TOEIC)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English III (Academic Writing)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Advanced English III (Cinema English)	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors English A	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors English B	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Honors English C	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors English D	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors English E	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors English F	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors English G	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors English H	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Honors Camp A	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors Camp B	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors Camp C	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Honors Camp D	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Study Abroad A	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Study Abroad B	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Study Abroad C	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skills の養成後、Oral Communication とReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral Communication とWritingを主とした4skills の育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
Study Abroad D	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skills の養成後、Oral Communication とReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral Communication とWritingを主とした4skills の育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
哲学入門	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
西洋思想	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
現代思想	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
東洋思想	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
論理学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
西洋の倫理思想	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
科学思想史	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
東アジアの宗教と文化	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
仏教における人間形成論	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
認知心理学入門	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
行動心理学入門	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
実験心理学入門	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
発達と学習の心理学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
パーソナリティ心理学概論	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
障害者心理学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
子どもの言語とコミュニケーション入門	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
学校臨床心理学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
言語習得論	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
質的心理学研究法入門	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
児童生徒の思考と認知	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
関係からみえる子どもの育ち	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
日本文学（古典）	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
日本近代文学講読	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
日本の小説	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
日本の古典	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
韓国文学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
ドイツ文学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
フランス文学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
比較文学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
ロシア文学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
英文学入門	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
米文学入門	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
ヨーロッパ地域文化論	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
現代美学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
芸術学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
芸術と自然	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
音楽通論	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
声楽の魅力	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
菅打合奏演習	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
音楽の常識	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
日本文化A	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
日本文化B	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
美術表現基礎	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
近現代美術論	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
身体文化A	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
身体文化B	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
身体文化C	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
身体文化D	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
多言語コミュニケーション学A	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
多言語コミュニケーション学B	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
日本語を文法的に考える	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
論理表現の技術	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
Japanese Communication Arts	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
ことばから見た人間	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
社会言語学概論－日本語の変遷－	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
年少者日本語教育	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
成人教育と参加型学習	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
教育の裏側に光を当てる	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
生活美学	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
ものと文化と社会	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
映像分析の実践	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
世界の中の日本文化	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
ボディ・ランゲージ	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人文・哲学領域（認定）	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人文・心理学領域（認定）	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人文・文学領域（認定）	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人文・芸術領域（認定）	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人文・人文総合領域（認定）	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人文科学系科目（認定）	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
日本国憲法	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
法学入門	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
国際化と人権	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
知的財産権概論	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
国際政治史	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
戦争と平和をめぐる諸問題	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
現代政治の理論と実際	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
現代日本の政治と行政	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
グローバル・ガバナンス論入門	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3











授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
著作権法入門	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
教科書に見る歴史と社会	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人と自然の共生を考える	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
希望の地域社会論	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
地域振興と大学の役割	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
農業と文明	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
世界の農業	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
アフリカ学入門	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
中国事情	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
グローバル韓国学	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
科学・技術・教育・社会を考える	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
セクソロジー入門	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
高齢者福祉入門	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
国際協力の実践と課題	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
現代社会と教育改革	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
社会・経済学領域（認定）	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
社会・社会学領域（認定）	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
社会・地理学領域（認定）	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
社会・歴史学領域（認定）	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
社会・社会総合領域（認定）	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
社会科学系科目（認定）	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
現代数学入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と獨創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
電気電子数学入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と獨創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
Mathematicaによる微積分入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と獨創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
Mathematicalによるデータ解析入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
振動の科学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
数学の世界	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
教養物理	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
物理学入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
家庭の中の物理	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
Mathematica入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
放射線科学入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
エレクトロニクス科学史	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
バイオメテイクス入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
環境と生物化学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
不思議な化学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
水素とエネルギー	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
リメディアル化学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
物質・材料の機器分析入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
ノーベル化学賞周辺の化学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
人間生活と植物	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
食料生産の生物学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
21世紀を支える熱帯植物	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
野外における野生動物識別テクニックの基礎	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
基礎生物学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
しさを科学する日ミシュランガイド宇都宮をつくる	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人体の中の小宇宙	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
昆虫生理生態学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
C言語・プログラミング入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
プログラミング応用	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
グラフィックス入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
インターネットのしくみ	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
Webのしくみ	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
身のまわりのICT	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
ワイヤレス通信のしくみ	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
医用画像工学入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
地球環境と生物事件史	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
地震の科学と防災	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
身近な気象学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
肥満の科学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
健康管理学概論	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
青年期の健康管理	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
健康のためなら死んでもいい！？	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
生活習慣と健康	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
バレーボールの科学	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
スポーツトレーニング論	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
精神医学概論	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
人間の感覚を測る	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
生物の多様性とは何か	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
雑草と人の暮らし	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
雑草観察入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
創造ものづくり入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
建設・建築工学入門	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
自然・数学領域（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
自然・物理学領域（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
自然・化学領域（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
自然・生物学領域（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
自然・情報科学領域（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
自然・地学領域（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
自然・健康科学領域（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
自然・自然総合領域（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
自然科学系科目（認定）	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
フランス語基礎Ⅰ	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
フランス語基礎Ⅱ	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
フランス語基礎Ⅲ	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
フランス語基礎Ⅳ	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0





授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
朝鮮語基礎Ⅲ	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
朝鮮語基礎Ⅳ	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
朝鮮語応用Ⅰ	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
朝鮮語応用Ⅱ	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
初習外国語系科目（認定）	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
野外調査論	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
里山のサステイナビリティを考える	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
実践・宇都宮のまちづくり	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
地域金融論	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
地域金融機関とともに「地方創生」を考える	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
3.11と学問の不確かさ	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
食と生命のフィールド実践演習	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
ボランティアという生き方	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
男女共同参画社会を生きる	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
ものづくり体験	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
宇大を学ぶ	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
栃木の里山に学ぶ（春夏編）	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
栃木の里山に学ぶ（秋冬編）	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
クシヨップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
アクティブにとらえる現代社会	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
「非コミュニケーション入門」理系と文系の壁を越える	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
地域メディア演習	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
環境マネジメント実践	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
宇大生の宇大生による宇大生のための理想の授業	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
大学論	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
青年期教育論	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
Iより始めよ	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
災害に強いコミュニティづくり	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
地域でプロジェクトをやってみる	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
アカデミック・スキルズ	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
大学教育と学士力	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
超高齢社会を生きる	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
ライフデザイン論	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
ソーシャル・イノベーション(社会変革)概論	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
地域編集論(地域振興と情報発信)	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
とちぎ企業人に学ぶ(業界・仕事・社会へ)	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
総合系科目(認定)	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身についている	a	0.8
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.2
人間と社会	「自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな大学生活を送ったらよいか、どんな職業選択をするか」を意識しながら学び、職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。	学生の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度(キャリアデザイン能力)の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能等を修得し、自らキャリアデザインを描く基礎が身についている。	a	0.4
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0.3
				f	0.3





授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
キャリア形成に資する活動D	「自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな大学生活を送ったらよいか、どんな職業選択をするか」を意識しながら学び、職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。	学生の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度(キャリアデザイン能力)の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能等を修得し、自らキャリアデザインを描く基礎が身についている。	a	0.4
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0.3
				f	0.3
自由科目(認定)	「自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな大学生活を送ったらよいか、どんな職業選択をするか」を意識しながら学び、職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。	学生の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度(キャリアデザイン能力)の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能等を修得し、自らキャリアデザインを描く基礎が身についている。	a	0.4
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0.3
				f	0.3
アカデミック・ジャパニーズ	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	大学での勉学・研究に必要となる学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を高める。	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
日本語アカデミック・リーディングⅠ	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	大学での勉学・研究に必要となる学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を高める。	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
日本語アカデミック・ライティング	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	大学での勉学・研究に必要となる学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を高める。	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
日本語アカデミック・リーディングⅡ	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	大学での勉学・研究に必要となる学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を高める。	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
日本語アカデミック・プレゼンテーション	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	大学での勉学・研究に必要となる学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を高める。	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
科学技術のための専門日本語	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	大学での勉学・研究に必要となる学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を高める。	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
人文社会系のための専門日本語	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	大学での勉学・研究に必要な学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を高める。	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
日本事情	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	大学での勉学・研究に必要な学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を高める。	学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0.3
				e	0
				f	0
教育原論	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴について、基礎的な知識を修得する。	「基盤教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。学修・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」と深い関連がある。	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。	a	0
				b	0.6
				c	0
				d	0
				e	0.4
				f	0
教育心理学	教育心理学の主要な内容である幼児・児童・生徒(障がいを持つ者を含む)の成長と発達、学習と学習指導、パーソナリティと適応、測定と評価について、講義する。	「基盤教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。学修・教育目標のうち、特にBと深い関連がある。	幼児・児童・生徒(障害をもつ子どもを含む)の成長・発達の仕方を理解し、その上で、子どもを指導する適切な方法について考えることの出来る人材を育成する。	a	0
				b	0.6
				c	0.4
				d	0
				e	0
				f	0
課程及び方法・技術口情報機器及び教材の活用を含む	授業では、①教育課程・方法の意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。	「基盤教育科目」の中の教育学部「専門導入科目」の必修科目であり、教員免許を取得するための必修科目である。学修・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」と深い関連がある。	(1)教育課程とは、学校による子どもの人格形成設計ないしは子どもの人格と学力の統一の発達のプログラムであることがわかる。 (2)教育方法は、子どもの実態の指導の方向性により創造されるものであることがわかる。 (3)情報機器の教育的利用の意義を理解し、的確に利用することができる。	a	0
				b	0.6
				c	0.2
				d	0.2
				e	0
				f	0
特別支援教育基礎論	本授業では、主として初めて特別支援教育を学ぶ人を対象に、障害の捉え方、障害を有する子どもたちの発達特性と教育の基礎的な事項について概説し、特別支援教育についての基本的知識の獲得と関心を深めることを目的としている。本授業は、これから特別支援教育の専門科目を学ぶための入門編となる内容であるとともに、特別支援学校での介護等体験に参加する学生にとっては、障害を有する子どもたちに対する基本的な理解を深めるための事前指導(事後指導)となるように留意しているものである。	教員免許取得のための選択必修科目であるが、特別支援教育は、学校種や科目を越えて、教師を目指すすべての人が学ぶべき事柄であると思われる。また、特別支援教育専攻の専門科目へ導く基礎的な内容でもある。学修・教育目標のうち、特に(B)と深い関連がある。	障害の捉え方、障害のある子どもたちの教育制度や障害を有する子どもたちの発達特性など基礎的な事項について理解・説明することができる。	a	0
				b	0.4
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
生涯学習概論	教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて、受講者自身が考えていけるように講義する。	講義を受けている時間だけが学習時間だと限定してしまふことなく、日常生活の中で普段から、「いつでも、どこでも、だれからでも、なにからでも、どのようにも」自ら学び取っていく食欲さを持つようにする。学修・教育目標のうち、特に(E)と深い関連がある。	授業で重視している目標は、①生涯学習および社会教育についての基礎知識の習得、②生涯学習時代への主体的・能動的対応として「考える方法」を考えること、③生涯学習実践の中心的課題として「自分自身を学ぶ」ということの学習、の3点である。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.5
				f	0.1
現代福祉事情	社会福祉法では、地域住民の参加による地域福祉の推進や個人の選択に基づくサービス利用への移行が定められている。つまり、ひとりひとりが、地域福祉を作っていく主体であり、また、自分が利用したいサービスを自ら選択していく主体となった。そこで、この授業では、みなさんが、地域福祉を作り、自ら利用する主体として、福祉を考えていく上で必要な知識や考え方を身につけてもらえるような内容で授業をすすめる。	専門科目の学習に必要な現代社会に対する科学的な視点を醸成する。学修・教育目標のうち「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・福祉を自分の問題として理解し、ニーズに応じた福祉サービスが選択できるための知識を身につける。 ・現代社会で起きている様々な社会的な問題の背景を理解する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0
				e	0.6
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
環境教育	この授業では環境、環境問題および環境教育の基礎について理解を深めます。	現代社会の直面する課題について理解を深め、判断力を養う。専門教育学修・教育目標のうち特に (E) に深い関連がある。	環境問題についての一般的な知識を獲得することと、環境教育の意義と方法について基礎的理解ができるようになります。	a b c d e f	0.2 0.1 0.2 0 0.3 0.2
情報教育	小・中・高等学校の全ての教員に必要な情報教育の基礎について講義・演習します。具体的には情報教育の目標・内容、教育の情報化の状況、情報活用能力の育成、情報モラル等について取りあげます。また、教科の学習指導へICTを活用する基礎的な方法について演習します。	現代社会での活躍に必要なリテラシーに基づく行動的知性の基礎と教職・教科に関する知識を修得し、発達段階に応じた教材の工夫や多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。学修・教育目標のうち、特に (A) と深い関連がある。	本授業の到達目標は、次の通りです。 ・学校教育における情報化の状況と情報教育の目標・内容を説明することができる。 ・学習指導へICTを活用する基礎的な方法が身につけている。	a b c d e f	0.3 0 0 0 0.2 0.5
グローバル化と外国人児童生徒教育	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。	教職に関する共通の・基礎的内容の学習をふまえ、現代的教育課題に的確に対応するための発展的内容であるが、国際的に活動する人材の開発にかかわる内容でもある。学修・教育目標のうち、CとEと深い関連がある。	(1) 外国人児童生徒教育の現状と課題がわかる。 (2) 外国人児童生徒教育問題の論点がわかる。	a b c d e f	0 0 0.5 0 0.5 0
教育行政学	教育行政の基本原則と制度を概説し、それらが教育政策にどのように反映されているか、またどのような問題・課題を抱えているかについて具体的なデータや事例をもとに講義をする。	教育免許状取得に必要な選択必須科目であり、「教育の基礎理論に関する科目」のうち「教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する科目」に属している。学修・教育目標のうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」と深い関連がある。	・公教育の理念と制度に関する基礎的知識を習得する。 ・中央・地方の教育行政の具体的な姿と課題について理解する。 ・公教育の権限関係、地方分権、学校の自立性、教育財政などをめぐる今日的課題について理解し、自分なりに考察することができるようにする。	a b c d e f	0 0.6 0 0 0.3 0.1
教育制度	公教育制度の基本原則と役割、発達段階に応じた教育制度の歴史、構造、理念、現状、課題について講義を行う。	教育免許状取得に必要な選択必須科目であり、「教育の基礎理論に関する科目」のうち「教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する科目」に属している。学修・教育目標のうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」と深い関連がある。	・日本の教育制度の歴史、構造、理念、現状、課題について基礎的な知識を習得することができる。 ・自分の経験と客観的な事実を重ね合わせて様々な教育事象を捉え、考察することができる。	a b c d e f	0 0.6 0 0 0.3 0.1
生涯学習社会論	現代的課題に係わる具体的事象を生涯学習・社会教育の視点から検討していくことによって、生涯学習社会の諸相を明らかにしていく。そのことを通じて、社会的諸事象から「学習」の要素を導きだしていく。この授業では、生涯学習社会を支える市民としての自己教育と相互教育によって自らを高めていくことができる力量の形成を目指す。	この科目は社会教育主事資格を取得する際に必要な科目である。生涯学習概論も履修することによって、社会教育主事資格取得に必要な科目となる。学修・教育目標のうち、特に (B) と (C) に深い関連がある。	生涯学習、社会教育の本質について理解を図るとともに、主として学校と地域の連携をベースとした学校との関係性の中で生涯学習社会をとらえ直していく。①社会教育・生涯学習の違いを明確に説明できる。②小集団学習、共同学習を体験的理解し、小集団で話し合うことができる。③社会的事象から、学習要素を抽出し何が社会教育なのかを具体的に説明できる。④映像教材から、学習の要素を抽出し、それらをまとめることができる。⑤学校と地域の連携の必要性を説明できる。	a b c d e f	0 0.3 0.3 0.1 0.1 0.2
教育社会学	個人と社会の関係を教育現象に着目することで考える。	教育免許状取得に必要な選択必須科目であり、「教育の基礎理論に関する科目」のうち「教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する科目」に属している。学習・教育目標のうち、A、B、Eの項目と深い関連がある。	教育を、個人の視点からだけではなく、社会というレベルで見られるようになる、つまり社会学的な見方で見られるようになること。	a b c d e f	0.4 0.3 0 0 0.3 0
道徳教育	本授業では、学校における道徳教育の理論と実際を学ぶと共に、小中学校での「特別の教科 道徳」における授業理論及び指導方法について理解を深め、「特別の教科 道徳」を指導する授業者としての基本的な技能を習得することを目指す。今日、道徳性を養う道徳教育の重要性が叫ばれる一方で、実際に行われる道徳授業の形骸化などの問題が指摘されている。このことも踏まえ、豊かな心を育み、児童生徒にとって魅力ある「特別の教科 道徳」の在り方について考えていきたい。	「課程共通科目Ⅰ」の「C共通教職」の必修科目である。小中学校の教員免許を取得するための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	学習指導要領における道徳教育の目標及び「特別の教科 道徳」の特質について理解できる。「特別の教科 道徳」の理論と指導方法について理解できる。 学習指導案を作成し道徳授業を構想することができる。	a b c d e f	0 0 0.4 0.6 0 0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
特別活動論	授業では、特別活動の意義、歴史的背景、現状、論点について講義を行う。	教職に関する基礎的科目の一つであり、「教育原論」等の共通的・入門的内容の学習をふまえ、学校の教育課程の構成及び内容に関して学習する。学修・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	(1) 特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事から構成されていることがわかる。 (2) 特別活動では、学校・学級における児童・生徒の共同の生活の向上や理想・利益の追求に取り組み、人権・人格を尊重し、統制的能力を形成し、広範多様な交友関係を育成・拡大し、市民社会を視野に入れた道徳性・文化性を発達させることが重要であることがわかる。 (3) 特別活動の指導にあたっては、①教師が直接に組織的・集团的活動を指導する、②児童・生徒の自発的活動を指導する、③個別の相談・指導、④子ども相互の交友・交際の指導を組み合わせて指導を行うことがわかる。 (4) 特別活動の指導計画・学習指導案を適切に作成することができる。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.6
				e	0
				f	0.1
生徒指導・進路指導	児童・生徒の健全な発達の促進と、彼らの充実した学校生活を援助するための教育活動に役立つ理論と方法を「学習指導」「適応指導(教育相談を含む)」「進路指導」などの諸側面に大別した上で、個別の具体的なテーマについてそれぞれ解説していきます。	教員になった場合に、学校教育で必要とされる生徒指導・進路指導の基礎となる考え方や関連する現象についての知識を網羅的に習得することを旨とする。専門教育学習・教育目標のうち(B)と深い関連がある。	生徒指導・進路指導(生徒のよりよい発達の促進と、充実した学校生活を援助するための教育活動)に関するさまざまな現象の理解を深めます。	a	0
				b	0.6
				c	0.2
				d	0
				e	0.2
				f	0
教育相談	教育相談に関連した「子ども理解の諸側面」を学び、「教師として関わることの意義と問題点」「他者や他機関とのつながり」についても学ぶ。カウンセリングや行動療法的改善等の「実際の関わり方」についてもミニ実習する。	本授業は、学校教育教員養成課程の教職に関する科目(課程共通科目I)であり、また総合人間形成課程人間発達領域の領域専門科目である。各課程や領域の専門性を高めるという目標に対応している。専門教育学習・教育目標のうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」、「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」及び「(F) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	教師という立場から子どもの心理的な側面をつかみ、働きかけることの重要性を実感する。自らが教師になる際にそのような意識をしっかりと持てるように基本的な知識や視点を習得する。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0
				e	0.3
				f	0.3
国語	オムニバス形式で開設する。それぞれの学問分野の専門性に基づいて、教育現場に即した事例・教材の提示・解説を行い、小学校で国語を教える際に必要な、日本語・書写に関する基礎的知識、文学的教材を扱う際の基礎的技能を具体的に講義する。	小学校教員免許取得のための免許法指定科目「国語(書写を含む)」に対応する授業科目として開設する。「国語」という教科の特色・意義を、「書写」「国語学」「国文学」の3分野を通して学び、小学校で国語を教える際に必要な態度・知識・技能を修得する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・「国語」の特色と意義について深く理解する。 ・小学校の教員として必要な「書写」の指導法に関する基礎的な知識を修得する。 ・小学校で国語を指導する際に必要となる、「日本語」に関する基礎知識を修得する。 ・小学校「国語」で「文学的教材」を扱う際に必要となる態度・知識・技能を修得する。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
算数	本授業では、教科の中で我々が慣れ親しんでいる「数」や「図形」について、その性質を数学の立場から考察し、数や図形のもつ面白さや奥深さについて講義する。また、それら数学的背景を踏まえ、具体例をもとに教科内容の必要性・重要性を深める。	小学校教員免許取得に必須の科目である。本授業では、教科内容の数学的背景を探り、それらの学校教学における重要性について、専門的理解を深める。学修・教育目標のうち(B)および(C)と深い関連がある。	・算数科の内容である「数」と「図形」に関して、数学的背景が分かる ・教科内容としての重要性の理解を深める	a	0.1
				b	0.6
				c	0.3
				d	0
				e	0
				f	0
社会	小学校教科「社会科」の基礎となる学問諸分野(社会学・地理学・歴史学・倫理学・国際理解分野等)における問題をそれぞれとりあげ、初等教育および中等教育の「社会科」を教えるための基礎教養を提供する。複数名の教員が交替で講義する。	学校教育教員養成課程における学部専門教育科目の必修科目である。小学校教科「社会科」の基礎教養を提供する授業である。学修・教育目標のうち、A、Dの項目と深い関連がある。	・「社会科」の授業で扱う内容について、関連する学問諸分野の見方、考え方を学ぶ。 ・「社会科」の実際の授業展開に必要な教養を身につける。	a	0.5
				b	0
				c	0
				d	0.5
				e	0
				f	0
理科	小・中学校の教科書を大学生の目で見直すと、小・中学校当時には見る事ができなかった側面が見えてくる。すなわち小・中学生に比較して幅広い体験を有する大学生には、小・中学校生徒とは異なった切り口から小・中学校の教科書記載の内容の考察が可能となる。本講義では小・中学校教科書記載の課題の中で、特に論理的思考力を要する課題を取り上げる。	小学校教員免許取得に必須の科目である。小学校教科理科の自然科学的背景を探り、専門的理解を深める。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(E)と深い関連がある。	理科教育の目的のひとつは自然現象を理解し、論理的な思考力を培うことであり、本講義でもそれらを目標及びねらいとする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
生活	生活科教育の基礎となる社会・自然・表現などの学習的背景を捉えるとともに、生活科の活動を構成する観察・製作・表現などにおけるさまざまな「気づき」や求められる技法等を実践を通して身に付ける。また、生活科における学習概念ならびに評価の在り方をとらえ、本学教育学部附属小学校における生活科授業参観を行うなどして、学習指導案作成の手順など教育現場に直結した講義を通して生活科への理解を深める。	小学校教員免許取得のため必要性が高い。生活科教育法との関連をもたせるとともに、小学校教科専門として位置づけられている。専門教育学習・教育目標のうち (D) と深い関連がある。	授業の内容で示したような生活科への理解を深めることができること。また、各教員の授業において、それぞれ到達目標が示される。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
家庭	消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から家庭生活に関して講義する。消費生活領域については、悪徳商法などについて取り上げる。食生活領域では、食に関する基本的な内容について取扱い、食育についても取り上げる。衣生活領域については、着ることの意味を考えながら、衣生活について概説する。住生活領域については、小学校家庭科における住生活の学習に関する基礎、及び住生活と個人、住生活と家庭との関係を概説する。	学習・教育目標の（小学校教員免許取得に必須の科目）である。本授業では、家庭生活について、家政学としての専門性に基づいた上で、実践的な理解を深める。学修・教育目標のうち「(D)教科・教育課程における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」と深い関係がある。	消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から、家庭科教員として必要な家庭生活について理解を深める。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.2
音楽A	小学校の教員が音楽科の授業を行う際に必要な楽典（楽譜の読み方等）、楽器（鍵盤ハーモニカ、リコーダー、打楽器など）の奏法、簡単なソルフェージュ（リズム打ち等）や歌唱について扱う。	小学校教諭免許取得に必須の科目。小学校教員になるために必要な音楽実技を修得する。学修・教育目標のうち、特に (D) と深い関連がある。	実技等の実践を通して、小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能を修得する。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.2
				f	0.1
音楽B	小学校の教員が音楽科の授業を行う際に必要な歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌いの指導と、簡易伴奏法、楽典の指導などを行う。	小学校教員養成課程の音楽における歌唱指導に必要な音楽の実技と楽典の知識を修得する。専門教育学習・教育目標のうち「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、及び「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	実技の実践等を通して、小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能の修得をめざす。小学校音楽の歌唱共通教材をすべて弾き歌いができるよう演奏実技の習得とレパートリーの拡充を目指す。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
図画工作	小学校図画工作の学習指導に関して、授業題材の全体像の理解ができるよう学修内容を配列している。学習指導要領を基礎に、図画工作科の「表現（絵や立体）」「表現（造形遊び）」「鑑賞」各領域について、実技制作を軸に適宜講義を取り入れて、その教育方法や今日的課題、また、授業実践の視点と図画工作の理念を解説する。	小学校図画工作科学習指導の素養を身につけ、実践のための能力を育成する。児童が取り組む表現や鑑賞に関する理念・理論から実践の全体像の形成を目的としている。学修・教育目標のうち、特に (B) と (C) に深い関連がある。	小学校図画工作科の内容について、学習指導要領や教科書の記述などを基礎に理解を深め、題材例の実技実践から創造的且つ個性や主体性に根ざした図画工作の学習を担う能力を身につけることを目標とする。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
体育	小学校体育で実施される陸上運動、器械運動、体づくり運動、ボール運動、表現運動および水泳の基本的な技能とその指導法を学ぶ。	本授業は、学校教育教員養成課程専門教育科目の必修科目であり、小学校における体育指導の専門的知識と技能を学び、実践的指導力を体得することを目標とする。学修・教育目標コードのうち、特に (C) (D) (E) と関連がある。	本授業の目標は、小学校体育で実施される陸上運動、器械運動、体づくり運動、ボール運動、表現運動および水泳の基本的な技能とその指導法を習得し、それらの指導能力を身につけることである。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
初等国語科教育法	小学校教科「国語」についての、教材研究法及び指導法について講義する。文学教材や説明的文章教材等、教科書教材を使って教材分析を行い、教育内容の抽出を行う。また、発問や学習活動の設定等の指導法についても、具体的な教材をもとに講義する。	小学校教員免許取得に必須の科目。小学校段階の言語発達に応じた教育内容及び教育方法について学ぶ。同時履修となる教科科目「国語」で教科内容の専門的理解を行うのに対し、ここでは教職としての観点から、教材分析及び指導法の基礎的スキルを修得する。「学修・教育目標」のうち、(B)、(D)に関連する。	・小学校国語における教材分析法の基礎的な知識・技能を修得する。 ・発問の仕方や指導案及び授業展開の仕組み等の、指導法の基礎について理解する。 ・児童の言語発達についての理解を深める。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
算数科教育法	小学校算数科の学習指導に関わる基本的な知識の修得をねらい、算数科の目標、内容、指導方法、評価について、具体的な教材を例に挙げながら講義する。	小学校教員免許取得に必須の科目である。教科科目「算数」で教科内容の専門的理解を深めるのに対して、ここでは、教職の観点から、児童の発達に即した算数の学習指導の基本的事項を学ぶ。学修・教育目標のうち (B)、(C) および (D) と深い関連がある。	・算数科の目標、内容、指導方法、評価についての基礎的な知識・技能を修得する。 ・指導案や授業展開の仕組みなど、指導法の基礎について理解する。 ・児童の算数の学習指導上の実態についての理解を深める。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.4
				e	0
				f	0



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
初等社会科教育法	小学校教科「社会」に関する教育目的・内容・方法について講義する。具体的には、小学校社会科に関する諸問題を取り上げるとともに、発問や授業構成の方法についても実際の授業場面をもとに講義する。	小学校教員免許取得のための必修科目である。教科科目「社会」で教科内容の専門的理解を行うのに対し、本授業は教職科目として小学校社会科の指導法についての基礎的知識・技能を修得する。学修・教育目標のうち、特にC・Dと深い関わりをもつ。	・小学校社会科の現在・歴史や諸問題について、具体的な教材や実践例をもとに理解する。 ・授業構成および方法についての基礎的知識・技能を修得する。	a	0
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
初等理科教育法	小学校理科に関わる目的・内容・方法等について、学習指導要領の解説、教材、授業づくりなどに関する講義を行い、精選された題目についての観察・実験を行う。	この科目は、学部専門教育科目の小学校教科教育法に関する必修科目である。小学校理科の学習内容及指導方法についての基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち(B)及び(D)と深い関連がある。	・小学校理科の学習内容について理解を深める。 ・小学校理科の指導方法について理解を深める。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
生活科教育法	生活科の設置の背景、教科の特質、低学年児童の心理的特質、社会認識・自然認識の発達の特質などを明らかにし、生活科の指導計画の作成、教材づくり・環境構成や指導と評価の基本的在り方について講義する。	小学校教員免許を取得するための選択必修教科教育法である。低学年の発達段階に応じた教育内容及び教育方法について学ぶ。年間計画の作成、教材分析、単元計画等、教職としての基礎的技能を取得する。学修・教育目標のうち「(C)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」と深い関連がある。	・低学年児童の自己認識、社会認識、自然認識の様式を理解できるようにする。 ・生活科の指導計画の作成、教材づくり・環境構成・指導と評価について、基礎的技能を取得する。	a	0
				b	0.1
				c	0.6
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.1
初等家庭科教育法	小学校の家庭科教育の位置づけの変遷を歴史的に概観し、教科観について検討するとともに実地指導講師等による授業実践例をもとに授業案をつくり、小学校家庭科の基本的な知識を学びます。	この科目は、学部専門教育科目の小学校教科教育法に関する必修科目である。小学校家庭科の学習内容及指導方法についての基礎的な理解を深めることを目標とする。学習・教育目標のうち「(A)質の高い英語力の基礎や心身の健康の重要性の理解等、現代社会での活躍に必要なリテラシーや幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく」、「(B)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」、「(C)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」、「(F)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる」と深い関連がある。	初等教育における家庭科教育の位置づけ、教育目標、教育内容、領域、学習形態等、家庭科の教科としての特徴を理解し、授業例が手掛かりに指導案の作成を行い、家庭科の授業をつくる力をつけることを目標とします。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.2
初等音楽科教育法	小学校における音楽科について、目標、内容、領域、歴史などを扱うとともに、指導に必要な知識・技能を修得するための演習や演奏等も行う。	小学校教諭免許取得に必須の科目。小学校の発達段階に応じた教育内容・方法を修得する。専門教育学習・教育目標のうち、「(B)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」、「(C)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」、「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」、「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」、「(F)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	小学校における音楽科について、目標、内容、領域、歴史などを理解するとともに、指導に必要な知識・技能を修得する。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
図画工作科教育法	小学校図画工作科に関する基礎的事項について取り上げる。学習指導要領や図画工作の現況および今日の諸課題、また、理論と歴史などから抽出される学的諸問題、題材に関する考察などから図画工作の教科性を解説・講義する。	図画工作科の今日的課題と役割について問題意識を高め、小学校教員としての基礎的能力を育むことに対応している。学修・教育目標のうち、特に(C)と深い関連がある。	図画工作、美術教育全般の諸課題や美術そのものへの知見を拡げ、学校教育における図画工作科の位置づけと成り立ちを理解するとともに、小学校教員として教科の特性に即した学習指導を行うことができる教育観の醸成を目標とする。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
初等体育科教育法	発育発達をふまえながら小学校体育の学習・指導のあり方を概説し、その実践例に触れ、指導法を理解する。	学校教育教員養成課程共通科目における小学校教科教育法の選択専門教育科目として、小学校の教員に求められる体育科指導における知識や技能を身に付ける科目としての意義を持つ。 学修・教育目標コードのうち、特に(C)(D)と関連がある。	・体育に必要な基礎的知識を理解することができる。 ・体育における基礎的な指導方法を理解することができる。 ・体育の指導計画および学習指導案を作成することができる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
ものづくり教育	ものづくりを通して、その奥に隠されている原理、原則を知り、生活にどのようにして役立てられているのか、ものづくりを通して知見を広めることに主眼をおく講義とする。	小学校ものづくりに技術的素養を高めるためのPCDAを行う。学修・教育目標のうち、特に(B)と深い関連がある。	・ものづくりは人間形成に役立ち物事の順序・コミュニケーション力および人との和を理解できるようになる。 ・一人一人がものの価値を知り、製造から廃棄までのことを考えられ、製品を選択できるようになる。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
「子どもと教育」探究講座	家庭教育及び幼児教育、小学校、中学校、高等学校、地域社会の教育に関する諸制度や教育の現状、課題等について理解を深め、子供達の「生きる力」を育む教育の在り方について探求する。	小・中・高等学校の教員免許を取得するために必要な”教職”に関する選択必修科目である。学修・教育目標のうち、特に(C)と深い関連がある。	家庭教育、小学校、中学校、高等学校、地域社会における教育の課題及びそこで求められる資質・指導力とは何かを理解することができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.2
スクールソーシャルワーク論	スクールソーシャルワークの歴史および意義、実践理論と方法を学ぶことを通じて、現代社会において複雑化する子どもをめぐる課題に対処するための心構えや、多様な機関・組織との連携の必要性を理解する。	学修・教育目標のうち「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	今日の学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解し、ソーシャルワークの基本を身につける。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0
				e	0.6
				f	0.1
総合学習の指導	小・中・高等学校で実施されている「総合的な学習の時間」の学習指導を実践するための基礎的な知識・技能を習得します。	小・中・高等学校の教員免許を取得するために必要な”教職”に関する選択必修科目であり、教育学部の教育目標”教職・教科に関する知識を習得し、自らの専門分野について深く理解する”に対応しています。具体的には、教員に求められる「総合的な学習の時間」に関する知識、指導法、評価法を修得し、課題解決の意義を知ることをめざします。学修・教育目標のうち特に(B)と深い関連がある。	従来の総合学習の理論や実践を概観するとともにカリキュラムにおける統合や教育方法の特質を理解することが大切です。その上で、小・中・高の各学校における「総合的な学習の時間（以下 総合学習）」が設置された背景やねらい、その教育的意義について理解を深めるとともに、総合学習の実践事例等を参考に指導上必要な基本的な考え方を身に付けることを到達目標としています。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0.6
				e	0.2
				f	0
野外教育	野外教育は、今日の文明社会で共通体験として望まれる豊かな自然環境のもとでの児童生徒たちの体験活動の指導の基本について理論的かつ実践的に学ぶことを目的とする。小・中学校教育の場では、自然体験活動を一層長期にわたって実施する取り組みが進められ、これら学校のすべての教員にこの種の体験活動を指導する能力が求められている。	児童生徒の自然体験不足や人間関係能力の未成熟などの問題が指摘されている今日、自然の中で、いかんにして児童生徒の自主的な集団活動を創り出し、指導していくかについて実践的に学ぶ本科目は、教職課程の目的達成のために重要な現代的科目といえる。学修・教育目標のうち、特に(B)～(F)に深い関連がある。	○自然の中での諸活動を自ら行う知識及び技能。 ○子どもに応じて自然の中で積極的に活動する態度を育てるための基本的知識及び技能。 ○活動の中で得られる体験的知識と教科等の学習内容を適切に結びつける基本的知識。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
健康教育	児童生徒の健康と安全についての知識を主体、環境、行動の面から総合的に学ぶ。また、学校や地域などの現場で健康教育の指導者として身につけておくべき理論や指導方法についても学ぶ。	基盤教育課目の中の専門導入科目であり、小・中・高等学校における児童生徒の問題となっている体力低下、健康問題や疾病予防に関する基礎的な知識を養成する。学修・教育目標コードのうち特に(B)(C)(D)(E)と関連がある。	・子どもの心身の健康に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。 ・子どもの健康を守り、育てるための理論や方法について理解している。 ・学習した知識を基に、学校現場や地域で実践できる能力を身につけている。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
小学校外国語活動の理論と実践	小学校外国語活動の基礎を理論と実践の両面から学ぶ。	教員採用条件として重要視されている小学校外国語活動の指導技術の基礎を身につける。教員養成課程の選択必修の専門導入科目である。学習・教育目標コード(B)(D)と特に関係が深い。	小学校での実践を分析、検討し、現実即した授業を計画・実施・振り返りの意欲が身につけている。小学校外国語活動の実践に必要な基礎的知識、授業実践に関しての考察力、現実即した授業を計画・実施し、それを振り返り、さらに授業改善ができる基礎能力が身につけている。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
事前・事後指導	主に教育実習Ⅱの事前指導として、実習の心構えと勤務、教員の服務、学校の教育課程等について学ぶ。また同実習の事後指導として、実習についての反省等をレポートとして作成し、それに基づく討論をおこなう。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、教員免許取得のための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち(E)と深い関連がある。	実習をおこなうために必要な教員の服務規程、学校の教育課程、指導案の作成の方法等について知る。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.5
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
小学校・中学校教育実習Ⅰ（小）	学校現場を実地に観察することを通して、実際の授業のあり様、子どもの学校生活の実態などを知る。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、教員免許取得のための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	学校現場の観察・参加を通して教育実習Ⅱに向けての意欲を喚起し、これから学ぶ事柄の課題設定を行うことができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2
小学校・中学校教育実習Ⅰ（中）	学校現場を実地に観察することを通して、実際の授業のあり様、子どもの学校生活の実態などを知る。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、教員免許取得のための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	学校現場の観察・参加を通して教育実習Ⅱに向けての意欲を喚起し、これから学ぶ事柄の課題設定を行うことができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2
小学校・中学校教育実習Ⅱ（小）	3週間の附属学校教育実習を行うことにより、授業の実際、子どもの実態、学校現場の状況に関する理解を深める。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、教員免許取得のための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	教職実習をおこなうことによって、教職の本質を理解し、またどのような学習・研究が今後求められるのかを理解する。教職に対してさらなる意欲をもつ。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2
小学校・中学校教育実習Ⅱ（中）	3週間の附属学校教育実習を行うことにより、授業の実際、子どもの実態、学校現場の状況に関する理解を深める。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、教員免許取得のための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	教職実習をおこなうことによって、教職の本質を理解し、またどのような学習・研究が今後求められるのかを理解する。教職に対してさらなる意欲をもつ。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2
小学校・中学校教育実習Ⅲ（小）	二週間の一般学校（公立小学校あるいは中学校）の実習をおこなうことによって、教職の本質についての理解を深める。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、教員免許取得のための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	教職実習をおこなうことによって、教職の本質をさらに理解し、実践的指導力をさらに向上させる。教職に対して、さらに一層の意欲をもつ。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2
小学校・中学校教育実習Ⅲ（中）	二週間の一般学校（公立小学校あるいは中学校）の実習をおこなうことによって、教職の本質についての理解を深める。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、教員免許取得のための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	教職実習をおこなうことによって、教職の本質をさらに理解し、実践的指導力をさらに向上させる。教職に対して、さらに一層の意欲をもつ。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2
特別支援学校教育実習	附属特別支援学校における実習を通して、特別支援教育に関わる実践的指導力を身につける。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、「特別支援学校」の免許を取得するための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	教職実習をおこなうことによって、特別支援教職の本質を理解し、またどのような学習・研究が今後求められるのかを理解する。特別支援学校の教職に対してさらなる意欲をもつ。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2
幼稚園教育実習	幼稚園における教育実習を通して、幼稚園教育に関わる実践的指導力を身につける。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実習で、幼稚園教諭免許のための必修科目ではないが、幼児理解、実践的指導力を育むために履修を推奨する科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	教職実習をおこなうことによって、幼児教育の本質を理解し、またどのような学習・研究が今後求められるのかを理解する。幼稚園の教職に対してさらなる意欲をもつ。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
教職入門	教職の意義について考え、教師という仕事や学校教育の現状に関する基本的な内容を扱う。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実践総合科目で、教員免許取得のための必修科目である。教職に関する基礎的な知識を獲得するとともに、主体的に物事を考察する基本的な態度・意欲を養う。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	・教職に対する関心を深め、教員が学校で行っている仕事について理解をする。 ・教職に対する意欲を喚起する機会とする。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.1
教職ボランティア入門	主に小学校での授業支援などを行うことにより、教職の意義、教員の役割、職務内容について理解を深めることをねらいとする。大学における事前指導、中間・最終振り返り活動を含む。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実践総合科目で、選択科目である。教職に関する基礎的な知識を獲得するとともに、主体的に物事に取り組む態度・意欲を養う。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	1. 教員として児童生徒と積極的に交わり、児童生徒理解を深める。 2. 体験を通じて、教科指導、生徒指導、学級経営等の教員の職務について理解を深める。 3. 学校現場で活動する喜びを感じ、教職志向を高める。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.1
教職実践演習	これまでに習得した理論的知識、実践的指導力を基に、主に模擬授業・研究授業等の実践を通して、子ども理解、教職への使命感・責任感、教育的愛情、対人的関係能力、教科指導にかかわる資質を向上させる。	学部専門教育科目の教職実践総合科目で、教員免許取得のための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	模擬授業・研究授業等の実践を通して、子ども理解、教職への使命感・責任感、教育的愛情、対人的関係能力、教科指導にかかわる自らの資質能力を振り返り、最終確認する。それにより、教職に対して自信を持って臨めるようになる。	a	0
				b	0
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.4
				f	0.2
教育実践インターンシップ	学校等の教育関係施設において、その管理下にある指導者のもとに、放課後の学習支援、授業や部活動の補助など、さまざまな体験的活動を行い、大学で行われる「振り返り」に参加することで、自らの体験を省察する。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実践総合科目であり、選択科目である。専門教育学習・教育目標のうち「（E）他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	・学校等の教育関係施設における体験とその省察により、教員としての実践的指導力の一端を身につける。	a	0
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0.4
				f	0.6
教育実践研究	附属学校あるいは一般学校等の教育機関において、大学の授業あるいは教育実習等で自覚したテーマ（教育内容、教育方法、教材研究に関わるもの等）について実践的に研究をおこなう。	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実践総合科目であり、選択科目である。専門教育学習・教育目標のうち（E）と深い関連がある。	学校現場において、自らの研究テーマを実践的に探求することを通して、理論と実践を統合する力、また省察する力を獲得する。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.2
教育哲学	今日の教育に関する諸概念を哲学的に吟味するために、過去のエデュケーションに関する基礎的な知識を修得する。	「学校教育専攻専門科目」の「教育学領域」の選択科目である。学校教育の基盤となる教育学を学ぶための科目である。学修・教育目標のうち「（B）学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」と深い関連がある。	・近代における教育思想の課題の構造を理解する。 ・今日の教育思想の構造の歴史的な成り立ちを理解する。	a	0
				b	0.6
				c	0
				d	0
				e	0.4
				f	0
視聴覚教育	小・中・高等学校の中で特に小学校教員に必要な視聴覚教育の基礎について講義・演習します。具体的には視聴覚教育の背景、目的、方法に関する内容や情報教育との関連について取り上げます。また、視聴覚教材を活用した授業設計や教材の基礎を演習を通して行います。	教育の情報化が進展する中、視聴覚機器を用いた視聴覚教育の在り方を再検討し、「分かる授業」とは何かを考え、専門的技能と幅広い表現力を身につけるとともに、実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる基礎的能力の修得を目指します。学修・教育目標のうち特に（D）と深い関連がある。	・学校教育における視聴覚教育の目的・内容を説明することができる。 ・視聴覚教育と教育の情報化との関連について説明することができる。	a	0
				b	0.1
				c	0.4
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
道徳授業論	本授業では、学校における道徳教育の理論と実際を学ぶと共に、小中学校での「特別の教科道徳」における授業理論及び指導方法について理解を深め、「特別の教科道徳」を指導する授業者としての基本的な技能を習得する。	「学校教育専攻専門科目」の「教育学領域」の選択科目である。学校教育の基盤となる教育学を学ぶための科目である。学修・教育目標のうち「（D）教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	学習指導要領における道徳教育の目標及び「特別の教科道徳」の特質について理解できる。「特別の教科道徳」の理論と指導方法について理解できる。学習指導案を作成し道徳授業を構想することができる。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0.6
				e	0.2
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
比較教育	諸外国の教育や学校の制度・態様を比較教育文化論的観点から学び、各国の特色を明らかにするとともに、それらとの比較を通して日本の教育・学校の特徴を浮き彫りにしていく。個人・グループによる発表と全員によるディスカッションを行う。	学校教育専攻の専攻専門科目（教育学領域）の一つとして、国際的視野から教育の歴史、現状、課題などの比較検討を行うことで、教育に関する幅広い教養と興味関心を喚起する。学修・教育目標のうち（E）学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・現在日本で問題になっている教育事情を国際的観点で考察できるようになる。 ・各自のテーマに沿って文献資料を元に発表資料を作成し、的確な発表を行うことができる。 ・発表内容について質問・意見を出すなど、議論に積極的に参加することができるようになる。 ・政治・経済・文化などと関連づけながら教育問題を考察できる能力を養う。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0
				e	0.6
				f	0.2
教育方法学	子どもたちがより深く学ぶことのできる学習環境を実現するために、学習環境デザインの基本的な考え方や改善のサイクルを習得する。	学校教育専攻の専門科目であり、校種、教育内容をこえて、学習環境デザインの視点から教育方法についての知見と実践力を養う。学修・教育目標のうち「（C）子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」と深い関連がある。	・学習環境デザインの主要な概念について、説明することができる。 ・学習者の学びを分析することができる。 ・学習環境デザインの視点から、協働学習をデザインすることができる。 ・学習環境デザインの視点を生かして、グループで模擬授業を実施することができる。	a	0
				b	0.1
				c	0.6
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.1
授業の研究	受講者による模擬授業とその省察「対話としての授業」という視点から、模擬授業の構想、実践、省察に関わる指導をおこなう。	学校教育専攻の専門科目であり、校種、教育内容をこえて、「対話としての授業」という視点から授業を自由に構想し、実践し、省察する力を育む。特に、授業の省察の過程では、教員と学生が協働して、他者を尊重し、共に支え合い、互いに高め合いながら、より望ましい教育内容・教育方法について検討を行っていく。学修・教育目標のうち「（D）教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	「対話としての授業」という視点から、模擬授業を構想、実践、省察することができる。	a	0
				b	0
				c	0.1
				d	0.6
				e	0
				f	0.3
カリキュラム論	授業では、①カリキュラムの意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。	学校教育専攻の専攻専門科目であり、課程共通科目「教育課程及び方法（特別活動を含む）」の学習をふまえて、カリキュラム概念・カリキュラム研究の動向に関して学習する。学修・教育目標のうち「（B）学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と深い関連がある。	・カリキュラムは教師と学校の働きかけの総体であるとともに、子どもの側からみれば「学びの経験」お総体であり、自主的・自発的活動の総体でもあることがわかる。 ・カリキュラムの構造は教科と教科外諸活動の2領域から成ることがわかる。 ・カリキュラム研究の動向と論点がわかる。	a	0
				b	0.6
				c	0.2
				d	0
				e	0.1
				f	0.1
教育と情報	小・中・高等学校の中で特に小学校教員に必要な情報教育の基礎について講義・演習します。具体的には情報教育の目標・内容、教育の情報化の状況、情報活用能力の育成、情報モラル等について取りあげます。また、教科の学習指導へICTを活用する基礎的な方法について演習します。	現代社会での活躍に必要なリテラシーに基づく行動的知性の基礎と教職・教科に関する知識の修得から教職への資質を高め、発達段階に応じた教材の工夫や多様な子どもの個性に即した指導や説明できる能力を育成する。学修・教育目標のうち特に（D）と深い関連がある。	・学校教育における情報化の状況と情報教育の目標・内容を説明することができる。 ・学習指導へICTを活用する基礎的な方法が身につけている。	a	0.1
				b	0
				c	0.4
				d	0.4
				e	0
				f	0.1
教育評価論	授業では、①教育評価の意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。	学校教育専攻の専攻専門科目であり、課程共通科目「教育課程及び方法（特別活動を含む）」の学習をふまえて、教育評価概念・教育評価研究の動向に関して学習する。学修・教育目標のうち「（B）学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と深い関連がある。	・教育評価は教師にとっては自らの教育実践をふりかえり、自己反省と自己点検を行う活動であり、子どもにとっては教師の評価活動をおして教師からあたえられる情報を契機に自らの学習活動を点検する活動であることがわかる。 ・教育評価研究の動向と論点がわかる。	a	0
				b	0.6
				c	0.3
				d	0
				e	0
				f	0.1
教育統計学	教育統計を活用して我が国や諸外国の教育の特徴を調べるための基礎的な知識を修得する。	「学校教育専攻専門科目」の「教育学領域」の選択科目である。学校教育の基盤となる教育学を学ぶための科目である。学修・教育目標のうち「（E）学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・国内の教育統計を活用して我が国の教育の経年変化の状況を調べる方法を修得する。 ・国際的な教育統計を活用して我が国の教育の国際的な特徴を調べる方法を修得する。	a	0
				b	0.4
				c	0
				d	0
				e	0.6
				f	0
幼児教育の方法 I	乳幼児教育は、「子どもがよりよく生きる」ことへの援助活動であるとされているが、日常的な営みとして無意識的に行ってきた援助活動を、自覚的に筋立てて研究しようとするところから幼児教育方法への関心が生まれてきた。この授業では、指導の背景にある保育観や子どもの発達との関連について追求するとともに、乳幼児の生活や遊びを通しての保育方法を具体的に実践的に学ぶことを目的とする。	「学校教育専攻専門科目」の「教育学領域」の選択科目であり、幼稚園教諭免許取得の必修科目である。学修・教育目標のうち「（C）子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」と深い関連がある。	幼稚園教諭として幼児教育を実践する上で必要な知識を身につけ、具体的に展開するための応用力を養うことを目標とする。	a	0
				b	0.1
				c	0.6
				d	0.2
				e	0.1
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
幼児教育の方法Ⅱ	乳幼児が置かれている状況の理解、幼稚園・保育所と地域との連携による乳幼児教育・保育の推進に焦点をあてて、今求められている幼児教育の方法について理解を深める。	「学校教育専攻専門科目」の「教育学領域」の選択科目であり、幼稚園教諭免許取得の必修科目である。学修・教育目標のうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	幼稚園教諭として幼児教育を実践する上で必要な知識を身につけ、具体的に展開するための応用力を養うことを目標とする。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.6
				f	0.1
シテイズンシップ教育論	シテイズンシップ教育の理解、注目が集まるようになった背景、授業でどのように実践していくかなどについて理解を深める。	「学校教育専攻専門科目」の「教育学領域」の選択科目である。学修・教育目標のうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	現代社会で必要とされているシテイズンシップ教育の理解と学校で実践していくために最低限必要な知識と技術の基礎を身につけることを目標とする。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.6
				f	0.1
教育学演習Ⅰ	学校教育の課題とその改善方法に関する文献調査の練習を通して、卒業研究のための基礎能力を養成する	学校教育分野の専門科目であり、自身の研究テーマに必要な基礎・基本を習得するための科目である。学校教育に関する様々な課題や理論に関心を持ち、探求する力を養成する。学修・教育目標のうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」と深い関連がある。	自分の関心に応じた卒業論文のテーマを見つける。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.6
				f	0
教育学演習Ⅱ	学校教育の課題とその改善方法に対する具体的な解決策を検討を行い、全体で検討する。	学校教育分野の専門科目であり、自身の研究テーマに必要な基礎・基本を習得するための科目である。学校教育に関する様々な課題や理論に関心を持ち、探求する力を養成する。学修・教育目標のうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」と深い関連がある。	(1) 現実の教育問題と教育(学)研究の課題を区別することができる。 (2) 先行研究を検討し、適切に分析枠組みを設定することができる。 (3) 要点を的確にまとめ、報告することができる。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.6
				f	0
発達心理学	生涯発達心理学の視点により、人間の心の問題について理解を深めていく。まず、発達の過程における諸原理や事象を概説し、その後それぞれの発達段階における発達課題と心の問題の関連について考える。	・学校教育専攻の専門選択科目である。乳幼児期から青年期までの発達を生涯発達との関連の中で、その様相とメカニズムについて学ぶ。 ・学修・教育目標のうち (D) と深い関連がある。	・生涯発達心理学の立場から、現実の幼児・児童・青年の行動と心を理解する手法と能力を身につける。 ・発達段階に応じた幼児・児童生徒の特性について基礎的な理解を深める。	a	0
				b	0
				c	0.2
				d	0.6
				e	0.2
				f	0
学習心理学	この授業では、人や動物を対象とした学習・認知における基礎的な内容について講義を行う。その際、理論の変遷も追いながらこれまでの研究の知見を紹介する。適宜、実験のデモンストラーションや周りとの議論の時間も取り、伝統的な方法論から最新の研究まで紹介する。	学校教育専攻の選択専門科目の1つである。必修科目である「教育心理学」における学習と学習指導に関する内容を深めます。学修・教育目標のうち、特にBと深い関連がある。	授業を通して、学習・認知の仕組みについて理解をする。さらに、その知識を使って指導法・教授法や教材開発についての、教員として必要な技能を養成する。	a	0
				b	0.6
				c	0
				d	0.4
				e	0
				f	0
臨床心理学	本授業では、臨床心理学の基礎知識として、心理的問題や精神障害について代表的なものをつか取り上げ、それぞれの症状にはどのようなものがあるか、また、どのように形成・維持・変化すると考えられているかについて、生物的・心理的・社会的視点から講義する。	本授業は、学校教員養成課程の学校教育専攻専門科目に含まれ、専攻の専門性を高めるという目標に対応している。学修・教育目標のうち (B) や (C) と深い関連がある。	・心理的問題や精神障害の操作的定義およびメカニズム論について、最低限の知識を身につけること。 ・学びを通して、人間を多次的・統合的に捉えられるようになること。	a	0
				b	0.6
				c	0.4
				d	0
				e	0
				f	0
人格心理学	人格心理学に関する基本的事項(性格の類型と特性、性格検査、人格発達、人格障害)を講義する	・本授業は、学校教員養成課程の学校教育分野専門科目に含まれ、分野の専門性を高めるという目標に対応している。 ・学修・教育目標のうち (B) や (C) と深い関連がある。	人格についての基本的な知識や見方を習得すること。	a	0
				b	0.6
				c	0.4
				d	0
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
学級集団の心理学	学校教育での学級経営に寄与するような社会心理学の集団力学や集団性に関する基礎知識を講義する。	・本授業は、学校教員養成課程の学校教育分野専門科目に含まれ、分野の専門性を高めるという目標に対応している。 ・学修・教育目標のうち (B) や (C) と深い関連がある。	・集団についての社会心理学についての基本的な知識や見方を習得すること。	a	0
				b	0.6
				c	0.4
				d	0
				e	0
				f	0
メンタルヘルス実習	主に教職にまつわるストレスマネジメント、心身相関などの精神的メカニズムについての理解する。テスト等を通した自己分析やグループワーク等の実習を行なう。また、自己表現の手段も学習する。	・本授業は、学校教員養成課程の学校教育専攻専門科目に含まれ、専攻の専門性を高めるという目標に対応している。 ・学修・教育目標のうち (B) や (E) と深い関連がある。	・教師としての適切な表現力・表出力を意識できること。 ・精神的健康および自己分析の能力を高めること。 ・自らの言動についての省察力を高めること。 ・教職における自己の改善策を模索し、そのための不断の働きかけを工夫してみようとする。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0
				e	0.6
				f	0.2
心理統計学	心理学の実証研究で用いられる統計の基礎と使い方について体験的に学ぶ。	・学校教育専攻の専門選択科目である。教員に必要な心理統計の基礎的知識を習得する。卒業論文(4年次)の作成にあたってデータを読み取る力を養う。 ・学修・教育目標のうち (D) と深い関連がある。	・心理学に関する基本的な研究方法を習得する。 ・記述統計(平均値・標準偏差・相関)の意味や算出方法を具体例に即して習得する。 ・推測統計(無相関検定・t検定・回帰分析)の意味や算出方法を具体例に即して習得する。	a	0
				b	0
				c	0.2
				d	0.6
				e	0.2
				f	0
教育心理学実験	教育心理学の基本的な研究方法や査定である「面接法」「実験法」「質問紙法」「観察法」「知能検査・発達検査」「性格検査法」について、その基本的手続きを学び、研究スキルを習得する。	・本授業は、学校教育教員養成課程学校教育分野の専門科目である。教育心理学を卒業論文とする者は必修科目となる。 ・分野や領域における専門性を高めるという目標に対応している。 ・学修・教育目標のうち、(C) や (B) と深い関連がある。	・各研究方法や査定について一通りの実施や操作ができ、自らの卒業論文作成につなげる。 ・それぞれの研究方法はどのようなことを測定する場合に有効な方法なのかを理解する。 ・特定の方法のもとでのデータ収集の仕方や分析の仕方を学ぶ。	a	0
				b	0.6
				c	0.3
				d	0
				e	0
				f	0.1
教育心理学特講	教育心理学についての理論・研究について、学校教育において重要な知見を、伝統的なものから最新のものまで紹介する。授業内では適宜、議論の時間も設ける。	学校教育専攻の選択専門科目の1つとして、効果的な教育活動ができるよう基礎的な知識を提供します。学修・教育目標のうち、特にCと深い関連がある。	この授業を通して教育心理学についての理解をより深め、さらに「教員として、より適切な指導を行うためどうしたらよいか」「目指す教員像とは？」などを考えることで、今の自分(が持つ知識)と未来の自分像とを繋げる。	a	0
				b	0
				c	0.6
				d	0
				e	0.4
				f	0
発達心理学特講	教育現場で求められる発達心理学に関する基礎的知識と研究の方法について、習得する。研究論文を自ら選択して講読、発表を行い、国内外の発達心理学に関する研究動向を理解する。	・学校教育専攻の専門選択科目であり、専攻の専門性を高めるという目標に対応している。 ・学修・教育目標のうち (D) と深い関連がある。	・発達心理学に関する基本的な知識と研究方法、データ解析を深く理解する。 ・発達問題を解決する指導法や環境構成についての技能や能力を習得する。	a	0
				b	0
				c	0.2
				d	0.6
				e	0.2
				f	0
臨床心理学特講	代表的・基本的な4つの心理療法に焦点を当て、その基本的知識や考え方を習得し、学校現場への適用を考えていく。	・学校教育専攻の専門科目であり、教職への発展的知識取得や教育心理学関係の卒業論文の作成に備えるための選択必修科目である。 ・学修・教育目標のうち (C) や (B) と強い関連がある。	・心理療法についての基本的知識を習得すること。 ・それらの専門的知見から派生する、学校教育への具体的な適用を考えられるようになること。 ・自ら調べたり、疑問を生成したり、適用案を考えたりと能動的に学習していくこと。	a	0
				b	0.3
				c	0.6
				d	0
				e	0.1
				f	0
集団心理学特講	学校教育での学級経営に寄与するような社会心理学の集団力学や集団性に関して、国内外の専門文献(研究論文)等を詳細に用いながら、学校現場の具体的な状況を踏まえた検討を行う。	・学校教育専攻の専門科目であり、教職への発展的知識取得や教育心理学関係の卒業論文の作成に備えるための選択必修科目である。 ・学修・教育目標のうち (C) や (B) と強い関連がある。	・集団についての社会心理学についての知識や見方について習熟しながら一層整理できるようになり、自分が学校教員になったときの集団の取り扱い方について想像できるようになること。	a	0
				b	0.3
				c	0.6
				d	0
				e	0.1
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
カウンセリング実習	カウンセリングや対人援助の実践的な練習や体験、社会参加等を行い、自らの関わりを内省し、よりよく人の話を聴き、理解し、関わるスキルを向上させる。	・本授業は学校教育分野の「分野専門科目」であり、専門性を高めるという目標に対応している。 ・心理学を活かした児童生徒への話の聞き方を実習したり、実際の体験をしたりする。 ・学修・教育目標のうち、(C)や(E)と深い関連がある。	・カウンセリングの基本的なスタイル、基本的なスキルを修得する。 ・人の話を「聴く」こと、人を理解することの大切さと難しさを実感する。 ・他者との実際の関わりの中での自分のありようを内省する。	a	0
				b	0
				c	0.6
				d	0
				e	0.2
				f	0.2
教育心理学演習 A	卒業論文の研究テーマの探索のために、教育心理学の研究論文を熟読し、その概要を発表すると同時に、発表者または教員の提示する話題について受講生同士で検討する。	学校教育専攻の専門科目であり、教育心理学関係の卒業論文の作成に備えるための選択必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち(C)や(E)と深い関連がある。	心理学の研究論文や専門の文献を講読し、発表、相互検討することによって個々の論文の内容について理解するとともに、その過程で研究論文の書き方の基礎を学び、さらに各自の卒業論文のテーマについて具体化していくことを目標とする。	a	0
				b	0
				c	0.3
				d	0
				e	0.6
				f	0.1
教育心理学演習 B	卒業論文の研究テーマの探索のために、教育心理学の研究論文を熟読し、その概要を発表すると同時に、発表者または教員の提示する話題について受講生同士で検討する。	学校教育専攻の専門科目であり、教育心理学関係の卒業論文の作成に備えるための選択必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち(C)や(E)と深い関連がある。	心理学の研究論文や専門の文献を講読し、発表、相互検討することによって個々の論文の内容について理解するとともに、その過程で研究論文の書き方の基礎を学び、さらに各自の卒業論文のテーマについて具体化していくことを目標とする。	a	0
				b	0
				c	0.3
				d	0
				e	0.6
				f	0.1
教育心理学演習 C	卒業論文の研究テーマの探索のために、教育心理学の研究論文を熟読し、その概要を発表すると同時に、発表者または教員の提示する話題について受講生同士で検討する。	・学校教育専攻の専門選択科目であり、教育心理学関係の卒業論文の作成に備えるための選択必修科目である。 ・学修・教育目標のうち(C)や(E)と深い関連がある。	心理学の研究論文や専門の文献を講読し、発表、相互検討することによって個々の論文の内容について理解するとともに、その過程で研究論文の書き方の基礎を学び、さらに各自の卒業論文のテーマについて具体化していくことを目標とする。	a	0
				b	0
				c	0.3
				d	0
				e	0.6
				f	0.1
教育心理学演習 D	卒業論文の研究テーマの探索のために、教育心理学の研究論文を熟読し、その概要を発表すると同時に、発表者または教員の提示する話題について受講生同士で検討する。	・学校教育専攻の専門科目であり、教育心理学関係の卒業論文の作成に備えるための選択必修科目である。 ・学修・教育目標のうち、(C)や(E)と深い関連がある。	心理学の研究論文や専門の文献を講読し、発表、相互検討することによって個々の論文の内容について理解するとともに、その過程で研究論文の書き方の基礎を学び、さらに各自の卒業論文のテーマについて具体化していくことを目標とする。	a	0
				b	0
				c	0.3
				d	0
				e	0.6
				f	0.1
卒業論文	学校教育の教育学、教育心理学分野のうち、受講生が選択した分野について、自らの問題意識のもとでテーマ設定を行い、調査・研究し、論文執筆および口頭発表を行う。	・学校教育教員養成課程の「学校教育専攻専門科目」の必修科目である。 ・これまでの教育学又は教育心理学の学びを完成させるための科目である。 ・学修・教育目標のうち、(E)や(C)と深い関連がある。	卒業論文の完成を到達目標とする。	a	0
				b	0
				c	0.3
				d	0
				e	0.7
				f	0
日本語学概説 I	日本語学の各分野・領域について概観する。主に現代日本語について取り扱いつつ、各分野に関する日本語の歴史についてもふれ、日本語の成り立ちと変遷についても学んでゆく。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本語学」の基礎的な知識と考え方を習得する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・日本語学の基礎的な知識と考え方を習得する。 ・自らの使用する日本語を客観的に見直し、自覚的にとらえられるようになる。 ・言語の本質と日本語の特徴について学んだ基本的知識を、他者に説明できる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0
日本語学概説 II	日本語学の各分野・領域について概観する。主に現代日本語について取り扱いつつ、各分野に関する日本語の歴史についてもふれ、日本語の成り立ちと変遷についても学んでゆく。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本語学」の基礎的な知識と考え方を習得する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・日本語学の基礎的な知識と考え方を習得する。 ・自らの使用する日本語を客観的に見直し、自覚的にとらえられるようになる。 ・言語の本質と日本語の特徴について学んだ基本的知識を、他者に説明できる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
日本文学概説A	日本の優れた文学作品をとりあげ、その解釈と観賞を通して、文学とは何か、文学を読むとはいかなる営為か、日本文学はどのような特色を持ち、どのような命題に向かっているかを、具体例に則して概説する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本文学」の入門編として、文学的教材を読む際に必要な知識・態度・能力を育成する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・文学的テキストの読み方・味わい方の基本姿勢と基礎的方法を具体例に則して修得する。 ・文学テキストに対する各自の「解釈」を言語化して表現できるようになる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0
日本文学概説B	主として森鴎外の作品を題材として、文学的な知識を深めるとともに、考察力を養成する。鴎外の一連の歴史小説を読み進むとともに、その前後に書かれた現代小説をも考察する。さらに同時代の夏目漱石や自然主義文学の動向を見据えながら、明治末から大正初期にかけての文学史を俯瞰する。	教育学部において、中学一種免許・中学二種免許・高校一種免許「国語」を取得する場合は、必修科目として履修することになる。日本文学を通して、教員として必要な文学的知識と思考を学ぶ。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・文学作品を読み、文学的な知識を深めるとともに、考察力を養成する。 ・具体的な文学作品を通して、教員として必要な読解力と思考力を学ぶ。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
漢文学概説	中国の散文・韻文がどのような歴史的背景において登場したのかを概説する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための必修科目であり、中高の国語教員に必要な、中国文学に関する基礎的知識を伝授する。「学修・教育目標」の内、特に(D)、(E)に關係する。	・漢文学の魅力と意義を理解する。 ・中国の散文・韻文がどのように成立展開したかを理解する。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.3
				f	0
書写	国語科「書写」の目標、内容を理解し、それに沿った指導法、硬筆・毛筆の基礎的な技法の習得を目指す半期講座。学生自らが授業を行う模擬授業などを通して、教員に求められる実践力を身につけていく。	国語教育の「ことばの学習」に対し、書写は「文字（言語）の学習」である。国語に限らず、教員として備えておきたい「正しい文字」の知識、実践的な技能を修得し、児童・生徒の心身の発達の特性等に応じた指導法について学ぶ。「専門教育学習・教育目標」のうち、(E)と深い関連がある。	・国語科「書写」の教材研究の基礎的な知識・技能を修得する。 ・国語科「書写」の授業展開の仕組みや指導法について理解する。 ・児童、生徒の文字への興味や関心、手書き文字の実態を理解する。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.5
				f	0.1
日本語学演習Ⅰ	平安時代に成立した『土佐日記』について、日本語学的な分析・考察を演習形式で行う。テキストにはくずし字で書かれた影印本を用い、翻刻・語釈・日本語学の観点に基づく考察、それらを元にした現代語訳を行う。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本語学」、特に古典に関する基礎的演習科目としての意義を持つ。中学・高校の国語教員に必要な古典文学作品の文法・語彙等の基礎知識を習得する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・古典作品を、変体仮名で書かれた影印本で読めるようになる。 ・発表資料を作成することで、日本語学の手法に則った古典作品の語彙・文法等の調査方法を習得する。 ・日本語学における問題点の発見と考察の方法を習得する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
日本語学演習Ⅱ	平安時代に成立した『土佐日記』について、日本語学的な分析・考察を演習形式で行う。履修者各自が日本語学の観点に基づくテーマを設定し、調査と考察をレジュメにまとめて発表する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本語学」、特に古典に関する基礎的演習科目としての意義を持つ。中学・高校の国語教員に必要な古典文学作品の文法・語彙等の基礎知識を習得する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・古典作品を、変体仮名で書かれた影印本で読めるようになる。 ・発表資料を作成することで、日本語学の手法に則った古典作品の語彙・文法等の調査方法を習得する。 ・日本語学における問題点の発見と考察の方法を習得する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
日本文学演習Ⅰ	近代日本の文学作品の解釈・鑑賞を演習形式で行う。開講年度に応じて、近現代に書かれた短編小説を題材に取りあげる。作品を受講者全員に割り当て、口頭発表を課す。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本文学」、特に「近代文学」に関する基礎的演習科目として、近代文学を研究する際に必要な知識と技能を育成する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・文学テキストの基本的な研究方法を具体例に則して体験的に修得する。 ・作品研究をテーマとして発表資料を作成し、調査・考察をわかりやすく説明できるようになる。 ・文学テキストの「解釈」をめぐって、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
日本文学演習Ⅱ	近代日本の文学作品の解釈・鑑賞を演習形式で行う。開講年度に応じて、近現代に書かれた短編小説を題材に取りあげる。作品を受講者全員に割り当て、口頭発表を課す。Ⅱ（後期）においては、各自の考察分析の高度化・論文化を指導する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本文学」、特に「近代文学」に関する基礎的演習科目として、近代文学を研究する際に必要な知識と技能を育成する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・文学テキストの基本的な研究方法を具体例に則して体験的に修得する。 ・作品研究をテーマとして発表資料を作成し、調査・考察をわかりやすく説明できるようになる。 ・文学テキストの「解釈」をめぐって、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得する。 ・文学テキストに対する各自の「解釈」を論述できるようになる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
古典講読演習（古文）	上代に成立した歌集である『万葉集』の輪読をおこなう。担当箇所を割り当て、受講者全員が発表をする演習の形式で進めていく。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、上代から近世までの古典文学に対する博く高い関心を育むとともに、日本文学を解釈・鑑賞・評価するための学術的な態度と方法を授ける。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・上代から近世に成立した様々な文学作品に触れ、その特色や魅力を深く理解する。 ・古典文学を研究するための方法や観点を理解し、自分なりの問題意識を持てるようになる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
古典講読演習（漢文）	句読点のない中国古典（白文）の読解力をつけると同時に、本文校訂の方法を習得する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、句読点のない中国古典（白文）の読解力を育成する。高校1種免許を取得する者は必修。「学修・教育目標」の内、特に(D)、(E)に関係する。	・漢文学の魅力と意義を理解する。 ・句読点のない中国古典（白文）を読解するための基礎的な知識と方法を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.3
				f	0
中等国語科教育法Ⅰ	中学校、高等学校の「国語」について、主に文学的文章教材、説明的文章教材の教材研究方法、および指導法について講義する。	中学校・高等学校免許(国語)取得のための必須科目。中学校・高等学校教科「国語」に係る専門科目(国文学・国語学等)で取得した知識を援用し、国語を教えるための知識・技能(教材研究法・指導法)を修得する。対象校種は違うが、「初等国語科教育法」で修得した知識・技能をさらに発展させるように組み立てられている。「学修・教育目標」の内、特に(B)、(D)に関係する。	1) 中学校高等学校国語教材(文学的文章教材・説明的文章教材)の教材研究方法について、基礎的な知識・技能を修得する。 2) 中学校・高等学校教科「国語」を教えるための、基礎的な指導法を修得する。3) 上記教材研究法・指導法について、その理論的基盤の基礎を理解する。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
中等国語科教育法Ⅱ	中学校、高等学校の「国語」について、主に「書くこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する教材研究方法、および指導法について講義する。	「中等国語科教育法Ⅰ」に続くものである。中学校・高等学校免許(国語)取得のための必須科目。中学校・高等学校教科「国語」に係る専門科目(国文学・国語学等)で取得した知識を援用し、国語を教えるための知識・技能(教材研究法・指導法)を修得する。対象校種は違うが、「初等国語科教育法」で修得した知識・技能をさらに発展させるように組み立てられている。「学修・教育目標」の内、特に(B)、(D)、(E)に関係する。	1) 中学校高等学校国語教材(「書くこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」)の教材研究方法について、基礎的な知識・技能を修得する。 2) 中学校・高等学校教科「国語」を教えるための、基礎的な指導法を修得する。3) 上記教材研究法・指導法について、その理論的基盤の基礎を理解する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
中等国語科教育法Ⅲ	中学校・高等学校「国語」についての、指導法及び教材研究方法について講義する。教育実習を視野に入れ、指導案の作成や授業展開の構想等、特に実践的な課題を設定し、授業場面のビデオ等の資料を元に討議を行う。	中学校教員免許一種(国語)取得に必須の科目。「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」において、中学校・高等学校「国語」のための教材研究法の基礎を修得した上で、ここではさらに生徒の言語能力の実態に即した指導法について学ぶ。「学修・教育目標」のうち、特に(C)、(D)に関連する。	・指導法研究の基礎的な知識・技能を修得する。 ・授業場面における、生徒の多様な言語能力の実態を理解する。 ・学習活動の設定や指導案の作成等、授業実践に関する基礎技能を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
中等国語科教育法Ⅳ	中学校・高等学校「国語」についての、指導法及び教材研究方法について講義する。古典教材を中心とした教材研究を行うとともに、教材開発から(模擬)授業に至るまでの指導法研究の過程を実践的に学ぶ。	中学校教員免許一種(国語)取得に必須の科目。「中等国語科教育法Ⅰ～Ⅲ」で修得した教材研究法及び指導法を、教材作成や模擬授業等の活動を通して実践的・発展的に学ぶ。「学修・教育目標」のうち、(C)、(D)に関連する。	・教材研究法の基礎的な知識を生かし、古典教材の教材分析法を修得する。 ・生徒の発達段階や授業における反応を具体的に想定して、教材や授業展開を工夫することができる。 ・模擬授業等の集団での活動を通して、主体的・協力的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
日本語史	原則として隔年開講。約1500年および日本語の史の変遷を、語彙・文法・音声・表記それぞれの面から取り上げ、講義する。	国語教育専攻の選択専門科目の一つとして、中学校・高等学校の国語教員に必要な古典語の知識と日本語の歴史に関する知識を習得する。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・日本語の歴史に関する基礎知識を習得する。 ・時代ごとの日本語の特徴を知る。 ・現代日本語の成立に至る史の変遷を知る。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0
日本語学講読	原則として隔年開講。日本語学分野で最新の研究書を、他説の紹介や研究背景の説明などの講義を中心に読み進めていく。	国語教育専攻の選択専門科目の一つとして、研究内容が最も注目されている最新の研究書を読み解くことにより、日本語学の研究方法に関する知識を習得する。小学校から高校の国語における「言語項目」の基礎知識となる日本語の考え方と分析方法を習得することができる。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・日本語学の最新研究の内容を理解できるようになる。 ・レポート作成の際に日本語学の先行研究を引用できるようにする。 ・日本語学における問題点の設定と仮説の立て方を理解する。 ・日本語学的な分析の観点を身につける。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
日本語学特講	原則として隔年開講。上代の日本語が反映される文献の性格や読み解き方、そこに表れる日本語学的現象を講義する。その際、必要に応じて上代日本語に関する最新の研究成果を紹介する。	国語教育専攻の選択専門科目の一つとして、日本語学・日本語史上の最新の研究に触れ、日本語学の研究方法に関する知識を習得する。これは日本語学の分野で卒業論文を執筆するために必要な能力となる。また、中学・高校の古典教育の教材研究に必要な基礎力の育成にもつながる。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品それぞれの文獻的性格を理解できるようになる。</li> <li>文献に表れた日本語学的現象の解釈ができるようになる。</li> <li>日本語学における問題点の設定と仮説の立て方を理解する。</li> <li>日本語学的な分析の視点を身につける。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0
国語表現法Ⅰ	論理的文章を作成するために必要な作文技術を、講義及び実技を通して達成する。具体的には、西洋で1500年にわたって行われた「プロギュムナスマタ」と呼ばれる作文訓練方法を現代風にアレンジして用いる。特にⅠでは、要約、引用、敷衍、例証等の技術を扱う。授業では、作文課題についての講義を行った上で、実際に文章を書かせ、相互批評を行う。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目。作文を書いて相互批評を行う活動を通じて、自らの書く力の向上を図り、国語教員に必要な作文技術を修得する。「学修・教育目標」のうち、(A)、(D)に関連する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的文章を書くために必要な作文技術について理解する。</li> <li>西洋の伝統的な作文指導に関する理解を通して、日本の作文指導の現代的課題について考察する。</li> <li>多声的・複声的な文章や、譬え・実例等をともなった説得的な文章が書けるようになる。</li> </ul>	a	0.3
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0
国語表現法Ⅱ	国語教員として必要な作文技術を達成する。具体的には、西洋で1500年（2世紀～17世紀）にわたって行われた、プロギュムナスマタと呼ばれる訓練方法を現代風にアレンジして行う。プロギュムナスマタは最大14項目で構成されるが、この授業では、その中から、5反論、6立論、8賞賛、9非難、10比較を取り立てて扱う。授業では、それぞれの項目について、テキストによって簡単に概説し、その後、いくつかの材料・ヒントを与えて実際に文章を書かせる。	「国語表現法Ⅰ」に続くものである。教科「国語」を教える者として、そのプロフェッショナルと呼ばれるための最低限の言語（文章）表現力を修得する。「学修・教育目標」のうち、(A)、(D)に関連する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>反論の視点を組み込んで、反論の文章を書くことができる。</li> <li>立論（反論への反論）の視点を組み込んで、立論の文章を書くことができる。</li> <li>比較の技法を取り入れた賞賛・非難の文章を書くことができる。</li> <li>国語教員として、文章を構成する上記の技巧について、他者（生徒）に説明することができる。</li> </ul>	a	0.3
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0
日本文学史（古典）	上代から近世まで、どのような作品が誕生し、それがどのように享受されてきたのかをたどる。	国語教育専攻の選考専門科目の一つとして、中高の国語教員に必要な日本古典文学史の基礎知識を授け、この分野への幅広い興味関心を喚起する。「専門教育学習・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典文学史に関する基礎知識を修得する。</li> <li>和歌がどのように誕生し、享受されたかを通史的に把握できるようになる。</li> </ul>	a	0.2
				b	0
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0
日本文学史（近代）	日本近代文学の成立と展開を、その中心ジャンルとなった「小説」を中心に、明治10年代から昭和初年代にかけて通史的に概説する。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、中高の国語教員に必要な日本近代文学の通史的な基礎知識を授け、この分野への幅広い興味関心を喚起する。「専門教育学習・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代日本文学史がどのように成立展開し、どのような特色を持つかを通史的に理解する。</li> <li>時代（政治・社会・文化）の変化と関連づけながら、文学の変遷を高所から多角的にとらえる見地を修得する。</li> </ul>	a	0.2
				b	0
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0
日本文学講読A	原則として隔年開講。主として近代の文学作品をとりあげ、講義講読を行う。年度によって講義内容が異なる。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、文学作品を教材に、作品を読解・解釈・鑑賞するための学術的な知識・態度・方法を授ける。教員として必要な知識と思考を身につける。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な日本文学に触れ、その特色や魅力を深く理解する。</li> <li>日本文学を読解・解釈・鑑賞するための知識・態度・方法を修得する。教員として必要な学術的な知識と思考を身につけることを目指す。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
日本文学講読B	原則として隔年開講。年度毎に時代・文学者・作品・テーマを設定し、上代から近代（明治期）までの古典的名作をとりあげ、講義講読を行う。年度によって講義内容が異なる。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、上代から近代までの任意の作品を教材に、文語体で書かれた日本文学を読解・解釈・鑑賞するための学術的な知識・態度・方法を授ける。「専門教育学習・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>上代から近代までの様々な日本文学に触れ、伝統的文学の特色や魅力を深く理解する。</li> <li>文語体や古典的手法を用いて作られた日本文学を読解・解釈・鑑賞するための知識・態度・方法を修得する。</li> </ul>	a	0.1
				b	0
				c	0.1
				d	0.7
				e	0.1
				f	0
日本文学特講A	原則として隔年開講。年度毎に特定のテーマを設定し、明治から現代までの作家・作品をとりあげ、近代文学研究の先進的な取り組みをわかりやすく講義する。年度によって講義内容が異なる。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近現代の様々な文学に対する博く高い関心を育むとともに、日本文学を解釈・鑑賞・評価するための学術的な知識・態度・方法を授ける。「専門教育学習・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>近現代に登場した様々な文学作品に触れ、その特色や魅力を深く理解する。</li> <li>近現代文学を研究するための方法や視点を理解し、自分なりの問題意識を持てるようになる。</li> </ul>	a	0.1
				b	0
				c	0.1
				d	0.7
				e	0.1
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
日本文学特講B	原則として隔年開講。年度毎に特定のテーマを設定し、上代から近世までの古典文学をとりあげ、古典文学研究の先進的な取り組みをわかりやすく講義する。年度によって講義内容が異なる。	国語教育専攻の専門科目として、上代から近世までの古典文学に対する博く高い関心を育むとともに、日本文学を解釈・鑑賞・評価するための学術的な知識・態度・方法を授ける。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・上代から近世に成立した様々な文学作品に触れ、その特色や魅力を深く理解する。 ・古典文学を研究するための方法や観点を理解し、自分なりの問題意識を持てるようになる。	a	0.1
				b	0
				c	0.1
				d	0.7
				e	0.1
				f	0
国語科教育特講	国語教育に関する論文を講読することを通して、言葉の教育における様々な課題を認識し、各分野にわたる研究的な視点を獲得する。	「国語研究セミナーCⅠ」を受講して得た知識・技術を前提とし、国語教育分野で卒業論文を書くための準備科目とする。「学修・教育目標」の内、特に(B)、(C)、(D)に関係する。	・各論文における主要となる論点を捉え、その背景にある国語教育の課題を知る。 ・各自の卒業論文作成に向けて、必要な基礎情報を得ると共に、研究を進めていく手法を学ぶ。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
国語研究セミナーAⅠ	4年次の卒業論文の執筆を念頭におきながら、日本語の音韻、文字、語彙、文法、表現に関するさまざまな現象について考える。受講者は、教科書の割り振られた担当範囲についてその日本語学的な問題点を明らかにし、自らの意見を含めて発表する。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、日本語学的な問題の発見方法および調査・研究方法を学ばせ、4年次に卒業論文を日本語学の分野で執筆するために必要な能力を養成する。中学・高校の古典教育の教材研究に必要な基礎力の育成にもつながる。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・各自の卒業論文作成に向けて、必要な基礎情報を得ると共に、研究を進めていく手法を学ぶ。 ・他者の論じた内容を理解し、自分のことばで説明できるようになる。 ・日本語学的な視点に基づいて問題点を見つけられるようになる。 ・発表者の提示した問題点に対し、さらなる問題点を指摘し、議論できるようになる。 ・自ら立てた仮説に対し、それを証明する論証能力が身に付く。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.2
国語研究セミナーAⅡ	4年次の卒業論文の執筆を念頭におきながら、日本語の音韻、文字、語彙、文法、表現に関するさまざまな現象について考える。受講者は、各自の興味と問題意識に基づいて文献の調査をおこない、日本語学的な問題点を明らかにし、自らの意見を含めて発表する。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、日本語学的な問題の発見方法および調査・研究方法を学ばせ、4年次に卒業論文を日本語学の分野で執筆するために必要な能力を養成する。中学・高校の古典教育の教材研究に必要な基礎力の育成にもつながる。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・各自の卒業論文作成に向けて、必要な基礎情報を得ると共に、研究を進めていく手法を学ぶ。 ・他者の論じた内容を理解し、自分のことばで説明できるようになる。 ・日本語学的な視点に基づいて問題点を見つけられるようになる。 ・発表者の提示した問題点に対し、さらなる問題点を指摘し、議論できるようになる。 ・自ら立てた仮説に対し、それを証明する論証能力が身に付く。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.2
国語研究セミナーBⅠ	4年次の卒業論文を念頭におきながら、近現代日本の文学作品を採りあげて、作品研究をセミナー形式で行う。開講年度にテーマを設定して作品を選択する。受講者は1人1作家の1作品を担当して発表を行う。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近代日本文学の様々な研究方法を幅広く体験的に学ばせ、4年次に日本近代文学分野で卒業論文を書く際に必要な学力の育成をめざす。中学・高等学校の文学的教材の教材研究に必要な能力の育成にもなる。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・文学作品の書誌的事項・作品成立の背景・研究史を調査し、整理できるようになる。 ・文学作品のディテールを注釈的に調査し、作品分析に繋がられるようになる。 ・文学テキストの「解釈」をめぐって、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得する。 ・問題を設定し、自らの仮説を立て、それを論証する論理的考察力と文章力を修得する。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
国語研究セミナーBⅡ	4年次の卒業論文を念頭におきながら、近代日本の文学作品を採りあげて、作品研究をセミナー形式で行う。開講年度毎にテーマを設定し、受講者は1人1作家の1作品を担当して発表を行う。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近代日本文学の様々な研究方法を幅広く体験的に学ばせ、4年次に日本近代文学分野で卒業論文を書く際に必要な学力の育成をめざす。中学・高等学校の文学的教材の教材研究に必要な能力の育成にもなる。「学修・教育目標」のうち、(D)と深い関連がある。	・文学作品の書誌的事項・作品成立の背景・研究史を調査し、整理できるようになる。 ・文学作品のディテールを注釈的に調査し、作品分析に繋がられるようになる。 ・文学テキストの「解釈」をめぐって、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得する。 ・問題を設定し、自らの仮説を立て、それを論証する論理的考察力と文章力を修得する。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
国語研究セミナーCⅠ	国語教育に関する実践の検討や論文の講読を通して、言葉の教育における様々な課題を認識し、各分野にわたる研究的な視点を獲得する。	国語分野の選択専門科目。「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」を受講して得た知識・技術を前提とし、教材研究や指導法研究に関する先行文献を読解することで、国語分野で卒業論文を書くための準備科目とする。「学修・教育目標」のうち、特に(B)、(C)、(D)に関係する。	・国語教育における実践の内容や背景、論文における主要となる論点を捉え、国語教育に存する課題を知る。 ・国語教育に関する各自の研究的観点をもち、基礎情報を得ると共に、研究に入っていくための手法を学ぶ。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
国語研究セミナーC II	国語教育に関する実践の検討や論文の講読を通して、言葉の教育における様々な課題を認識し、多様な研究の視点を獲得する。さらに、研究課題を自身に引きつけて考察を進める。	国語分野の選択専門科目。「国語研究セミナーC I」に続くものである。「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の受講を通して得た知識・技術を前提とし、教材研究や指導法研究に関する先行文献を読解することで、国語教育分野で卒業論文を書くための準備科目とする。「学修・教育目標」のうち、特に(B)、(C)、(D)に関係する。	・国語教育における実践の内容や背景、論文における主要となる論点を捉え、国語教育に存する課題を知る。 ・国語教育に関する各自の研究的視点を持ち、基礎情報を得ると共に、研究を進めていくための手法を学ぶ。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
卒業論文	・卒業論文は、国語学・国文学・国語教育 から1分野を選択して、自己の研究テーマを設定し、文学作品や先行文献の収集・読解・分析、あるいは実地踏査やアンケート調査や模擬授業等の方法を用いて、課題の解明を模索し、そのプロセスを学術論文として論述する。10月上旬に中間発表を行い、1月末に提出し、2月末～3月初頭の卒業論文発表会で口頭発表を行う。	国語分野の専攻専門科目の集大成として、3年次に履修した国語研究セミナーA I II～C I IIの中から、1分野を選択し、卒業論文制作を行う。卒業論文制作をおこなう分野に関しては、これに関する選択科目を履修していることが望ましい。「学修・教育目標」のうち、特に(E)と深い関連がある。	・1分野を選択して探究することで、国語科全般への学力を養うとともに、専門分野への深い理解と応用力を獲得する。 ・自らテーマを設定して、自立的・主体的に調査研究することにより、普遍的・今日的な課題への幅広い知識と専門的な判断力を修得する。 ・専門の1分野を深く本質的に理解することによって、児童・生徒の発達段階に応じた教材研究・教材開発に活かせる応用的学力を修得する。 ・学ぶことへの意志と情熱を持ち、自らの問題意識を様々な角度から具体的に検証し、その過程と結論(仮説)を学術的に論述し、わかりやすく説明できるようになる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.3
				f	0.1
日本史概説A	日本史の古代から現代に至る歴史を、複数のテーマを切り口として概説し、現代社会の成り立ちや身近な生活慣習の歴史的な背景を考える。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目である。日本史に関する基礎的な知識を身につけ、理解を深める。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・大学入学以前に学んできた日本史をさまざまな視点で見直し、自ら考え理解を深めることで、日本史の知識の定着を図る。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
日本史概説B	日本史の古代から現代に至る歴史を、複数のテーマを切り口として概説し、現代社会の成り立ちや身近な生活慣習の歴史的な背景を考える。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目である。日本史に関する基礎的な知識を身につけ、理解を深める。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・大学入学以前に学んできた日本史をさまざまな視点で見直し、自ら考え理解を深めることで、日本史の知識の定着を図る。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
外国史概説A	中国を中心とする東アジアの政治・経済・社会・文化などを概説し、日本も含めた東アジア諸国の交流と相互影響を認識すると同時に、異文化理解に際しての歴史の重要性を確認する。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目であり、外国史に関する基礎的な知識を身につけ、理解を深める。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・中国を中心とする東アジア史の基礎的な知識を身につけ、外国史と異文化を教え考える発想法に触れる。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
外国史概説B	世界史における政治・社会・宗教などの諸問題を概説し、それを通して外国史を学ぶことごどのような意義があるかを考える契機を提供する。	中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目であり、外国史に関する基礎的な知識を身につけ、理解を深める。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・世界史の古代～現代に至る大まかな流れを理解する。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
地理学概説A	「位置」「地域」等の地理学の基礎概念を手がかりに、具体的な都市や国家の変遷と今日のありようについて学ぶ。	中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択必修科目。国土や地域に関する系統地理的考察を行うための視点と方法を修得する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・地域的観点から自然・人文地理的事象をとらえることができる。 ・地形図の読図の基礎を修得する。 ・児童・生徒が理解可能な地理情報を提示するための基礎的な力を身につける。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
地理学概説B	系統地理学の輪郭を講義する。地理学の諸分野について、事例を紹介しながら、研究内容について解説する。このことを通じて、現実世界・諸地域の地理的な見方・考え方を、ともに考えていく	中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択必修科目。国土や地域、産業に関する系統地理的考察を行うための視点と方法を修得する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・系統地理学の主要分野の理論や分析手法を理解して、地理学的な思考力を身につける。これによって、地理学の研究力を養う。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
法学概論	本講義では、法学を学ぶ基礎を修得したうえで、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、憲法学、民法学および刑法学について、基本的な考え方を学ぶとともに、各法分野における論点をひとつずつ取り上げ、さまざまな角度から検討する。さらに、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。	中学校「社会」および高等学校「公民」の免許を取得するための選択必修科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「法学」に関する専門科目の入門編として位置づけられる。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の司法制度の枠組みを理解し、これからの司法制度のあり方を考えるための基礎的な知識を身につけること</li> <li>・法学を学んでいくうえで必要な能力（六法全書の使い方や条文・判例の読み方等）を身につけること</li> <li>・論理的に思考し、法を根拠として自分の意見を表明できるようにすること</li> </ul>	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
政治学概論	ジェンダーや福祉国家、グローバリゼーションといった現代政治理論が取り組んでいる問題も取り上げながら、現実政治に参加する市民として必要な基本的政治概念を解説する。	中学校「社会」および高等学校「公民」の免許を取得するための選択必修科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「政治学」に関する専門科目の入門編として位置づけられる。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由、権力、市民、国家といった基本的政治概念を先入観を取り払って理解すること</li> <li>・受講者が現実政治に参加するさいに確実な知識に基づいて理性的に討議、選択、決断できること</li> </ul>	a	0
				b	0
				c	0
				d	0.8
				e	0.1
				f	0.1
社会学概論	社会学の三つの考え方によって、中学校社会科で扱う様々な社会現象がどのように分析できるか、見ていく。	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択必修科目であり、社会科教育専攻の1専門分野である「社会学」の入門編としての意義を持つ。学修・教育目標のうち、A、D、Eと深い関わりがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の社会科で扱うさまざまな社会現象を、社会学的な観点から見るができるようになる</li> </ul>	a	0.2
				b	0
				c	0
				d	0.4
				e	0.4
				f	0
経済学概論	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な経済分析の手法を解説する。	社会科・公民科の経済的分野を理解するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための、中学校教科の科目である。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場、価格、経済変動といった基本的経済概念を理解すること</li> <li>・受講者が現実の経済生活を理解する際に、経済学的ものの見方・とらえ方の特徴を把握して理性的に討議、選択、決断できること</li> </ul>	a	0
				b	0
				c	0
				d	0.8
				e	0.2
				f	0
哲学概論	西洋哲学史を概観した上で、とりわけ近代哲学者たちの議論を紹介しながら、主に次の二つの問いに迫る。第一に、哲学において「考える」ということはどのようなことかを明らかにすること、第二に、「自由と責任」という概念に軸に、「いかに生きるべきか」という、古くかつ新しい哲学的問いを探究することである。	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。また、社会科教育専攻の1専門分野である「哲学」に関する入門編としての意義を持つ。学修・教育目標のうち、D、Eと深い関わりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋哲学史に関する基礎知識、および、哲学的に「考える力」を身につける。</li> <li>・学校教育全般において求められる「考える力」とは何か、を考えることができるようになる。</li> <li>・中学校「社会」・高等学校「公民」との関連では、とりわけ本講義で言及する「応用倫理の諸問題」を通じて、自らの問題意識をもち、その問題への探求心を養う。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0.2
倫理学概論	人生にはすでに答えがある問いよりも答えが無い問いの方がはるかに多い。倫理学は「いかに生きるか」という後者の問いに取り組む学であり、西洋の知識や技術を取り入れるという発想で作られた学校教育制度のなかで、いかにあるべきかは、いまだ模索の途上にある。数々の先人の思想を手がかりに、問いを深める倫理思想史の方法を学んでいく。	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。また、社会科教育専攻の1専門分野である「倫理学」に関する入門編としての意義を持つ。学修・教育目標のうち、D、Eと深い関わりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理思想史に関する基礎知識を身につける。</li> <li>・あらかじめ正解が用意されているわけではない問いについて考える力を身につける。</li> <li>・学校教育全般において求められる「いかに生きるべきか」という問いに、倫理学の立場から考えることができる。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0.2
地誌学概論A	地誌学の輪郭を講義する。地誌学の対象たる地球地域の見方、とらえ方、調べ方を平易に説き明かす。したがって、その内容は地理学的見地に立つ地域論である。	中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択必修科目。地理学、とくに地誌学の入門編としての意義を有する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球地域を見る確かな観察眼をもつようになる。</li> <li>・グローバルな意味での地域多様性概念を修得する。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
地誌学概論B	地誌学の基本的な視点と地誌の構成を概観した上で、日本の地方誌および各国地誌を、主として動態地誌的な方法により学ぶ。	中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択必修科目。世界および日本の諸地域に関する地誌学習を指導するための基礎的な知識・技能を育成する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地誌の構成と静態地誌・動態地誌の学習法についての理解を深める。</li> <li>・地誌学習をつうじた地域的特色の追究方法を体験的に修得する。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
中等社会科教育法Ⅰ	中学校社会科の教員免許状取得希望者を対象に、中学校社会科教育の概要と、その基礎的な教育方法の習得を目指して行われる科目である。	・中学校教科教育法の科目である。 ・中学校社会科の免許取得者には必須の科目である。 学修・教育目標のうち、特にDと深い関わりをもつ。	中学校社会科教育の概要と、その基礎的な教育方法を習得する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
中等社会科教育法Ⅱ	中等社会科の実際の授業について検討し、「社会科授業とは何か」について考える。	・中学校教科教育法の科目である。 ・中学校社会科の免許取得者には必須の科目である。 学修・教育目標のうち、特にDと深い関わりをもつ。	中学校社会科の教材研究および単元構成に基づいて授業を実施することができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
中等社会科教育法Ⅲ（地理歴史分野）	中等社会科および高等学校地理歴史科の授業の役割と意義について考える。	・中学校社会一種、高等学校地理歴史一種の取得のためには必須の科目である。 ・中学校社会取得者は中等社会科教育法Ⅰ及びⅡを履修しておくことが望ましい。 学修・教育目標のうち、特にDと深い関わりをもつ。	中等社会科における地理的・歴史的な分野・科目の教育内容・教育方法についての基本的な理解を得る。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
中等社会科教育法Ⅳ（公民分野）	中学校社会一種及び高等学校公民一種の教員免許状を取得希望の学生に対し、中等社会科における公民的な分野・科目の教育内容・教育方法についての基本的な理解を得させる科目である。	・中学校社会一種、高等学校公民一種の取得のためには必須の科目である。 ・中学校社会取得者は中等社会科教育法Ⅰ及びⅡを履修しておくことが望ましい。 学修・教育目標のうち、特にDと深い関わりをもつ。	中等社会科における公民的な分野・科目の教育内容・教育方法についての基本的な理解を得る。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
歴史学特講A	日本史の特定の時代・テーマについての講義を行い、歴史への理解と関心を深める。	中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、学ぶ（教える）歴史を支える歴史・歴史学のあり方を理解する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・日本史の特定のテーマを掘り下げて学ぶことで、歴史への興味と理解を深める。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
歴史学特講B	日本史の史料を読み、そこから何が読み取れるのかを考え、歴史に対する理解を深める。	中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、日本史の史料への関心と読解の基礎を養う。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・日本史の史料の基礎的な読解力を修得する。 ・日本史の史料を実際に読むことで、歴史への興味と理解を深める。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
歴史学特講C	外国史の特定の時代・テーマについて講義を行い、歴史への理解と関心を深める。	中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、外国史を学ぶ（教える）とはどういうことか、について自分なりの考えを深める。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・外国史の特定のテーマを掘り下げて学ぶことで、歴史への興味と理解を深める。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
歴史学特講D	外国史の特定の時代・テーマについて講義を行い、歴史への理解と関心を深める。	・中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、外国史への関心をもたせる。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・外国史の特定のテーマを掘り下げて学ぶことで、歴史への興味と理解を深める。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
歴史学実地調査	歴史を具体的に調査・研究するための基礎となる古文書解読、文献講読、フィールドワークの方法を学ぶ。	中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択科目であり、歴史・郷土学習における教材研究の力を身につける。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	歴史を具体的に調査・研究するための基礎となる方法を修得する。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
地理学特講A	地図の概念と地図製作の歴史、投影法、地形図の読図、地理空間情報の利用と分析について学ぶ。	高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択科目。わたくしたちの生活に密接な交通事象に対する問題関心を喚起する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	卒業論文作成につながる地図の読図力、地理空間情報の分析手法を身につける。 ・地理的事象が各種の地図にどのように表現されるかに関心を払うようになる。	a	0
				b	0
				c	0.2
				d	0.7
				e	0.1
				f	0
地理学特講B	経済地理学の研究視角を学びながら、製造業、流通業、サービス業など、第2次・第3次産業の地域的展開を説明するための立地論や各種モデルについて、現実の産業立地とあわせて解説する。	高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択科目。日本、中国、アメリカ、EUなどにおける産業立地とその変化に関する基礎的な知識と、地図化のための技能を育成する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	工業・商業など各産業の地域の実態を調査研究する力を養う。 ・地理学における理論・法則・モデルの役割を理解し、卒業論文作成につながる科学的思考力を身につけることを目指す。	a	0
				b	0
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0.1
地理学特講C	農業立地論とその有効性、および農業地域区分について講義する。また日本のコメ作り、肉用牛生産などの地域事例を紹介する。	高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択科目。小・中学校の社会科および高等学校地歴科における食料の生産・流通・販売に関する授業を行うための基礎的な知識・技能を育成する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	食料生産・流通・販売について、当事者の立場、国家政策、市場動向の各々にかんがみつつ理解できる。 ・農産物の産地の実態を調査し、地域学習の計画を立てる力を身につける。 ・消費者として、食料生産の現場と食材そのものに対する正しい知識と判断力を養う。	a	0
				b	0
				c	0.1
				d	0.7
				e	0
				f	0.2
地域調査法	人文地理学における地域調査の手法、調査計画の立て方、調査結果の考察、データの加工、主題図作成の基礎を学ぶ。	高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択科目。小学校・中学校・高等学校における学校区または市町村規模の地域の野外調査や、地誌学習の教材作成に必要な地理的スキルと、指導計画を立案する力を育成する。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	小・中学校における身近な地域の観察、高等学校における市町村規模の調査の計画を立てることができる。 ・地形図の読図および主題図作成の基礎を修得する。 ・景観、土地利用、統計などから、地域の総合的特色をとらえることができる。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.2
				f	0.1
地理学実地調査	身近な地域を対象とする野外調査の授業。調査計画の立案、調査結果のとりまとめおよび発表までを含む。	社会分野の専門科目（選択）。小学校・中学校・高等学校における学校区または市町村規模の地域の野外調査にあたり、指導計画を立案する力を育成する。フィールドワークの経験を通じて、実社会と世間の現実を肌で感じとったことを、さまざまな立場での地域連携に生かす。学修・教育目標のうち、D、Eと深い関わりを持つ。	地理学の立場に立つ野外調査の手法と、入手したデータの整理と分析の仕方を理解することを目指す。 ・資料収集やヒアリングにあたって、訪問先の関係者に対し、礼節をわきまえた真摯な態度で接し、人間社会の構成員としての自覚をもつようになる。	a	0
				b	0
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.3
				f	0.2
法学特講A	刑法の講義を行う。刑法とは、犯罪と刑罰について定める法律である。前半の講義で刑法総論（全ての犯罪類型に共通する成立要件）を、後半の講義で刑法各論（個々の犯罪類型に固有の成立要件）を取り上げる。	高等学校「公民」の免許取得のための選択科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	刑法の基本的な概念や理論を理解すること ・実務の現状や問題点を批判的に考察できる力を修得すること ・法学の議論には、具体的争点に対して複数のアプローチや解決の方向があることを理解し、それぞれの立場から最も説得的な議論を組み立てられる力を養うこと	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
法学特講B	憲法の刑事手続に関する規定をふまえて、刑事訴訟法の講義を行う。刑事訴訟法とは、国家刑罰権の実現を図るための手続を定める法律である。実際の刑事手続の流れに沿って授業をすすめる。	高等学校「公民」の免許取得のための選択科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	憲法および刑事訴訟法の基本的な概念や理論を理解すること ・実務の現状や問題点を批判的に考察できる力を修得すること ・法学の議論には、具体的争点に対して複数のアプローチや解決の方向があることを理解し、それぞれの立場から最も説得的な議論を組み立てられる力を養うこと	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
公共政策論	複合的な学問領域である公共政策について、「公共」とは何か、公共政策に関わるのはどのようなアクターか、公共政策の方向性は何によって定まるのか、公共政策において行政と住民はどのような関係にあるのか、民主的な公共政策とはどのようなものであるのかなどを、政治学・行政学という公共政策の主たる学問領域の視点から講義を行う。その際、学生にとって身近な事例について、その背景にある理論の説明と、事例に関わる争点についてのアクティブラーニングによる学生間議論を行うことによって、理論と実際の融合を図り、公共政策への理解を深める。	高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目である。公共の概念をとらえることにより、公民的資質のあり方を解説する科目として位置づけられる。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・「公共」の機能とその現状を普遍的な枠組から認識すること ・政策に関する諸々の視点や理念を総合するための基本的な考え方を身につけ、社会政策に関する視野を広げること	a	0
				b	0
				c	0
				d	0.8
				e	0
				f	0.2
経済政策論	財政政策・金融政策などの経済政策が、景気や雇用・物価などの経済に与える影響を、マクロ経済学の理論的裏付けを理解した上で学ぶ。	社会科・公民科の経済的分野を理解するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための、教科の選択科目である。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	・現実の経済政策、とくに財政政策および金融政策の運営についての理解力と判断力を身につけること。	a	0
				b	0
				c	0
				d	0.7
				e	0.3
				f	0
社会学特講	個人と社会の関係を教育現象に着目することで考える。	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択科目であり、学修・教育目標のうち、A、B、Eと深い関連がある。	・教育を、個人の視点からだけではなく、社会というレベルで見られるようになる、つまり社会学的な見方で見られるようになること。	a	0.4
				b	0.3
				c	0
				d	0
				e	0.3
				f	0
社会調査法	アンケートなどによる調査法を学び、調査を企画・実施する。	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択科目であり、学修・教育目標のうち、A、D、Eと深い関連がある。	・量的調査法の基本を学び、調査を企画・実施できるようになる。	a	0.2
				b	0
				c	0
				d	0.6
				e	0.2
				f	0
社会調査実習	社会調査法で行った調査結果を、統計学的手法を用いて分析する。	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択科目であり、学修・教育目標のうち、A、D、Eと深い関連がある。	・量的調査のデータを統計学的手法を用いて分析できるようになる。	a	0.2
				b	0
				c	0
				d	0.6
				e	0.2
				f	0
哲学特講A	哲学の一分野である「論理学」を基礎に、「論理的に考える力」を身につける。まずは、「考えることを考える」ことから出発し、「哲学的に考える」「科学的に考える」「論理的に考える」という三つの「考える力」を明らかにする。その上で、演習方式も一部取り入れ、実際に「論理的に考える」トレーニングを重ねる。	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。社会科教育専攻の一分野である「哲学」に関して、その入門編「哲学概論」に続き、より専門的にこの分野への興味関心を喚起し、また、学校教育全般において求められる「考える力」についての理解と実践力を深める。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	「論理的に考える」トレーニングを通じ、社会・公民・教育における「諸問題」に関わる ・他者の論証を正確に理解することができる、 ・自らの見解を論証することができる、 ・他者との対話を構築することができる。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
哲学特講B	哲学特講Aに引き続き、哲学の一分野である「論理学」を基礎に、「論理的に考える力」を身につける。まずは、「考えることを考える」ことから出発し、「哲学的に考える」「科学的に考える」「論理的に考える」という三つの「考える力」を明らかにする。その上で、演習方式も取り入れ、実際に「論理的に考える」トレーニングを重ねる。	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。社会科教育専攻の一分野である「哲学」に関して、「哲学特講A」に続き、より専門的にこの分野への興味関心を喚起し、また、学校教育全般において求められる「考える力」についての理解と実践力を深める。学修・教育目標のうち、Dと深い関わりを持つ。	「論理的に考える」トレーニングを通じ、社会・公民・教育における「諸問題」に関わる ・他者の論証を正確に理解することができる、 ・自らの見解を論証することができる、 ・他者との対話を構築することができる。さらに、 ・自らの問題意識の元に、一定の問題について、「立論」「批判」「異論」を展開することができる。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
社会科教育特講A	社会科教育に関する理論や実践について、その本質や歴史、現状と課題等、具体的なテーマ・内容を取り上げて講義する。	社会科教育専攻の選択専門科目の1つである。社会科教育専攻の1専門分野である社会科教育についての基礎的知識・理解を得るとともに、社会科教育分野への幅広い興味・関心をもつ。学修・教育目標のうち、特にDと深い関わりをもつ。	・社会科教育についての基礎的知識・理解を得る。 ・取り上げたテーマ・内容を中心にして、社会科教育への幅広い興味・関心をもつ。	a	0
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
社会科教育特講 B	社会科教育に関する理論や実践について、その本質や歴史、現状と課題等、具体的なテーマ・内容を取り上げて講義する。	社会科教育専攻の選択専門科目の1つである。社会科教育専攻の1専門分野である社会科教育についての基礎的知識・理解を得るとともに、社会科教育分野への幅広い興味・関心をもつ。学修・教育目標のうち、特にDと深い関わりをもつ。	社会科教育についての基礎的知識・理解を得る。 ・取り上げたテーマ・内容を中心にして、社会科教育への幅広い興味・関心をもつ。	a	0
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
社会科研究セミナー I	社会科教育の諸分野（日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等）のうち、受講生が3年次に選択した分野について、各教員のもとで本セミナーは開講される。各分野では、「卒業論文」作成に向け、受講生自らの問題意識のもとでテーマ設定を行い、調査・研究し、発表する力を養う。	「社会科教育専攻専門科目」の必修科目である。社会科教育専攻の諸分野（日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等）のうち、受講生が選択した分野に関する専門的知識および方法論を伝授し、当該専門分野への受講生の理解を深めることによって、同時に、社会科教育への興味・関心を喚起する。学修・教育目標のうち、C、D、Eと深い関わりをもつ。	社会科教育専攻の諸分野のうち、選択した分野の専門的知識と方法論を習得する。 ・習得した専門的知識と方法論を基礎に、社会科教育へのさらなる興味・関心を高める。 ・習得した専門的知識と方法論を基礎に、卒業論文作成に向けて、自らの「問題設定」に関する論（文）を構築する力を身につける。	a	0
				b	0
				c	0.3
				d	0.4
				e	0.3
				f	0
社会科研究セミナー II	社会科教育セミナーIIに続く科目である。社会科教育の諸分野（日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等）のうち、受講生が3年次に選択した分野について、各教員のもとで本セミナーは開講される。各分野では、「卒業論文」作成に向け、受講生自らの問題意識のもとでテーマ設定を行い、調査・研究し、それを発表する力を養う。	「社会科教育専攻専門科目」の必修科目である。社会科教育専攻の諸分野（日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等）のうち、受講生が選択した分野に関する専門的知識および方法論を伝授し、当該専門分野への受講生の理解を深めることによって、同時に、社会科教育への興味・関心を喚起する。学修・教育目標のうち、C、D、Eと深い関わりをもつ。	社会科教育専攻の諸分野のうち、選択した分野の専門的知識と方法論を習得する。 ・習得した専門的知識と方法論を基礎に、社会科教育へのさらなる興味・関心を高める。 ・習得した専門的知識と方法論を基礎に、卒業論文作成に向けて、自らの「問題設定」に関する論（文）を構築する力を身につける。	a	0
				b	0
				c	0.3
				d	0.4
				e	0.3
				f	0
卒業論文	社会科教育の諸分野（日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等）のうち、受講生が3年次に選択した分野について、自らの問題意識のもとでテーマ設定を行い、調査・研究し、論文執筆および口頭発表を行う。	社会科教育専攻の必修科目である。社会科の専攻専門科目を集大成する機会として位置づけられる。学修・教育目標のうち、C、D、Eと深い関わりをもつ。	研究分野ごとに、専門的知識と応用力を身につける。 ・自らの問題意識をもとに課題設定を行い、立論のための文献、史料、データ等を収集・分析することができる。 ・科学的思考にもとづき、説得的な議論を組み立てることができる。 ・研究成果をわかりやすく発表することができる。 ・研究成果をまとめ、卒業論文を作成すること。 ・卒業論文の内容をわかりやすく発表できること。	a	0
				b	0
				c	0.3
				d	0.4
				e	0.3
				f	0
代数学概論	本授業では、学校教育における算数・数学の基礎である整数の世界を学ぶ。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目である。学校教育における算数・数学科の内容の背景にある数学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	約数や素数について理解する。 ・ユークリッドの互除法について理解する。 ・素因数分解の一意性について理解する。 ・合同式について理解する。	a	0
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.6
				e	0
				f	0
幾何学概論	図形と方程式に関する理論である解析幾何学について講義する。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目である。学校教育における算数・数学科の内容の背景にある数学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	座標系を設定し、図形と方程式を同一の数学的対象と見なす考え方を理解する。 ・円錐曲線の基本性質を理解し、さらに、円錐曲線の方程式が2次方程式であることを理解する。 ・座標変換について理解する。 ・座標変換を用いて2次方程式の標準形を導く方法を修得し2次曲線の分類定理を理解する。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0
解析学概論	微分・積分は「解析学」と呼ばれる分野の基礎・基盤であり、「統計学」や「微分幾何学」などを学修する場合にも必要不可欠である。この講義では、極限や微分・積分の計算力を養うとともに、解析学の基礎を身につける。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目であり、数学の専門分野の1つである「解析学」における基礎・基本である。本授業では、主に微分・積分についての基本的な知識・技能を修得する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	数列の和や極限の意味がわかり、級数の和や極限値が計算できる。 ・関数の極限や微分の意味がわかり、極限や微分の計算ができる。 ・平均値の定理やテイラーの定理を、関数の解析に応用できる。	a	0
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.6
				e	0
				f	0
統計学	次期学習指導要領算数・数学科において統計教育の一層の拡充が示されている。その親学問である統計学の基本的な諸概念や手法について、統計的な問題解決を通して学んでいく。	数学とはどのような学問なのかを知ること。小中高を通して学生諸君は問題の解き方ばかりで学問としての数学を習ったのではないと思う。数学の教員になるうえで数学を知らなければならないことは当たり前のことである。この授業はそのための授業であり、そのための題材は統計の諸概念である。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	統計学の基礎的な諸概念や手法について理解すると共に、それらを用いて統計的な探究を遂行することができる。 ・小・中・高等学校で取扱う統計的な内容の統計学的な背景について考察することができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
情報基礎	はじめに情報処理に関する基礎知識やコンピュータの概要について学ぶ。授業の主目的はプログラミングを通して情報及び数学の基本を理解することである。	数学とはどういう学問なのかを知ること。小中高を通して学生諸君は問題の解き方ばかりで学問としての数学を習ったことはないと思う。数学の教員になるうえで数学を知らなければならないことは当たり前のことである。この授業はそのための授業であり、そのための題材はプログラミングである。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	思い通りにプログラムが組めること。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0
離散数学	離散数学の一分野である数え上げ理論の基礎について講義する。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目である。学校教育における算数・数学科の内容の背景にある数学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順列、組合せについて、対応の概念を利用した統一的な取り扱い方法を理解する。</li> <li>・数え上げ理論の3大原理である「包除原理」、「差分方程式(漸化式)」、「母関数」について理解する。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
代数学基礎	本授業は「幾何学基礎」の続きであり、線形代数の中でも特に代数的な側面に注目し、行列を中心に学修する。学校教育における数と方程式および行列に関する話題の発展的な内容を扱う。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための選択必修科目である。学校教育における算数・数学科の内容の背景にある数学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行列の基本変形について理解する。</li> <li>・行列の階数について理解する。</li> <li>・逆行列について理解する。</li> <li>・行列式について理解する。</li> <li>・固有値と固有ベクトルについて理解する。</li> <li>・行列の対角化について理解する。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
幾何学基礎	「幾何学概論」で学習した解析幾何学の方法を発展させ、図形や空間についての理解をさらに深めるため、線形代数の初歩的内容について講義する。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための選択必修科目である。学校教育における算数・数学科の内容の背景にある数学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	主に2次行列についての例題を解くことにより、以下の項目を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・行列の演算</li> <li>・線形変換</li> <li>・行列式</li> <li>・行列の固有値、対角化</li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0
解析学基礎	微分・積分は「解析学」と呼ばれる分野の基礎・基盤であり、「統計学」や「微分幾何学」などを学修する場合にも必要不可欠である。この講義では、極限や微分・積分の計算力を養うとともに、解析学の基礎を身につける。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目であり、数学の専門分野の1つである「解析学」における基礎・基本である。本授業では、主に微分・積分についての基本的な知識・技能を修得する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積分や広義積分の意味がわかり、積分の計算ができる。</li> <li>・具体的な図形の面積が計算できる。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
関数論基礎	微分・積分は「解析学」と呼ばれる分野の基礎・基盤であり、「統計学」や「微分幾何学」などを学修する場合にも必要不可欠である。この講義では、2変数関数における極限や偏微分・重積分の計算力を養うとともに、解析学の基礎を身につける。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目であり、数学の専門分野の1つである「解析学」における基礎・基本である。本授業では、主に微分・積分についての基本的な知識・技能を修得する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2変数関数の極限や偏微分の意味がわかり、極限や偏微分の計算ができる。</li> <li>・平均値の定理やテイラーの定理を、2変数関数の解析に応用できる。</li> <li>・重積分の意味がわかり、具体的な図形の体積を求めることができる。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.6
				e	0
				f	0.1
位相幾何学基礎	1次元の位相幾何学の理論であるグラフ理論の基礎について講義する。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための選択必修科目である。学校教育における算数・数学科の内容の背景にある数学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの構造に関する基本概念(木、オイラーグラフ、ハミルトングラフ、マッチング、平面的グラフ)について理解する。</li> <li>・グラフの彩色問題と四色問題について理解する。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
確率論	理論としての確率論を構成してゆく。高校時代に学習した確率の問題がどのように一般化され、抽象化されてゆくかを述べ、一般的にどのようなことが成り立つのかを調べる。	数学とはどういう学問なのかを知ること。小中高を通して学生諸君は問題の解き方ばかりで学問としての数学を習ったことはないと思う。数学の教員になるうえで数学を知らなければならないことは当たり前のことである。この授業はそのための授業であり、そのための題材は確率の諸概念である。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	分布関数と密度関数を理解し、平均、分散の意味を理解すること。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
数学科教育法Ⅰ	中学校・高等学校数学科の学習指導に関わる基本的な知識の習得をねらい、数学科の目標、内容、指導方法、評価について、具体的な教材を例に挙げながら講義する。	中学校教員免許取得に必須の科目である。中学校・高等学校数学科を指導するに当たっての基本的な知識・技能を修得する。学修・教育目標のうち (B) , (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学科の目標、内容、指導方法、評価についての基礎的な知識・技能を修得する。</li> <li>生徒の数学の学習指導上の実態についての理解を深める。</li> </ul>	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.4
				e	0
				f	0
数学科教育法Ⅱ	学習指導要領に示された中学校数学科の目標と学習内容（主に、関数、データの活用）をはじめ、数学の学習指導の過程、学習評価の考え方など、数学の授業をつくる上での基礎を学ぶとともに、数学科教員として必要な基本的な資質・能力を習得する。	中学校教員免許取得に必須の科目である。中学校・高等学校数学科において一層重視される数学的活動について学ぶ。学修・教育目標のうち (B) , (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校数学科の目標、内容（主に、関数、データの活用）及び指導方法に関する基礎的な知識を獲得する。</li> <li>中学校数学科の内容やその指導方法への関心・意欲を高め、授業実践に活かそうとする。</li> <li>中学校数学科の指導内容を踏まえ、教材のもつ数学的な背景や教育的意義について考察することができる。</li> <li>数学の指導案や授業展開の仕組みなど、数学の指導法の基礎について理解することができる。</li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.4
				e	0
				f	0.1
数学科指導論	数学の学習指導に関わるテーマについて、グループ学習を行い、成果を共有する。	中学校教員免許一種（数学）取得に必須の科目である。数学科における学習指導上の諸問題を踏まえて、適切な学習活動を組織するための知識・技能を育成する。学修・教育目標のうち (B) , (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学の指導を通して育成すべき力について理解する。</li> <li>学習指導上の諸問題を踏まえて、授業づくりの方法について理解を深める。</li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.4
				e	0
				f	0.1
数学科教材論	初・中等教育の数学における基本概念（数、量、図形）について講義する。	中学校教員免許一種（数学）を取得するための必修科目である。学校教育における算数・数学科の基本概念（数、量、図形）の数学的背景について学習する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実数の概念がどのようにして確立したのかを理解する。</li> <li>面積と体積に関するボヤイ・ケルピンの定理やデーレンの定理について理解する。</li> <li>定規とコンパスにより作図可能な図形について理解する。</li> <li>数学と自然科学との関係を理解する。</li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.4
				d	0.4
				e	0
				f	0
代数学Ⅰ	本授業では、「群」とよばれる概念を学び、その世界の広さと、非常に基本的に思える定義から様々な性質が導かれることを学ぶ。	数学分野の選択専門科目である。中高における数学の内容の背景にある代数学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>群の定義を理解する。</li> <li>部分群と剰余群について理解する。</li> <li>指数について理解する。</li> <li>ラグランジュの定理を理解する。</li> <li>正規部分群と剰余群について理解する。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
代数学Ⅱ	本授業は、代数学Ⅰの続きであり、「群」「環」「体」とよばれる概念を学び、その世界の広さと、非常に基本的に思える定義から様々な性質が導かれることを学ぶ。	数学分野の選択専門科目である。中高における数学の内容の背景にある代数学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>群の準同型写像について理解する。</li> <li>群の準同型定理を理解する。</li> <li>環、整域、体について理解する。</li> <li>部分環、部分体について理解する。</li> <li>イデアルと剰余環について理解する。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
幾何学Ⅰ	平面曲線と空間曲線に関する微分幾何学について講義する。	数学分野の選択専門科目である。中高における数学の内容の背景にある幾何学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平面曲線については <ul style="list-style-type: none"> <li>長さや曲率などの基本概念について理解する。</li> <li>曲線論の基本定理を理解する。</li> <li>閉曲線の回転数や全曲率について理解する。</li> </ul> </li> <li>(2) 空間曲線については <ul style="list-style-type: none"> <li>長さ、曲率、捩率などの基本概念について理解する。</li> <li>Frenet-Serre の公式を理解する。</li> <li>曲線論の基本定理を理解する。</li> <li>常微分方程式の解の存在と一意性について理解する。</li> </ul> </li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0
幾何学Ⅱ	曲面に関する微分幾何学について講義する。	数学分野の選択専門科目である。中高における数学の内容の背景にある幾何学の理論について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲面の第1基本量と第2基本量について理解する。</li> <li>曲面論の基本定理を理解する。</li> <li>曲面のガウス曲率と平均曲率について理解する。</li> <li>ガウス驚異の定理を理解する。</li> <li>測地線について理解する。</li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
解析学Ⅰ	複素数や複素関数は単に数学的に魅力があるだけでなく、自然現象を、数学的に説明したり表現したりするときに非常に有効である。この講義では、複素数や複素関数の性質、複素関数の微分積分法について学修し複素数の世界における解析学に親しむことを目標とする。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目であり、数学の専門分野の1つである「解析学」における基礎・基本である。本授業では、主に複素関数の微分・積分についての基本的な知識・技能を修得する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素平面上の図形を表現できる。</li> <li>・簡単な領域の複素関数による像が計算でき、複素平面上に像を描くことができる。</li> <li>・極限や微分の意味がわかり、複素関数を微分できる。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
解析学Ⅱ	<p>本講義では数列及び関数に関する基本的知識を修得することを目的とする。対象とするのは実数の数列と実数から実数への関数である。これらの知識は数学全般にわたっての基礎となるものであり、数学を勉強してゆく上で必須である。具体的には特に数列の収束、関数の極限、関数の連続性の概念を理解する。</p> <p>高校時代に学習した関数はほとんどが連続関数であるため、連続でない関数との違いを鮮明にすることによって高校で学習した関数というものの理解をさらに深めるだろう。</p>	<p>数学とはどういう学問なのかを知ること。小中高を通して学生諸君は問題の解き方ばかりで学問としての数学を習ったことはないと思う。数学の教員になるうえで数学を知らなければならないことは当たり前のことである。この授業はそのための授業である。解き方ばかりでなく、学問としての数学を教えられるようになること。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。</p>	<p>数列の収束、関数の極限、関数の連続性の概念を理解する。</p>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0
数学教育特講	国、県、市町の教育施策や学校における算数・数学科の学習指導の実践の現状を紹介し、教材の解釈・検討についての演習を通して算数・数学科の学習指導の在り方について講義する。	中学校教員免許一種（数学）取得に必須の科目である。算数・数学の教育実践の現状と課題を知るとともに、教材研究の方法を学ぶ。学修・教育目標のうち (B) , (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、県、市町の教育施策や学校における算数・数学科の学習指導の現状を理解する。</li> <li>・教材を解釈、検討する方法を修得する。</li> <li>・算数・数学科の学習指導の在り方を理解する。</li> </ul>	a	0
				b	0.3
				c	0.4
				d	0.3
				e	0
				f	0
数学研究セミナーAⅠ	ユークリッド「原論」第1巻をテキストとしてセミナーをおこなう。	<p>数学分野の選択専門科目である。卒業研究を行うために必要な論理的思考法および表現法について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「論証とは何か」を具体的に理解する。</li> <li>・論理的思考法および表現法を修得する。</li> <li>・セミナー形式による数学の学習方法を修得する。</li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0
数学研究セミナーAⅡ	複素数や複素関数は単に数学的に魅力があるだけでなく、自然現象を、数学的に説明したり表現したりするときに非常に有効である。この講義では、複素数や複素関数の性質、複素関数の微分積分法について学修し複素数の世界における解析学に親しむことを目標とする。	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目であり、数学の専門分野の1つである「解析学」における基礎・基本である。本授業では、主に複素関数の微分・積分についての基本的な知識・技能を修得する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素積分の意味がわかり、複素関数を積分できる。</li> <li>・コーシーの積分定理が応用できるとともに、正則関数を級数展開できる。</li> <li>・留数定理を応用し積分できる。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
数学研究セミナーBⅠ	本授業では、代数学Ⅰ、代数学Ⅱで扱う概念である「群」「環」「体」について、セミナー形式で学ぶ。	<p>数学分野の選択専門科目である。卒業研究を行うために必要な論理的思考法および表現法について学修する。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的な概念である「群」「環」「体」について理解する。</li> <li>・論理的思考法および表現法を修得する。</li> <li>・セミナー形式による数学の学習方法を修得する。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.7
				e	0
				f	0
数学研究セミナーBⅡ	本講義では解析学序論で学習した内容を用いて、微分・積分の性質を調べる。定積分の一般的な定義が高校時代に学習した内容とどのように関係しているかなどを述べる。その後、無限級数の和について講義を行う。先人たちによって研究がされてきた興味ある級数などを調べる。解析学の主要な分野である関数の作る列について講義する。関数列の収束にはいろいろな種類があること、またそれぞれで極限の性質が異なることを学ぶ。	<p>数学とはどういう学問なのかを知ること。小中高を通して学生諸君は問題の解き方ばかりで学問としての数学を習ったことはないと思う。数学の教員になるうえで数学を知らなければならないことは当たり前のことである。この授業はそのための授業である。解き方ばかりでなく、学問としての数学を教えられるようになること。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。</p>	<p>関数列の収束</p>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.5
				e	0
				f	0
数学研究セミナーCⅠ	<p>数学教育学の入門として、基本文献の講読を通して、自らの関心に基づき、研究テーマを設定する。</p>	<p>本授業では、学生個人の研究の関心事を明確にするとともに、文献講読を通して文献の読み方、研究の進め方について実践的に学ぶ。本授業は、卒業論文研究をする上での準備としての意義も持つ。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学教育学について、数学教育研究の動向をほはじめ、各分野の研究成果と課題について理解する。</li> <li>・和文、欧文の研究論文を正確に読むことができる。</li> <li>・関心のある研究テーマを見出すことができる。</li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.4
				d	0.4
				e	0
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
数学研究セミナーC II	数学教育学の入門として、教材研究に関する基本文献の購読を通して、自らの関心に基づき、研究テーマを設定する。	数学教育の基礎を習得した上で、本授業では、更に、生徒の実態に即した教材開発や指導方法について学ぶ。本授業は、卒業論文研究をする上での準備としての意義も持つ。学修・教育目標のうち (C) および (D) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生涯学び続けることのできる教員」の基礎・基本として、算数・数学における教材研究を行う資質・能力を獲得することができる。</li> <li>・関心のある研究テーマを見いだすことができる。</li> <li>・見いだした研究テーマについてプレゼンすることができる。</li> </ul>	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.4
				e	0
				f	0.1
卒業論文	数学分野に所属する卒業年次の学生が対象である。学生は各研究室に配属され、卒業論文作成のための研究を行う。	数学分野の必修科目である。数学教育に関する大学4年間の学修成果を集大成する機会として位置づけられる。学修・教育目標のうち (B) , (C) および (E) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野ごとに、専門的知識を深く理解すること。</li> <li>・研究分野ごとに、課題を発見し解決する方法を習得すること。</li> <li>・研究成果をまとめ、卒業論文を作成すること。</li> <li>・卒業論文の内容をわかりやすく発表できること。</li> </ul>	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.1
基礎の物理学	この授業科目は、教員免許中学校教科「理科」に係る科目である。物理学の基礎であるニュートン力学について講義する。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目であり、理科分野の1分野である「物理学」の基礎科目であるニュートン力学について基礎的知識を学ぶ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	物理学の基礎であるニュートン力学について理解する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
物理学	物理学の基礎科目である。電気と磁気、物質の微視的な構造、核エネルギーについて講義する	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目であり、理科分野の1分野である「物理学」の基礎科目である電気と磁気、物質の微視的な構造、核エネルギーについて基礎的知識を学ぶ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気と磁気、物質の微視的な構造、核エネルギーについて、われわれの生活や技術と物理学の関わりについて知る。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
基礎の化学	物質の構造と性質、化学反応、無機化学、有機化学などに関わる基礎的な理論を理解する。化学と生活や産業との関わり、及び地球環境保全のための化学についても理解を深める。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。理科分野の1専門分野である「化学」に関する入門編としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学の基礎理論、物質の構造と性質、化学反応、無機化学、有機化学などに関わる基礎を修得する。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
化学	化学の基礎理論、物質の構造・性質・反応、生活や産業との関わり、及び地球環境保全のための化学について理解を深める。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。理科分野の1専門分野である「化学」に関する入門編としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子の構造と性質、化学結合及び結晶構造、化学反応、平衡、酸化還元について、高校+αに理解を深める。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
基礎の生物科学	高等学校までで学習する生物学の基礎的な内容を解説・説明する。	中学校・高等学校の「理科」の免許を取得するための必修科目であり、理科分野の1専門分野である「生物学」の入門としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校、高校の教科書に書かれている生物分野の内容を正しく理解する。</li> <li>・中学校、高校の教科書に書かれている生物分野の内容を正確に説明できるようになる。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
生物科学	生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。理科分野の1専門分野である「生物学」に関する入門編としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが大切である。生物学はその大きな助けになるように思える。本講義の目的は、生命現象を理解する上の基礎的情報を提供することにある。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
基礎の地球科学	この授業では地学諸分野のうち、時間数の関係で、全てを網羅せず、広い意味での地質学を主体に、一部、気象や天文に関わる内容を学ぶ。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。理科分野の1専門分野である「地学」に関する入門編としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	小中学校の理科で扱う、地学のうち主として地質学分野について、背景知識をふくめ、十分な理解ができることを目指す。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
地球科学	地球科学分野のできるだけ広い領域での基礎専門的内容について習得できるように、できるだけ今日的テーマを扱って、地球科学の基礎概念を解説していく。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。地球科学分野での現代社会で求められている内容（例えば、地震、火山、気象、自然環境など）について、地球科学基礎を確実に習得することで、自然現象の理解を深める。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	今日的な話題をできるだけ取り扱うことで、地球科学分野での基礎的内容を習得することである。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
基礎物理学実験	物理学の基礎的な実験を行い、物理現象・器具の取扱いの把握および報告書の作成を学ぶ	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目であり、理科分野の1分野である「物理学」の基礎科目である物理学の基礎的な課題実験を通じ、測定技術を習得するとともに、物理現象を理解する。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	物理学の基礎的な課題実験を通じ、 ・測定技術を習得する ・物理現象を理解する。 ・実験報告書の書き方を学ぶ。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
基礎化学実験	化学実験の基礎技術を学び、さらに化学の法則を自ら実験によって確かめる。状態変化、化学変化、中和滴定、定性分析、有機合成、無機合成などを題材に取り上げる。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。理科分野の1専門分野である「化学」に関する入門編としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	・中学校の理科教員として必要な「化学実験」の基礎的技能を修得し、及びその指導法を理解する。 ・高等学校の理科教員として必要な「化学実験」の基礎的技能を修得し、及びその指導法を理解する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
基礎生物学実験	高等学校までで学習する生物分野の実験や、生物を研究するために必要な基礎的な内容にあたる実験を行う。 基本的には、毎回実験や観察を行い、実験のレポートを課題とともに課す。	中学校・高等学校の「理科」の免許を取得するための必修科目である。理科分野の1専門分野である「生物学」の実験に関する入門としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	・基礎的な生物実験の方法を身につける。 ・各実験の内容を理解する。 ・生物分野のレポートの書き方を修得する。 ・考察の仕方の基礎を身につける。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
基礎地学実験	地球科学の基礎的な内容について、野外実習と室内実験によって習得する。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。地学についての基礎知識を実験観察を通じて学び、専門領域についての理解を深める。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	この講義の到達目標は、地学的現象・事象の野外及び室内での観察、実験、観測を通じて、自然を見る目を養い、その研究方法を体得することにある。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
力学	物理学の基礎科目である、物体と力の相互作用について、理想的な条件のもとで物体の運動を調べて、その相互作用の本質の理解に接近するという力学の常套的な方法を学ぶ。	理科分野の選択科目の一つとして、物理分野の基礎科目である「力学」について理解を深める。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	・質点の運動をあくまでニュートンの運動方程式をたてて力学現象を表現し、その解を求めることによって運動の原因と結果の関係を理解する態度を徹底的に追及する。 ・簡単な微分方程式を解く技術を駆使して落体の運動、放物体の運動、調和振動子、円運動、楕円運動等の中心運動、相対運動等について理解する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
電磁気学	磁場から初めてマックスウェルの電磁場方程式に至るまでの思考過程を辿りながら電磁気現象の基本法則を理解する。	理科分野の選択科目の一つである。「物理学」の基礎科目である電磁気学について学ぶ。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	電磁気現象の基本法則を定量的に理解することを目標とする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
有機化学	有機化学の基礎理論、脂肪族及び芳香族有機化合物の構造・性質・反応、生活や産業との関わり、及び地球環境保全のための化学について理解を深める。	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための教科選択科目である。理科分野の1専門分野である「化学」に関する応用編としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(E)と深い関連がある。	・脂肪族有機化合物を題材に、異性体・置換反応・付加反応の基礎理論を修得する。 ・芳香族有機化合物を題材に、化学反応とエネルギー・反応の選択性の基礎を修得する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
物理化学	平衡論において変化の指針となる自由エネルギーを導出し、平衡定数、標準電極電位といったデータから、化学変化の方向を知る方法を学ぶ。	理科分野の選択専門科目の一つとして、中高の理科教員に必要な物理化学の基礎知識を授け、この分野への幅広い興味関心を喚起する。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(E)と深い関連がある。	・エントロピーのイメージを持てる。 ・自由エネルギーの取り扱い方が判る。 ・平衡定数、標準電極電位を用いて、起きるべき化学変化を知ることができる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
生命科学	生物分野の遺伝学や分子生物学の内容を解説する形の講義である。特に、生命の根幹に係わると考えられる「遺伝子」について、遺伝現象との関係を含め、説明する。	高等学校の「理科」の免許を取得するための選択科目である。理科分野の1専門分野である「生物学」、特に遺伝学や分子生物学に関する基礎的内容を取り扱い、この分野への幅広い興味関心を喚起する。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(E)と深い関連がある。	・高校生物で扱う、遺伝学領域の内容を正しく理解する。 ・分子生物学の基礎的内容を正しく理解する。 ・上記の内容を正確に説明できるようになる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
環境地質学	第四紀の環境変動と人類の進化、およびそれを復元するために用いられる地質学的分析手法を系統的に説明する	この授業は、理科分野の選択科目の一つである。学校教育で求められる地学についての基礎について理解を深める。その中には災害など実生活に関係の深い内容も含む。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(E)と深い関連がある。	第四紀の環境変動と人類の進化、およびそれを復元するために用いられる地質学的分析手法を理解できるようにする	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
固体地球科学	地球科学の地球物理学、気象学、火山学、岩石学、地球化学の固体地球科学分野での基礎専門的内容について習得するために、それぞれ分野での基本的な学問体系をできるだけ平易な事例で解説していく。	この授業は、理科分野の選択科目の一つである。固体地球科学分野の基本的なテーマを通して、学問体系の概要について基礎的専門的理解を深める。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(E)と深い関連がある。	地球科学の基本的分野の理解を確かなものにするとともに、今日的話題も扱うことで、その分野のもつ先端テーマの問題点も理解できるようにする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
環境分析化学実験	水質の調査方法の修得を目的とする。前半は分析基礎として、主に滴定により水溶液中に含まれている物質の定量分析を行う。後半は分析応用として、機器分析などにより水質の調査を行う。	理科分野の選択専門科目の一つとして、中学校理科、高等学校化学の教員として必要な化学実験の技術・知識を身につける。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(F)と深い関連がある。	・一人で滴定をできるようにする。 ・平衡定数、標準電極電位と実際の化学変化との関係が理解できる。 ・化学実験の準備から後片付けまでをできるようにする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.2
生命科学実験	動物の飼育方法と植物の栽培方法を、動物(魚類および両生類)の飼育および植物の栽培を実際に行ない習得する。同時に、飼育・栽培記録の付け方を学ぶ。	理科教育分野の選択科目の一つである。中・高の理科教員として生物領域の実験のための動物(魚類と両生類)の飼育と植物の栽培に関する知識・技術を身につける。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(F)と深い関連がある。	魚類と両生類の飼育管理を行い、生物飼育の実際を習得する。 植物の栽培をと行ない、植物栽培と管理の実際を習得する。 飼育記録、栽培記録の作成法を身につける。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.2
環境地質学実験	地質学と環境地質学に関する実験・観察の基礎的手順を実施できるようにする。また、実験・観察を通じて、地質や化石のさまざまな観察事実から、どのような意味が読み取れるのか、を探索的に考察できるようにする	理科分野の選択専門科目の一つとして、地学についての基礎知識を実験観察を通じて学び、専門領域についての理解を深める。専門教育学習・教育目標のうち(D)及び(F)と深い関連がある。	実験観察の手順と探求的考察に習熟できること	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.2



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
中等理科教育法Ⅰ	理科教育の原理を学習するとともに、中学校における理科教育を行うに当たっての心得や指導上の留意事項等を解説する。	中学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。中学校理科の学習内容と指導方法についての基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち（B）及び（D）と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校理科教育の基礎理論について理解を深める。</li> <li>・中学校理科の目標・内容、構造、学習指導方法について理解を深める。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
中等理科教育法Ⅱ	中学校理科に関わる目的・内容・方法等について、学習指導要領の解説、教材、授業づくりなどに関する講義を行い、精選された題目についての観察・実験を行う。	中学校の「理科」免許を取得するための必修科目である。中学校理科の学習内容と指導方法についての基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち（B）及び（D）と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校理科教育の基礎理論について理解を深める。</li> <li>・中学校理科の目標・内容、構造、学習指導方法について理解を深める。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
中等理科教材論	中学校理科に関する教材について、物理、化学、生物、地学の各分野の専門的観点から解説を行ない、受講者には必要に応じて準備した資料についての発表をせよ。また、必要に応じて教える内容についての解説も行なう。	中学校の「理科」1種免許を取得するための必修科目である。中学校理科の教科内容と適切な教材について理解することを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち（B）及び（D）と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校理科における教材についての考え方を深める。</li> <li>・中学校で学習する理科の内容が、小学校・高等学校での学習内容と密接に関連することを理解する。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
中等理科指導論	教壇に立つために、①人前で理科の1テーマに関する口頭発表を行う、②中学校理科の30分授業の学習指導案を書き、実際に模擬授業を行う。	中学校の「理科」1種免許を取得するための必修科目であり、小中学校教育実習において授業を実施するためのマナーとスキルを修得することを目的とする。専門教育学習・教育目標のうち（B）及び（D）と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校理科1時間分の学習指導案を書くことができる。</li> <li>・人前で1時間分の授業を行うことができる。</li> <li>・他人の授業を前向きに評価することができる。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
理科教材実験法A	主として中学校理科第1分野におけるいくつかの単元を取り上げ、理解させるべき内容、指導上留意すべき点について、具体的に実験を行いながら解説する。	理科分野の選択専門科目の一つとして、中学校理科における実験についての基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち（B）及び（D）と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験における測定値の取り扱いについて習得する。</li> <li>・力と運動に関する単元の指導法について理解を深める。</li> <li>・電気単元の指導法について理解を深める。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
理科教材実験法B	小・中学校理科における様々な観察・実験の中から精選した題目について、受講生自身が教材研究を行う。	理科分野の選択専門科目の一つとして、小・中学校理科における観察・実験についての基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち（B）及び（D）と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校理科における観察・実験についての基礎的な理解を深める。</li> <li>・小・中学校理科における観察・実験に必要な技能・操作を習得する。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
原子物理学	原子物理の世界を支配する物理法則を学ぶ。力学、電磁気学を履修した学生を対象に理解を深める。	理科分野の選択科目の一つである。「物理学」の基礎科目である物質の微視的な構造、核エネルギーについて基礎的知識を学ぶ。専門教育学習・教育目標のうち（D）及び（E）と深い関連がある。	原子の世界を支配する法則・物理現象を知ること为目标とする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
環境生化学	生命の化学について、分子のレベルから考える。糖質、脂質、タンパク質及び核酸について取り扱う。応用として、DNAモデルの組み立てを行う。	理科分野の選択専門科目の一つとして、中学校「理科」や高等学校「化学」及び「生物」の背景にある「生化学」に関する、入門編としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち（D）及び（E）と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脂質、糖質についての基礎理論を理解する。</li> <li>・タンパク質及び核酸についての基礎理論を理解する。</li> <li>・DNAモデルの組み立てを通じて、その構造を理解する。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
無機化学	電子のエネルギーという観点から物質の構造や化学結合を解釈し、物質の性質に関する理解を深める。	理科分野の選択専門科目の一つとして、中高の理科教員に必要な無機化学の基礎知識を授け、この分野への幅広い興味関心を喚起する。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	・原子内の電子の状態を知る。 ・化学結合における電子の役割が判る。 ・電子が持つことのできるエネルギーと物質の性質との関係が判る。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
天文と宇宙	地球が宇宙のひとつの天体であることを認識できるようになること。古代の人々は、夜空の星の運行から季節を知り、暦をつくり、農耕文化を拓いてきた。やがて、太陽、星の動きを統一的に体系化したものとして地球中心の天文観として天動説が登場した。この天動説は、火星など星の運行の観測が精密になるにつれて綻びが顕になり、地動説へと転換した。このように、天文学の発展は、それまでに人々の経験から得られた概念が、新たな観測技術の発展により自然の情報が精密化されることによつて、覆され、得られてきた。今年、ガリレオが1609年に初めて夜空に望遠鏡を向けてから400年の節目の年に当たる。この年に、ガリレオが何を成したのかを理解し、彼に続く研究者が如何なる観測から今日の宇宙像を描いているかを学習し、夏の夜空が科学の目で見えるようになることを到達目標とする。具体的には、天球の作図、星の絶対光度と距離、星の種族と進化、銀河の形態と進化、銀河団の構造と進化、宇宙の進化の基礎的知識を修得することを目標とする。 太陽系内天体の特徴について学習すると共に今年度大学に設置された望遠鏡を用いて、太陽系内天体の観測を行う。	理科分野の選択専門科目の一つとして、自然科学の専門的内容について理解を深める。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	天文学について理解を深めるとともに、天体望遠鏡を用いた基礎的観測技術を身につける	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
気象学	気象学の基礎を勉強しながら、実際の低気圧や前線などの気象現象との関係を理解し、さらに、気象の観測や地球温暖化などについても講義します。	理科分野の選択専門科目の一つとして、自然科学の専門的内容について理解を深める。専門教育学習・教育目標のうち (D) 及び (E) と深い関連がある。	気象現象の仕組みと特徴を理解し、身近な生活に密着した気象、および地球環境問題などについて理解を深め、気象に関する教育に必要な知識と能力を養成します。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
理科教育学実験 A	小・中・高等学校理科の化学、生物学領域における様々な観察・実験の中から精選した題目について、受講生自身が観察・実験を行う。	理科分野の選択専門科目の一つとして、小・中・高等学校理科の化学、生物学領域における観察・実験についての基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち (B) 及び (D) と深い関連がある。	・小・中・高等学校理科の化学、生物学領域における観察・実験についての基礎的な理解を深める。 ・小・中・高等学校理科の化学、生物学領域における観察・実験に必要な技能・操作を習得する。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
理科教育学実験 B	小・中・高等学校理科の物理学、生物学領域における様々な観察・実験の中から精選した題目について、受講生自身が観察・実験を行う。	理科分野の選択専門科目の一つとして、小・中・高等学校理科の物理学、生物学領域における観察・実験についての基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち (B) 及び (D) と深い関連がある。	・小・中・高等学校理科の物理学、生物学領域における観察・実験についての基礎的な理解を深める。 ・小・中・高等学校理科の物理学、生物学領域における観察・実験に必要な技能・操作を習得する。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
理科研究セミナー I	理科教育、物理、化学、生物、地学における研究方法を理解するとともに、現在の理科分野における主要なトピックスについての論文を読み知識・見識を深める。	理科分野専門の必修科目である。理科教育、物理、化学、生物、地学に関する基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち (B) , (D) 及び (E) と深い関連がある。	図書文献や論文の講読を通して、理科教育、物理、化学、生物、地学の研究動向を知るとともに、研究テーマの選び方、研究の進め方についての理解を深める。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
理科研究セミナー II	理科教育、物理、化学、生物、地学における研究方法を理解するとともに、現在の理科分野における主要なトピックスについての論文を読み知識・見識を深める。	理科分野専門の必修科目である。理科教育、物理、化学、生物、地学に関する基礎的な理解を深めることを目標とする。専門教育学習・教育目標のうち (B) , (D) 及び (E) と深い関連がある。	図書文献や論文の講読を通して、理科教育、物理、化学、生物、地学の研究動向を知るとともに、研究テーマの選び方、研究の進め方についての理解を深める。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
卒業研究	理科内容学・理科教育、物理、化学、生物、地学に関するテーマを設定し、文献調査、実験、実地調査などを通じて内容を深め、卒業論文にまとめ発表する。	理科分野専門の必修科目である。小中高の理科教員に必要な「科学的思考」を一つのテーマについて深め、理解できたことを発表する力を養う。専門教育学習・教育目標のうち (B) ~ (F) と深い関連がある。	・理科教育の現場から課題を発見することができる。 ・一つの課題をいろいろな視点から検討していくことができる。 ・専門書や専門の文献を調査し、正しく理解することができる。 ・調査内容を文章としてまとめ、他者に判り易く説明することができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
和声Ⅰ	作曲の基礎となる和声について、三和音基本位置の配置と連結、第1転回位置、第2転回位置、Ⅴの7の和音を使用した課題の実施を行う。	中学校教諭免許取得に必須の科目。教材の作・編曲を行う際の基礎を修得する。専門教育学習・教育目標のうち、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校教諭に必要な作・編曲能力の基礎的な知識・技能を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
和声Ⅱ	作曲の基礎となる和声について、和声Ⅰの学習内容に加えて、Ⅴの9の和音、Ⅱの7の和音、ドッペルドミナントの和音を使用した課題の実施を行う。	中学校教諭免許取得に必須の科目。教材の作・編曲を行う際の基礎を修得する。専門教育学習・教育目標のうち、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校教諭に必要な作・編曲能力の基礎的な知識・技能を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
和声Ⅲ	和声実技(その3)	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、音楽理論(エクリチュール)を学習する。修得目標に到達するために、和声の実技を修練する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために足る、音楽理論(エクリチュール)の能力を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
作曲Ⅰ	作曲実技・編曲実技(その1)	中学校・高等学校音楽2種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)を学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を行う。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽2種免許状教員たるために足る、作曲法(編曲法を含む)を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
作曲Ⅱ	作曲実技・編曲実技(その2)	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)を学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を行う。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために足る、作曲法(編曲法を含む)を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
音楽史A	音楽通史(西洋音楽史を中心に)	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史(西洋音楽史を中心に)を学習する。修得目標に到達するために、音楽通史を講義・演習する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽教員たるために足る、音楽史(西洋音楽史を中心に)の能力を修得する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
音楽史B	音楽通史(日本音楽史および音楽民族学を含む)	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽を含む)を学習する。修得目標に到達するために、音楽通史(音楽民族学を含む)を講義・演習する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽教員たるために足る、音楽史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽を含む)の能力を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.1
音楽分析	楽曲分析実践	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽分析を学習する。修得目標に到達するために、楽曲分析を実践する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽教員たるために足る、音楽分析の能力を修得する。	a	0
				b	0.1
				c	0
				d	0.6
				e	0.1
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
ソルフェージュ	初見視唱、初見ピアノ演奏、リズム、聴音、鍵盤和声、スコアリーディング等の課題を随時実践する。	学部専門教育科目の教育展開科目群「音楽」の教科科目の一つ。音楽指導に必須となる教員の音楽基礎能力を修得する。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。学修・教育目標（ディプロマポリシー）の(B)～(F)に関連し、特に「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深く関わっている。	・初めて見た楽譜を準備なしで歌うことができる。 ・初見視唱) ・初めて見た楽譜を準備なしでピアノで演奏することができる。 ・初見視奏) ・楽譜に書かれたリズムを正確に再現できる。 ・演奏された音を聴き取り楽譜に記すことができる。 ・ピアノを使って四声体の課題を実施することができる。	a b c d e f	0 0.1 0.1 0.4 0.2 0.2
指揮法	この授業では、指揮法の基本と、音楽作りの関係を実践的に学び、合唱、合奏グループを指導する際に必要な技術習得を内容としている。	この科目は中学校教科「音楽」に係る科目で、音楽の教員として学ぶべき必須のものとして免許法で指定されている必修科目である。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。学修・教育目標（ディプロマポリシー）の(B)及び(D)～(F)に関連し、特に「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深く関わっている。	音楽科教育の現場において、音楽科教員が、合唱・吹奏楽・オーケストラを直接指導するということは、日常的に当たり前になっている。指揮は、腕・指揮棒を振る（だけ）という、一見単純・簡単な行為に見えるが、そのメカニズムは意外と複雑である。指揮者として音楽を作り上げるという実践の中では、演奏者と呼吸を合わせることや、人間的にコミュニケーションをとること同等に、指揮のテクニックが必要になる。	a b c d e f	0 0.1 0 0.5 0.2 0.2
声楽A	声楽に必要な演奏基礎技能を習得するため、グループレッスンを中心とした実技指導を行う。レッスンでは、各自が自分の声の特徴を把握し、改善すべき課題を認識することをふまえ、声楽の技能を構成する姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら、具体的な楽曲を通して基礎技能の能力を高める。基礎技能の一つとして、各母音の自然な発声に重点を置いて響きのある安定した発声方法の獲得を目指す。英語を含む外国語歌詞による声楽曲も教材に含め学習する。日本の伝統的な発声、合唱を含みます。	専門教育科目の教育展開科目群「音楽」の教科科目の一つ。歌唱指導をはじめ音楽科教員に必要とされる重要な資質・能力の基礎を習得するための音楽実技科目。「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」及び「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・美しい声、理想的な発声に対するイメージをつかむ事ができる。 ・自己の声楽発声の状況(特徴)を認識することができる、より良い発声とするための課題を明確にすることができる。 ・発声上の課題に継続して取り組み、長期的な視点から自己の発声技術の向上を目指して取り組むことができる ・練習の成果を、具体的な楽曲の中で生かして演奏することができる。 ・日本語、英語、その他諸外国の言語による歌詞の理解を踏まえた演奏をすることができる。 ・音楽科の歌唱指導をふまえ、声楽の能力を修得し高める意義を理解している。	a b c d e f	0.1 0.1 0.1 0.4 0.2 0.1
声楽B	声楽Iの学習内容を継続・発展して行う。声楽Iと同様に、演奏基礎技能を習得するため、グループレッスンを中心とした実技指導を行う。レッスンでは、各自が自分の声の特徴を把握し、改善すべき課題を認識することをふまえ、声楽の技能を構成する姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら、具体的な楽曲を通して基礎技能の能力をさらに高める。英語を含む外国語歌詞による声楽曲も教材に含め学習する。また、声楽演奏に関する基本について実技指導を行う。	専門教育科目の教育展開科目群「音楽」の教科科目の一つ。歌唱指導をはじめ音楽科教員に必要とされる重要な資質・能力の基礎を習得するための音楽実技科目。「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」及び「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・美しい声、理想的な発声に対するイメージをつかむ事ができる。 ・自己の声楽発声の状況(特徴)を認識することができる、より良い発声とするための課題を明確にすることができる。 ・発声上の課題に継続して取り組み、長期的な視点から自己の発声技術の向上を目指して取り組むことができる ・練習の成果を、具体的な楽曲の中で生かして演奏することができる。 ・日本語、英語、その他諸外国の言語による歌詞の理解を踏まえた演奏をすることができる。 ・音楽科の歌唱指導をふまえ、声楽の能力を修得し高める意義を理解している。	a b c d e f	0.1 0.1 0.1 0.4 0.2 0.1
器楽A	中学校の教員に必要なピアノの技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。また和楽器に関する授業も行い、基本的な演奏法などの習得を目指す。	中学校・高等学校の「音楽」免許を取得するための必修科目で、音楽教育専攻の1分野である(器楽)の科目として意義をもつ。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」「(B)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、及び「(E)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	中学校音楽科の教員としての実践的能力や教材研究の基礎能力を身に付けるため、器楽実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の教員としての指導の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄をピアノや和楽器を通して身に付ける。	a b c d e f	0 0.1 0.1 0.4 0.2 0.2
器楽B	中学校の教員に必要なリコーダー、ギター、篠笛の技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。	中学校・高等学校の「音楽」免許を取得するための必修科目で、音楽教育専攻の1分野である(器楽)の科目として意義をもつ。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。学修・教育目標（ディプロマポリシー）の(B)～(F)に関連し、特に「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深く関わっている。	中学校音楽科の教員としての実践的能力や教材研究の基礎能力を身に付けるため、器楽実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の教員としての指導の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄をリコーダー、ギター、篠笛を通して身に付ける。	a b c d e f	0 0.1 0.1 0.4 0.2 0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
合奏Ⅰ	合奏の基礎を実技を通して学ぶ。	中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)取得に必要な科目。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。学修・教育目標(ディプロマポリシー)の(B)及び(D)～(F)に関連し、特に「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深く関わっている。	合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。	a	0
				b	0.1
				c	0
				d	0.6
				e	0.2
				f	0.1
合奏Ⅱ	合奏Ⅰを踏まえた上で、より実践的な合奏を体得する。	中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)取得に必要な科目。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。学修・教育目標(ディプロマポリシー)の(B)及び(D)～(F)に関連し、特に「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深く関わっている。	合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。	a	0
				b	0.1
				c	0
				d	0.6
				e	0.2
				f	0.1
中等音楽科教育法Ⅰ	中等音楽科の教科目標や内容、学習指導計画等について講義を行う。また、実地指導講師による音楽指導の実践例を通して、中学校における具体的な教材やその指導方法について学ぶ。さらに、上記の学習を基盤として学習指導案を作成し、中等音楽科教育法Ⅱにおける模擬授業実施に向けた準備を進める。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。学習指導要領を基に、中等音楽科の概要を理解し、音楽授業を立案する能力を修得する。専門教育学習・教育目標のうち、「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B)子どもも理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	・中等音楽科の教科内容等について、学習指導要領を基に全体の概要を理解している。 ・学習指導計画(学習指導案)を作成するために必要な基本事項を理解している。 ・教科目標や指導内容、評価等をふまえて音楽授業を立案し、学習指導案を作成することができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
中等音楽科教育法Ⅱ	中等音楽科教育法Ⅰで学んだ教科理解を基盤として、音楽指導の実践に必要な知識や技能を習得する。授業では必ず模擬授業を1回担当する。模擬授業の学習指導案作成及びその推敲を含めた準備作業は個別に事前指導によって行う。模擬授業担当を通して、教科専門で学んだしよ能力を活かし、音楽授業の計画から実施・検証までの流れを体験する。授業の計画から実施・検証を通して音楽指導に関わる様々な課題に取り組み、創意工夫によってより良い授業を実践する方法について考える。教育実習もふまえて、実地講師による実践指導が含まれている。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。 中等音楽科教育法Ⅰで学んだことを基盤に教育実習での授業実践も視野に入れながら、模擬授業の担当を通して中等音楽科の実践に関わる様々な知識・技能を理解し身につける科目。 (B)から(F)の全項目に深く関連している。五項目の「学習・教育目標」を達成するための基礎的な教科理解の出発点となる。	・学習指導案の作成手順に従い、音楽授業の学習計画を立案することができる。 ・自分で計画した学習指導案を実行するために必要な教材研究等の準備を行うことができる。 ・自分が作成した学習指導計画に基づいて音楽の模擬授業を実施することができる。 ・模擬授業を振り返り、より良い授業を実現するための工夫を提案することができる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
中等音楽科教育法Ⅲ	中学校音楽科の教員として必要な、コードネームによる弾きうたい、鑑賞教材研究、音楽科教育研究の動向について演習を行う。	中学校教諭1種免許(音楽)取得に必須の科目。中学校の音楽科教員として必要な、その場に応じた伴奏形の使用、鑑賞教材の開発などの知識・技能を修得する。また、音楽科教育の研究動向を探ること、社会の変化に対応した実践の方法を修得できるようにする。 専門教育学習・教育目標のうち、「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B)子どもも理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	中学校の音楽科教員として必要な資質を修得することと、今日の音楽科教育の持つ課題について知り、追求できるようにする。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
中等音楽科教育法Ⅳ	中等音楽科の教員に必要な様々な資質や能力について理解し、その自己評価をふまえさらに伸ばしたい資質や能力(実践力)を明らかにする。また、教材研究や新たな教材の開発、授業の構成員などを高めるために、各自の専門能力を音楽授業で有効に活用する柔らかな発想力・思考力を育成する(理論的思考力)。その上で、獲得した資質や能力を音楽指導の実践に転換する方法論を探究する(理論と実践の融合)。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。音楽担当教員の資質・能力に対する理解を深め、客観的な自己評価から更に伸ばしたい自分の資質・能力を見極め、教職を目指してそれらを高めようとする自己教育力を育成する。(A)から(F)の全項目にわたり深く関連している。五項目の「学習・教育目標」を達成するための道筋を発見することに重点が置かれている。	・音楽の教員に必要な資質・能力について理解し、それらを説明することができる。 ・音楽教育の実践を行うための理論的な背景を考える力を身につけ、両者を関係づける力を獲得する。 ・上記の二点をふまえ、具体的な実践例を考案し提示することができる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
音楽アウトリーチ研究A	社会への音楽普及プロジェクト（音楽によるアウトリーチ）の企画と実施を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ、学校や施設へのアウトリーチ活動により、必要な企画力、実践力を修得し、地域貢献を図る。学修・教育目標のうち、特に(B)～(F)に深い関連がある。	社会への音楽普及プロジェクト（音楽によるアウトリーチ）の企画と実施を行うことにより、音楽と教育による地域貢献を図ることができるようにする。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
音楽アウトリーチ研究B	社会への音楽普及プロジェクト（音楽によるアウトリーチ）の企画と実施を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ、学校や施設へのアウトリーチ活動により、必要な企画力、実践力を修得し、地域貢献を図る。特に(B)～(F)に深い関連がある。	社会への音楽普及プロジェクト（音楽によるアウトリーチ）の企画と実施を行うことにより、音楽と教育による地域貢献を図ることができるようにする。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
作曲応用演習	作曲実技・編曲実技の応用	さまざまな現場において有用な作曲法（編曲法を含む）の応用・活用について学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を応用した活動を行う。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	さまざまな現場において有用な作曲法（編曲法を含む）の応用・活用法を修得する。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
音楽科教育演習	音楽科教育に関連するテーマ、事項、問題意識等を受講生がそれぞれ設定し、受講者全員で討議・実践することにより、解決の方策を探る。	音楽分野の分野専門科目の1つ、音楽科教育に関連するテーマを受講生がそれぞれ設定し、受講者全員で討議・実践することにより、解決の方策を探る。専門教育学習・教育目標のうち、「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	音楽科教育についてより深く理解し、実践に生かす方策を追求する。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
鍵盤アンサンブル演習	ピアノをはじめとする鍵盤楽器のアンサンブル曲の演奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、及び「(E)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	ピアノ連弾、2台ピアノ、チェンバロを用いたアンサンブルなど、鍵盤楽器を主体とするアンサンブル曲を選択し、演奏解釈は演奏法などを実践的に学ぶ。また学校教育現場で役立つ鍵盤楽器アンサンブルの可能性などについても実践を通して研究する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.2
声楽アンサンブル演習	声楽の基礎技能を伸ばすとともに、二重唱から小編成のグループアンサンブルまで、多様な声楽アンサンブルの演奏形態を対象とした演奏能力を修得する。英語を含む様々な外国語の歌詞を持つ声楽曲を含め表現の多様性を学ぶ。レッスンを中心に行い、学修の成果を演奏を通して発表する。	音楽教育専攻専門科目の選択科目。学習・教育目標の「(A)質の高い英語力の基礎や心身の健康の重要性の理解等、現代社会での活躍に必要なリテラシーや幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。」、「(B)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(C)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(F)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	・声楽アンサンブルの技能に関する基礎を理解している。 ・声楽アンサンブルの難しさや表現の豊かさに気づき、表現能力を高めるとともにアンサンブル指導に生かすことができる。 ・英語を含む様々な外国語の歌詞の内容と特徴を理解し、表現の多様性を生かした歌唱技能を身につけている。 ・自己の声楽表現技能を用いて、複数の声楽演奏者と作品に適した音楽表現により演奏することができる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
合奏Ⅲ	合奏Ⅰ、Ⅱを踏まえた上で、より実践的な合奏を体得する。	音楽教育専攻専門科目で、合奏の基礎的技能を習得する。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。学修・教育目標（ディプロマポリシー）の(B)～(F)に関連し、特に「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深く関わっている。	合奏における演奏法を、楽曲研究を通じて学ぶ。様々な連携を試み、授業の成果を持って、地域社会に貢献する。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.2
室内楽	様々な器楽を集合させ、楽譜上の役割を理解し、音色の調和を図り、体得する。	音楽教育専攻専門科目で、アンサンブルを通じて人と連携を理解する。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。学修・教育目標（ディプロマポリシー）の(B)～(F)に関連し、特に「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深く関わっている。	・器楽演奏技術の習得・アンサンブル技術の向上 ・レパートリの拡充	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.2
音楽研究セミナーⅠ	各自が選択した領域におけるテーマに沿って研究を行い、学修を通して領域の専門性を高めるとともに、次年度（４年次）の卒業研究に発展可能な基礎的な能力を身につける。	学習・教育目標の「(A)質の高い英語力の基礎や心身の健康の重要性の理解等、現代社会での活躍に必要なリテラシーや幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。」、「(B)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(C)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(F)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、方法論を駆使して、３年次前期段階での研究を行うことができるようにする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
音楽研究セミナーⅡ	各自が選択した領域におけるテーマに沿って研究を行い、学修を通して領域の専門性を高めるとともに、次年度（４年次）の卒業研究に発展可能な基礎的な能力を身につける。	学習・教育目標の「(A)質の高い英語力の基礎や心身の健康の重要性の理解等、現代社会での活躍に必要なリテラシーや幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。」、「(B)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(C)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(F)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、方法論を駆使して、卒業研究を行うことができるようにする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
卒業研究	各自が選択した領域におけるテーマに沿って研究を行い、学修を通して領域の専門性を高めるとともに、４年間の学修を集約し研究の成果として完成させる。	学習・教育目標の「(A)質の高い英語力の基礎や心身の健康の重要性の理解等、現代社会での活躍に必要なリテラシーや幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。」、「(B)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(C)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(F)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、方法論を駆使して、卒業研究を行うことができるようにする。を向上させる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
デッサンⅠ	デッサンの基礎として、基本的な対象の捉え方や道具の使用法を踏まえ、対象の持つ質感、形態、量感、空間感といった造形要素について指導する。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	中学校・高等学校の「美術」において必要な基本的な描写(対象の形態、質感、量感の描写)を修得する。相対的な対象の明暗(正確なヴァール)、対象の空間的な位置関係を表現できる事を目標とする。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
デッサンⅡ	デッサンⅠで習得した内容(対象の基本的な捉え方)を基に、石膏像や人物の描法を指導する。また、作家のデッサンを紹介し、タプローとの関わりを明確にすることで、絵画における表現意図と描画法の関係について取り上げる。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。専門教育学習・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	石膏像や人物の造形的な特徴(プロポーション、質感、量感、空間感)を意識した描画が出来る。木炭によるデッサンを描き、鉛筆での描画と異なる表現の効果について理解する事を目標とする。中学校・高等学校の「美術」において、必要な人物描写の方法を修得する。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
水彩画Ⅰ	透明水彩を用いた静物画や人物画の制作を通して、水彩画の基礎技法についての実技指導を行う。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、水彩画の基礎となる内容を扱い、「絵画Ⅰ」で必要な色彩による描画法を修得する。中学校美術において水彩画を描く場合、彩色でとまどう生徒が多く、指導者の水彩画の技能や素材特性における知識が重要である。この授業では、透明水彩の性質を踏まえ、作品制作による実践を通すことにより指導力を養成する。専門教育学習・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	水彩画特有の表現法(にじみ、暈し、重色等)を修得する。「デッサンⅠ、Ⅱ」で修得した観察力や描写力を生かし、人物画における表情、プロポーション、明暗、動勢、臨場感等を表現できる。中学校・高等学校の「美術」において必要な水彩画の基礎技能のポイント(水加減、筆の使用法)を修得する。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
水彩画Ⅱ	授業の前半では、水彩画Ⅰで習得した内容を基に透明水彩絵具を用いて細密画の実技指導を行う。後半では、アクリル絵具を用いた技法を小作品によって実践し、構想画制作の実技指導を行う。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、水彩画の発展的な内容を扱う。また、アクリル絵具の特有の素材感(可塑性、透明性)を生かした作品を制作することで、図画工作や美術の授業における題材開発の能力向上を目指す。専門教育学習・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取組むことができる」と深い関連がある	「デッサンⅠ、Ⅱ」を基礎とした観察力や描写力を生かし、透明水彩による細密表現が出来る。また、アクリル絵具を用いた技法に触れ、絵画表現の幅を広げ、中学校・高等学校の「美術」における題材開発の能力を養う。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
彫塑Ⅰ	泥粘土を使用して自然物、人物をモデルにレリーフ作品を作る	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、学習・教育目標の(B)(E)の項目と関連性が深い。美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	・人間を含む自然物の観察力の向上。 ・表現能力と技術の習得をする。 ・教授能力を身につける。	a	0
				b	0.4
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.1
彫塑Ⅱ	泥粘土を使用して自然物、人物をモデルにレリーフ作品を作る。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、学習・教育目標の(B)(E)の項目と関連性が深い。美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	・人間を含む自然物の観察力の向上。 ・表現能力と技術の習得をする。 ・教授能力を身につける。	a	0
				b	0.4
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.1
彫塑Ⅲ	身体と空間をテーマに、彫塑(彫刻・塑造)の造形表現について学ぶ。習得する技法としては石膏による型の制作及び石膏直付、アッサンプラージュによる彫刻技法を学ぶ。	専門教育科目の中学校教科「美術」の必修科目であり、美術の分野において立体に対する観察力・認識力を鍛え、創造的な感性を養い、自らの表現の深化を図る。学習・教育目標の(D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。	・人間を含む自然物の観察力の向上。 ・表現能力と技術の習得をする。 ・立体造形の指導力を身につける。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
彫塑Ⅳ	<p>塑造による首像制作を通して、彫塑芸術(彫刻・塑造)造形表現について学[Ⅳ]。そこから「土(形)を焼く」工程から素材を陶に変化させ彫刻作品として表現することについて学[Ⅳ]</p>	<p>専門教育科目の中学校教科「美術」の必修科目であり、美術の分野において立体に対する観察力・認識力を鍛え、創造的な感性を養い、自らの表現の深化を図る。学習・教育目標の(D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間を含む自然物の観察力の向上。</li> <li>・表現能力と技術の習得をする。</li> <li>・立体造形の指導力を身につける。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
平面構成Ⅰ	<p>美術の全領域および美術教育の基礎となる色彩の概論を教科書・教材を使って体系的に説明しながら、それに対応した実技課題を行っていく。あわせて、平面表現の基礎的技法について指導する。</p>	<p>「美術」中学校一種二種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。学習・教育目標(D)を中心に(A)(B)(C)(E)(F)に関連する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高美術教員として必要な色彩基礎理論について、その本質や体系、心理や調和などを修得する。</li> <li>・基礎的な実技課題を通して、色彩の理論の実際について、制作法とその効果について理解する。</li> <li>・絵具、筆など用具類の使用法や水張りなどの基本的な準備の仕方について修得する。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
平面構成Ⅱ	<p>平面構成Ⅰで修得したことを色彩に関する実技の成果を基に、平面空間について、色彩と形態の関係から構成していく実技課題を行う。平面表現の基礎的技法についてもさらに指導する。</p>	<p>「美術」中学校一種二種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。学習・教育目標(D)を中心に(A)(B)(C)(E)(F)に関連する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高美術教員として必要な色彩基礎理論について、課題を通じてさらに理解を深め、自己の平面表現に生かせるようにする。</li> <li>・平面空間の構成法について、色彩と形態の関係から理解し、与えられた条件を生かした平面表現をできるようにする。</li> <li>・絵具、筆など用具類の使用法や水張りなどの基本的な準備の仕方について習熟する。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
デザインAⅠ	<p>平面デザイン(グラフィック、テキスタイル・デザインなどの基礎的内容)を主とする。生活環境における平面メディアの創造について身近なテーマの実技課題を行う。</p>	<p>「美術」中学校一種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を構築するための基礎となる実技科目としての意義を持つ。学習・教育目標(D)を中心に(B)(C)(E)(F)に関連する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して、基本的なデザインプロセスを踏んで取り組める。</li> <li>・課題として与えられたテーマに対して、生活の視点で造形をとらえ、そこからの発想や構想の方法の基礎を身につける。</li> <li>・デザインの意図を適切なプレゼンテーションで表現できるようにする。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
デザインAⅡ	<p>立体・空間デザイン(プロダクト、建築・環境デザインの基礎的内容)を主とする。生活環境における立体・空間メディアの創造について身近なテーマの実技課題を行う。</p>	<p>「美術」中学校一種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を構築するための基礎となる実技科目としての意義を持つ。学習・教育目標(D)を中心に(B)(C)(E)(F)に関連する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して、基本的なデザインプロセスを踏んで取り組める。</li> <li>・課題として与えられたテーマに対して、生活の視点で造形をとらえ、そこからの発想や構想の方法の基礎を身につける。</li> <li>・デザインの意図を適切なプレゼンテーションで表現できるようにする。</li> </ul>	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
立体構成Ⅰ	<p>イメージ・素材・空間・機能的など様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な実技を行う。具体的な題材をイメージ化し立体物として実現させる課題、紙・スタイルフォームなどそれぞれ材質・加工要領の異なる素材を使用し立体物を成形していく課題を行う。</p>	<p>専門教育科目の中学校教科「美術」の必修科目及び「工芸」(高等学校一種)必修科目であり、美術の分野において立体造形や工芸表現の基礎知識を養い理解を深める。学習・教育目標の(D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体を形成するための基礎的な理解力を養う。</li> <li>・素材の加工方法・表現方法を学び、立体表現の基礎技法を習得する。</li> <li>・立体造形の指導力を身につける。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
立体構成Ⅱ	<p>イメージ・素材・空間・機能的など様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な実技を行う。回転体による立体構成他、3つの課題に取り組み立体物を成形していく課題を行う。</p>	<p>専門教育科目の中学校教科「美術」の必修科目及び「工芸」(高等学校一種)必修科目であり、美術の分野において立体造形や工芸表現の基礎知識を養い理解を深める。学習・教育目標の(D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体を形成するための基礎的な理解力を養う。</li> <li>・素材の加工方法・表現方法を学び、立体表現の基礎技法を習得する。</li> <li>・立体造形の指導力を身につける。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
工芸Ⅰ	<p>金属工芸の彫金において、材料・道具の取り扱い、加工方法等、基礎的な表現方法を学習し、テーマに沿って機能的を考慮すると共に「イメージが金属素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。</p>	<p>専門教育科目の中学校教科「美術」の必修科目として専門性を深める授業である。「工芸」(高等学校一種)必修科目である。学習・教育目標の(D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工芸の基礎的な理解力を養う。</li> <li>・金属素材の加工方法・表現方法を学び、工芸表現の基礎技法を習得する。</li> <li>・工芸・立体造形の指導力を身につける。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
工芸Ⅱ	木工芸において、材料・道具の取り扱い、加工方法を学習し、テーマに沿って機能性を考慮すると共に「イメージが素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	専門教育科目の中学校教科「美術」の必修科目として専門性を深める授業である。「工芸」(高等学校一種)必修科目である。学習・教育目標の(D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。	・工芸の基礎的な理解力を養う。 ・金属素材の加工方法・表現方法を学び、工芸表現の基礎技法を習得する。 ・工芸・立体造形の指導力を身につける。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
美術理論	美術理論では美術とは何かという根本問題を扱う。美術を理解するための重要な事項として、美術概念の変遷、モダニズムとアヴァンギャルド、作品受容の諸理論などを講義する。	中学校・高等学校の美術免許取得のための必修科目であり、学習・教育目標の(B)(D)(E)の項目と関連性が深い。美術に関する理解を深め、理論的な側面から、美術教員としての素養を高める。	学問としての美術理論と自己の関心を結びつけ、教育の現場や美術諸領域のさまざまな活動に欠くことのできない美術理論の基礎的な素養と論理的思考を養うことを目標とする。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.3
				f	0.1
絵画Ⅰ	油彩画制作における基礎的な実技指導を行う。それと同時に油彩画の表現について歴史上の作品や現代作家における技法及び描法を紹介し解説する。	高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、油彩画の基礎的な内容を扱う。学校教育の現場では、油彩画の制作は一般的ではないが、鑑賞授業の題材として取り上げられる作品には油絵具で描かれたものが多くある。本授業では、油彩画における素材の使用法を実作品(作家の作品)と対応させ、受講学生の鑑賞能力の向上も図る。専門教育学習・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」と深い関連がある。	油彩による素材の特徴を理解し、マチエール、重層、重ね、グレージングといった技法を駆使した対象の描写が出来る。明暗による対象の立体感、空間感を表現する能力に合わせて、動勢やプロポーション、画面構成を意識した構図を考える事が出来る。作家の作品における素材の使用法を理解し、鑑賞の能力を養う。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.4
				f	0.1
絵画Ⅱ	自由テーマによる絵画(油彩、水彩、鉛筆画、パステル等)の制作について実技指導を行う。使用素材は各自で選択し、参考とする作家の作品における表現について考察するための助言を与える。	高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、絵画分野の発展的な内容を扱う。絵画を構想するために必要要素(テーマ、構図、配色、表現様式等)を理解し実践することで、絵画分野での「卒業研究」に向けた素養を身に付けさせる。専門教育学習・教育目標のうち「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」と深い関連がある。	「デッサンⅠ、Ⅱ」、「水彩画Ⅰ、Ⅱ」、「絵画Ⅰ」で修得した内容を応用し、自己の絵画表現を構築できる。そのために、自分のテーマに即したイメージをデッサンやエスキースによって具現化し、適切な素材や表現を選ぶ事が出来る。中学校・高等学校の「美術」で扱われる構想画を描く題材における指導力(発想力、構想力、描画能力)を修得する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.3
				f	0.1
美術史	西洋と日本の美術変遷を概観する。また、美術史の通史理解に留まらず、特に近代以降の美術概念の変遷を主要な論点として講義する。	中学校教科美術に関わる科目であり、学習・教育目標の(B)(D)(E)の項目と関連性が深い。美術の変遷から表現の多様性を理解し、教員として表現と鑑賞の学習指導を充実させることに対応している。	美術史研究を通して、美術への理解を深めるとともに、芸術観、教育観の視野を広げ、基礎的素養を養うことを目標とする	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.3
				f	0.1
デザイン理論	もの・空間の創造の歴史を概観していくことで、デザインの本質を探究する。また具体的なデザイン作品を取り上げ、様々な角度から分析検討してデザインプロセスを解きあかすことでその作品とデザイン思考の関係について考察させる。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高等学校教員として、ものづくり・空間づくりを歴史の実例で学んで、社会の中での美術の位置付けを理解し、さらにその意味を検証させることで美術教科の意義の理解を深める。学習・教育目標(D)を中心に(A)(B)(C)(E)(F)に関連する。	・人間がどのようにモノ・空間をつくってきたか歴史の実例に学んで、社会のなかでの美術の位置づけについて理解する。 ・現代の生活を形づくるモノ・空間について多様な観点から分析・鑑賞し、それを自分の言葉で表現できるようにする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.2
工芸理論	各種工芸素材がどのような技術で用いられ、どのような工芸作品が生み出されてきたか、その役割を概観し、工芸の多様な表現を知ることにより、これからの工芸の可能性を探る講義である。	専門教育科目の中学校教科「美術」の選択科目、及び「工芸」(高等学校一種)必修科目であり、工芸の基礎知識を養い、学習・教育目標の(D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。	・各種工芸の歴史的役割、多彩な表現を理解する。 ・工芸をはじめとするアジアや日本の伝統文化の教授力を身につける。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
美術科教育法Ⅰ	中学校美術科の学習指導に関する諸課題を扱う。美術教育論などから美術科教育の意義を導き、題材研究、教材開発への基礎的視点を解説し、教育実践につながる指導助言を行う。	中学校・高等学校の美術免許取得のための必修科目であり、学習・教育目標の(B)(C)(D)(E)何れの項目にも関連性が深い。美術科学習の今日的な課題への問題意識と実践力を高めることに対応している。	学校および地域社会における美術教育全般の問題にも視野を拡げ、教育実践の諸能力を培うことを目標とする。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
美術科教育法Ⅱ	中学校美術の授業実践を制度・生徒理解・多様な指導法をさまざまな具体的事例や体験的学習などにより展開する。	中学校・高等学校の「美術」免許取得のための選択必修科目であり、美術科教育を理念・理論および実践力の形成のために意義を持つ。学習・教育目標(c)の項目に関連性が深い。	中学校美術科の学習指導に関する制度・生徒理解・多様な指導法をさまざまな具体的事例や体験的学習などをとおして、中学校の美術教師として主体的に学習指導が行える能力や態度の形成を目標としている。	a	0
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
美術科教材論	主に中学校の美術科教材開発の実践について取り上げる。指導要領および教科書研究を踏まえ、また、美術の造形要素を考察し、それらを題材に反映させ、適切な教材を考案するための指導助言を行う。	中学校教科美術に関わる科目であり、特に学習・教育目標(D)の項目に関連性が深い。充実した授業内容を提供できる教員としての素養を育み教材への理解、学習指導力の形成に対応している。	美術科の教材開発を中心に、その今日的な課題や可能性を検討し、教材開発への理解を深める。また、学習意欲の向上や学習効果の深まりを意識して教材を検討できる素養を育むことを目標とする。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.2
美術科指導論	A：1875年～1943年の美術教育の歴史的文献、B：1946年～1956年の美術教育の歴史的文献、C：1981年～1998年の美術教育の歴史的文献、以上の3部構成で美術科教育のあり方や方法を歴史的な観点からとらえ、その教科書や制度・教育運動などの諸資料の調査・研究レポート発表・講義などを通じて、各々の時期における美術教育の理念や指導法からその本質を考察し、21世紀の美術教育や美術科指導のあり方を展望する。	美術教育を個人的な経験からしか捉えられない教師でなく、近代日本の美術教育形成過程の中で考察できる能力の形成を目指している。学習・教育目標(B)の項目に関連性が深い。	美術科教育のあり方や方法を歴史的な観点からとらえ、その教科書や制度・教育運動などの諸資料の調査・研究レポート発表・講義などを通じて、各々の時期における美術教育の理念や指導法からその本質を考察し、21世紀の美術教育や美術科指導のあり方に対する自分らしい考えの形成を目標とする。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
図法Ⅰ	図は、形をつくり、それを伝達する美術の基礎となる表現手段であり、図法には図形一般を科学する図学と製図法が含まれる。この授業では美術の基礎および中高美術科工芸科で必要となる平面図学の基礎を主として扱う。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校美術科、高校工芸科に広く共通する基礎的な理論科目として、またデザイン・工芸実技を行う上での実践的基礎となる意義を持つ。学習・教育目標(D)を中心に(A)(B)(C)(E)(F)に関連する。	・デザイン・工芸・絵画における図像・文様や平面計画の基礎となる平面図形の実践的な作図能力を修得する。 ・製図用具を正しく用いて、正確で美しい図を描けるようにする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
図法Ⅱ	図は、形をつくり、それを伝達する美術の基礎となる表現手段であり、図法には図形一般を科学する図学と製図法が含まれる。この授業では美術の基礎および中高美術科工芸科で必要となる立体図学の基礎を主として扱う。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校美術科、高校工芸科に広く共通する基礎的な理論科目として、またデザイン・工芸実技を行う上での実践的基礎となる意義を持つ。学習・教育目標(D)を中心に(A)(B)(C)(E)(F)に関連する。	・デザイン・工芸(プロダクトや建造物)の図面・レンダリングや絵画における図的表現の実践的な作図や読図の能力を修得する。 ・製図用具を正しく用いて、正確で美しい図を描けるようにする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
美術教育論	美術教育論の多様な視座や美術教育の歴史的展開を取り上げ、図画工作科および美術科教育、さらには社会における美術教育のあり方を考察する。	中学校教科美術に関わる科目であり、学習・教育目標(B)(C)(D)(E)の項目に関連性が深い。美術教育論から今日的な課題と教育観を導き、教育の現場に携わる上での素養を育むことに対応している。	美術教育論から導かれる今日的な課題を自らの考えと結び付けて検討し、教育の現場や美術諸領域のさまざまな活動を通して社会に貢献する素養を育むことを目標とする。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
版画A	銅版画の制作手順および作品(レンブラント、駒井哲朗等)を紹介し、技法のメカニズムを講義する。それを踏まえエッチング、ソフトグラウンドエッチング、アクアチントによる作品制作の実技指導を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、銅版画の表現的特徴を作品制作を通して伝授する。それにより、美術の教師の専門的な知識や技能、作品鑑賞能力の向上を図る。専門教育学習・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取組むことができる」と深い関連がある。	銅版画の特性を理解し、凹版特有の表現法について関心を高めると共に、銅版画制作を実践し、彫り、腐食、刷りといった技術を修得し、間接法(腐蝕によって溝をつくる)による銅版画のメカニズムを理解する。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
版画B	木版画の制作手順および作品（北斎、写楽等）を紹介し、技法のメカニズムを講義し、それを踏まえ単色木版、多版多色木版による作品制作の実技指導を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、木版画の表現的特徴を作品制作を通して伝授する。それにより、美術の教師の専門的な知識や技能、作品鑑賞能力の向上を図る。専門教育学習・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取組むことができる」と深い関連がある	木版画の特性を理解し、凸版特有の表現法について関心を高めると共に木版画制作を行う事により、彫刻刀の使用法、下絵の転写、色分解、刷りといった技能を修得する。 木版画は小学校の「図画工作」や中学校・高等学校の「美術」の題材としてよく取り上げられるため、題材開発の能力を高める。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.1
デザインB I	グラフィック・デザイン分野を主とする（映像メディア表現を含む）。広がりを持った生活環境の中に課題を設定して、実技を行なう。課題では、コンピュータ（グラフィック・ソフト）を使用して、コンピュータならではの表現技法についても取り扱う。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を創造的に展開していくための能力を身につける実技科目としての意義を持つ。また、卒業制作でデザイン分野を専攻する上で表現上技法上の前段階の意義を持つ。学習・教育目標 (D)を中心に関連する。	・課題のテーマに合ったデザインプロセスを各自設定して、取り組むことができるようにする。 ・課題のテーマについて、社会的なメディアとして総合的にとらえ、その多様なつながりから発想や構想することができるようにする。 ・作品コンセプトをわかりやすく整理されたプレゼンテーションで表現できるようにする。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.2
				f	0.1
デザインB II	プロダクト、建築・環境デザイン分野を主とする。広がりを持った生活環境の中に課題を設定して、実技を行う。課題では、図面や模型・レンダリングなどのプレゼンテーション技法についてもあわせて扱う。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を創造的に展開していくための能力を身につける実技科目としての意義を持つ。また、卒業制作でデザイン分野を専攻する上で表現上技法上の前段階の意義を持つ。学習・教育目標 (D)を中心に関連する。	・課題のテーマに合ったデザインプロセスを身に付けて取り組むことができるようにする。 ・課題のテーマについて、社会的なメディアとして総合的にとらえ、その多様なつながりから発想や構想することができるようにする。 ・作品コンセプトをわかりやすく整理されたプレゼンテーションで表現できるようにする。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.2
				f	0.1
工芸Ⅲ	工芸(漆)の基礎表現技法（変塗・螺細・卵殻等）を学習し、「イメージが素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	専門教育科目の美術分野専門科目として専門性を深める授業である。「工芸」（高等学校一種）必修科目である。学習・教育目標の (D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。	・テーマに沿った課題の取り組みにて、自ら具体的な表現形態を設定し、自己表現形成能力を養う ・素材や表現方法を選択し、表現に必要な道具や加工方法を絞り、課題作品を実現させることにより、工芸の多様な表現について理解を深める。 ・工芸・立体造形の指導力を身につける。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
工芸Ⅳ	工芸(漆)の基礎表現技法（乾漆）を学習し、テーマ「面」について、機能性を考慮すると共に「イメージが素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	専門教育科目の美術分野専門科目として専門性を深める授業である。「工芸」（高等学校一種）必修科目である。学習・教育目標の (D)を中心に(B)(E)の項目と関連性が深い。	・テーマに沿った課題の取り組みにて、自ら具体的な表現形態を設定し、自己表現形成能力を養う ・素材や表現方法を選択し、表現に必要な道具や加工方法を絞り、課題作品を実現させることにより、工芸の多様な表現について理解を深める。 ・工芸・立体造形の指導力を身につける。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
野外美術表現演習	屋外にて三日間にわたり、水彩画もしくは油彩画制作の実技指導を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、風景画における構図の組み立て方（視点、空間構成の要点）や素材の使用法について教授し、風景画への関心を喚起させる。また、「卒業研究」に向けた技能の向上を図る。専門教育学習・教育目標のうち「(B)学校教育や教職についての基礎論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取組むことができる」と深い関連がある。	自然観察や鑑賞を通して、風景画における造形要素（形態、色彩、明暗、空間感）を意識した制作が出来る。 小学校の「図画工作」や中学校・高等学校の「美術」において、風景画はオーソドックスな題材である。そのため風景を絵画で表現するための視点や技能を養うことで、美術の教師としての指導力を身に付ける。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1
美術実地調査演習	京都、奈良にある美術史上重要な作品を取り上げ講義を行い、事前調査のポイントを解説する。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、特に学習・教育目標(D)の項目に関連性が深い。中学校・高等学校美術科、高等学校工芸における表現・鑑賞の能力を高め、古美術に対する興味関心を喚起する。	美術実地調査前に、関連する絵画・彫刻・建築・工芸などの歴史的背景を踏まえた造形的な特徴を理解する。また、それにより中高美術科・高校工芸科における表現・鑑賞の能力を高める。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
美術実地調査	京都、奈良にある美術史上重要な作品について実地に解説を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、特に学習・教育目標(D)の項目に関連性が深い。中学校・高等学校美術科、高等学校工芸における表現・鑑賞の能力を高め、古美術に対する興味関心を喚起する。	絵画・彫刻・建築・工芸などの歴史的重要な作品を実見し、美術実地調査演習で行った事前調査を基に考察を深める。また、それにより中高美術科・高校工芸科における表現・鑑賞の能力を高める。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
美術研究セミナーⅠ	卒業研究（制作・論文）について、各分野（絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術科教育、）の説明を行い、受講者がそれぞれ選択した分野について指導を行う。	美術教育専攻の必修専門科目の一つであり、特に学習・教育目標の全てに関連性がある。卒業研究の予備段階としての意義を持つ。計画的に作品制作及び論文執筆を行うための技能の育成や知識の教授を図る。	卒業研究を見据えた作品制作や論文執筆を行うための計画を立てる事が出来る。また、その計画に従って資料収集や習作の制作を行うことが出来る。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
美術研究セミナーⅡ	卒業研究セミナーⅠの内容を基に各分野で卒業研究を視野に入れた課題を設定し、それについての指導を行う。	美術教育専攻の必修専門科目の一つであり、特に学習・教育目標全ての項目に関連性がある。卒業研究の予備段階としての意義を持つ。計画的に作品制作及び論文執筆を行うための技能の育成や知識の教授を図る。	卒業研究を見据えた作品制作や論文執筆を行うことが出来る。また、それらの作品や論文について展示や研究発表を適切に行うことが出来る。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
卒業研究	各分野（絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術科教育）において、卒業研究（卒業制作もしくは卒業論文）を指導する。	美術教育専攻の必修専門科目の一つであり、特に学習・教育目標(D)の項目に関連性が深い。美術教育で学ぶ実技、理論の集大成としての意義を持つ。計画的に作品制作や論文執筆に取り組む技能や能力の育成を目指す。	1年間を通して、各分野（絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術科教育）の規定に基づく作品の制作もしくは論文の執筆を行うことができ、それらを完成させる事ができる事を目標とする。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.2
体操・器械運動	体づくり運動（体ほぐしの運動・体力を高める運動）及び器械運動（マット・跳び箱・鉄棒）の技能と指導法について学ぶ。	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目として、保健体育科の「体づくり運動」及び「器械運動」指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。学修・教育目標コードのうち特に(B)(C)(D)と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体づくり運動」及び「器械運動」指導に必要な基礎的技術を体得することができる。</li> <li>・「体づくり運動」及び「器械運動」指導における基本的な知識と技能を習得することができる。</li> <li>・「体づくり運動」及び「器械運動」領域の授業設計をすることができる。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
陸上競技	中学校および高等学校における保健体育の実技「陸上競技」の授業について理論と実践を通してその指導方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための科目として陸上競技の専門的指導力を育成する。</li> <li>・学修・教育目標コードのうち特に(C)(D)と深い関連がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的運動種目（短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び）の指導ができる。</li> <li>・陸上競技における安全管理及び安全指導ができる。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
水泳	中学校および高等学校における保健体育の実技「水泳」の授業について理論と実践を通してその指導方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための科目として水泳の専門的指導力を高める科目としての意義を持つ。</li> <li>・学修・教育目標コードのうち特に(C)(D)と深い関連がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的水泳技術（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ・イ）及びその指導法を習得し、指導できる。</li> <li>・水中における安全技術及び安全指導を習得する。</li> <li>・集団生活の中で規律ある行動や、協力することができる。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
ダンスA	運動、イメージ、構成課題などを手がかりとした課題学習を中心とし、踊る・創る・観るというダンス技能の基礎習得をめざす。それとともに、小・中学校体育を中心としたその指導法を実習する。あわせてフォークダンス、レクリエーションダンスなども実習する。	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目であり、保健体育科のダンス領域指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。学修・教育目標コードのうち特に(B)(C)(D)と深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス領域指導に必要な基礎的技術を体得することができる。</li> <li>・ダンス領域指導における基本的な知識と技能を習得することができる。</li> <li>・ダンス領域の授業設計をすることができる。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
武道A	伝統的な剣道（武道）稽古の意義や方法を理解し、実践してみることで、スポーツ・学校体育における運動指導一般のあり方を問い直してみる。生涯体育のあり方として、勝敗を競う、運動の楽しさ、仲間との連帯感、健康の保持・増進などについて、「生きる力・自己教育力・新しい教育観」と、剣道の文化性として伝承されてきた「伝統的な稽古観」との違いを比較検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許教科「保健体育」を取得する場合の「教科に関する専門教育科目」として、武道、特に剣道指導に必要な知識と技能を育成する。</li> <li>・学修・教育目標コードのうち特に(B)(C)(D)(F)と関連がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道（武道）の礼法・作法を理解・実践し、指導できる。</li> <li>・「剣道の基本技」を演武し、指導できる。</li> <li>・応用技への展開ができる。</li> </ul>	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
サッカー	サッカーの知識（歴史、特性、技術構造、指導法、ルール等）を理解するとともに、基礎技術・戦術を習得し、その指導法について学ぶ。	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目として、保健体育科の球技領域（サッカー）指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。学修・教育目標コードのうち特に（B）（C）（D）と深い関連がある。	・球技領域（サッカー）指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ・球技領域（サッカー）指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ・球技領域（サッカー）領域の授業設計をすることができる。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
バスケットボール	バスケットボールの知識（歴史、特性、技術構造、指導法、ルール等）を理解するとともに、基礎技術・戦術を習得し、その指導法について学ぶ。常に指導者の立場を想定して実践を行う。	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目として、保健体育科の球技領域（バスケットボール）指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。学修・教育目標コードのうち特に（B）（C）（D）と深い関連がある。	・球技領域（バスケットボール）指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ・球技領域（バスケットボール）指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ・球技領域（バスケットボール）領域の授業設計をすることができる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
バレーボール	個人・集団の基礎技能の習熟とともに、初心者にはバレーボールを楽しませゲームを成立させるために「どんな条件を整え、どんなルールを独自に創造すれば良いのか」という点について、実技を通して習得する。	学校体育におけるバレーボールの授業に於いてゲームの成立に向けた実践力・指導力を深める。学修・教育目標コードのうち特に（B）（E）と深い関連がある。	・基本的な個人・集団実技能力の習得。 ・6人制の基本的なゲームルール及び審判法の習得。 ・実技レベルに応じた教材の選択とルールの適用。	a	0.1
				b	0.4
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.1
運動学	運動学習論および力学、生理学、解剖学などの基礎知識をもとに体育の学習指導やスポーツのコーチングの方法について習得する。	・中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための必修科目であり、運動学習論やバイオメカニクスなどの専門理論を通して実技の指導力を高める科目としての意義を持つ。 ・学修・教育目標コードのうち特に（D）（E）と深い関連がある。	・運動学習論の理解およびスポーツバイオメカニクスについて理解を深める。 ・理論的な観点から運動指導の具体的方法が理解できる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0.1
生理学	生理学の基礎から運動生理学の応用について全15回で行うものである。まず、身体の神経、呼吸、血液、循環、内分泌などの基本となる生理機能について概説する。このことを踏まえ中学・高等学校の保健体育の授業で必要となる課題について、身体活動の安全性やパフォーマンス向上を含め講義する。	中学校・高等学校の「体育、保健体育」免許を取得するための必修科目であり、これまでの教員採用試験に出題された問題などについて取り上げ講義の中でその解説を行う。学修・教育目標コードのうち特に（B）（C）（E）と関連がある。	本講義では授業計画に示すように身体の機能的メカニズムを十分に理解することが必要となる。さらに運動場面においてどの様に身体の諸機能が変化するかを明らかにし、生理学から運動生理学へ系統的に説明を行い、各臓器や器官と運動を有機的に結びつけることができるようになる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
衛生学及び公衆衛生学	衛生学は人々の疾病の予防、健康の保持増進のための原理について、公衆衛生学は集団としての人間の健康の保持増進を図るための社会のあり方などについて学ぶものである。具体的には、社会制度、環境、疾病、生活習慣、ライフステージ等と人々の健康との関係性について解説し、我々が健康な社会の創造に向けて何をしなければならぬのかを考える契機とする。なお、衛生学及び公衆衛生学の範囲は広範にわたるので、日常生活とできるだけ関連のある内容を中心に扱う。	・中学校・高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目であり、学校等における集団の健康を保持増進していくための基礎的な知識と技能を養成する上で意義を持つ。 ・学修・教育目標コードのうち特に（D）（E）と深い関連がある。	・健康の概念、環境衛生、感染症、生活習慣病、精神保健、母子保健、疫学等に関わる重要かつ基本的知識を習得し、説明できる。 ・集団としての人間の健康の保持増進を図るために自分自身ができることを、本授業で学習した内容を基に思考し、提案することができる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0.1
学校保健	学校現場において子どもの健康や安全を守っていくための「保健管理」、また、健康や安全の保持増進に関わる子ども自身の能力を育てていくための「保健教育」についての基礎的な内容について講義する。その際、受講生がこれまでの学校生活で体験したことや感じたことを取り上げながら進める。	・中学校・高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目であり、学校現場において行われる様々な学校保健活動を養護教諭、栄養教諭、学校医、保護者等と連携しながら企画・運営していけるための知識と技能を養成する上で意義を持つ。 ・学修・教育目標コードのうち特に（C）（E）と深い関連がある。	・学齢期の子どもにおける発育発達の特徴や起こりやすい健康問題について理解できている。 ・学校において子どもの健康や安全を保障するための主要なシステムや活動、担当者の役割等について理解できている。 ・健康や安全に関わる子ども自身の実践力を育成するためのアプローチのあり方について、思考することができる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.3
				f	0.1
体育原理	教育概念に基づく体育概念を理解し、従来の学校体育・社会体育論を批判的に検討することを通して、体育論・スポーツ論に関する基礎的理解力を習得する。	学校教育における体育・スポーツの諸問題を理解すると共に、教師としての役割等について理解を深める。学修・教育目標コードのうち特に（B）（C）と深い関連がある。	・体育原理に関する基礎理論の習得。 ・体育概念に関する基礎的アプローチ法の習得。 ・スポーツ概念に関する基礎的アプローチ法の習得。 ・体育・スポーツに関する諸問題の理解。	a	0.1
				b	0.4
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
体育・スポーツ心理学	運動・スポーツと心の関係を以下の3つの観点から取り上げ、指導のあり方について講義する。 1) 運動・スポーツが心にどのような影響を及ぼすか 2) 運動・スポーツを学習するときに、どのように心が保わるか 3) 運動・スポーツを行うときにどのように心が関与するか	・中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための選択科目であり、学習者の立場に立った指導を行うために必要な基礎的な知識と指導力を養成する。 ・学修・教育目標コードのうち特に (B) (D) と深い関連がある。	・体育・スポーツの経営管理学として学んだこと、考えたことをレポートで論理的に表現できるようになる。 ・体育・スポーツの経営管理学として学んだこと、考えたことを口頭で発表できるようになる。	a	0
				b	0.4
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
体育・スポーツ経営管理学	スポーツという行動がどのような仕組みのもとで成り立っているのか、その経営学的背景を知るとともに、体育・スポーツ指導者に必要な経営管理学上の技術・知識・考え方を探る。あわせて、受講者自身の運動学習の体験やその考え方を発表し、討議する力も習得し、体育・スポーツの経営者・管理者・指導者(教員)養成に資する。	免許教科「保健体育」を取得する場合の「教科に関する専門教育科目」として、体育・スポーツ指導者に必要な経営管理学上の知識と技能を育成する。 ・学修・教育目標コードのうち特に (B) (C) と深い関連がある。	・体育・スポーツの経営管理学として学んだこと、考えたことをレポートで論理的に表現できるようになる。 ・体育・スポーツの経営管理学として学んだこと、考えたことを口頭で発表できるようになる。	a	0
				b	0.4
				c	0.3
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.1
体育・スポーツ社会学	現代社会においてスポーツは、政治・経済・教育などさまざまな分野で大きな影響力をもって展開されている。授業では、スポーツとその他の文化との関わりについて具体的な事例を挙げながら学ぶ。	・本授業は教育学部教員養成課程保健体育専攻の科目であり、課程共通科目中学校科目として配置されている。 ・学修・教育目標コードのうち特に (B) (C) (D) と深い関連がある。	スポーツの高度化と大衆化という社会現象を踏まえ、スポーツと社会・文化との関わりに焦点をあて、その背景にある社会性と内在する問題の存在について理解し、検討できている。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.1
中等保健体育科教育法(体育1)	中学校・高等学校の体育授業実践に向けた基礎理論(目標論・教科内容論・教材づくり論・学習評価論等)について講義する。また、講義内容を踏まえて授業設計を行い、模擬授業などを通して理解を深める。	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための必修科目であり、保健体育授業の実践力を高める科目としての意義を持つ。 学修・教育目標コードのうち特に (B) (C) (D) と深い関連がある。	・中学校の体育授業実践に向けた基礎理論を理解する。 ・基礎理論を踏まえた授業設計ができる。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
中等保健体育科教育法(保健1)	保健体育教師が保健の授業を担当する意義、中学校および高等学校の保健の授業で教えるべき内容とその授業づくりの方法等について、具体的なデータ、教材、授業実践例等を用いながら講義を行う。また、学生によるグループワークなどの主体的学習活動も適宜取り入れながら進める。	・中学校・高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目であり、体育・スポーツ・健康に関わる各分野の専門性を有する学生の利点を活かした保健の授業づくりのあり方について模索する。 ・学修・教育目標コードのうち特に (C) (D) と深い関連がある。	・保健の授業を担当する教師に必要な授業観が形成できている。 ・中学校および高等学校の学習指導要領に示されている保健学習の目標、内容について理解できている。 ・将来、保健の授業を担当する上で必要とされる教材研究の方法や指導方法について理解できている。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
中等保健体育科教育法(体育2)	中学校および高等学校における保健体育の授業に必要な知識や技能とそれらにかかわる指導方法について学習する。	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための必修科目であり、教育実習などの研究授業を省察し、保健体育の指導力を高める科目としての意義を持つ。 ・学修・教育目標コードのうち特に (B) (C) (D) (E) と関連がある。	・体育や保健の授業を客観的に観察し、良い点や問題点を指摘することができる。 ・また、そうした指摘をもとに授業を改善するための具体的な方法を提案できる。 ・体育の実技や理論の指導案づくりを適切に行うことができる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
中等保健体育科教育法(保健2)	生徒の保健に関わる科学的認識や思考力を育むような保健の授業のあり方について講義・議論する。また、保健の授業における「指導と評価の一体化」の考え方について解説した上で、保健授業の指導案づくりや教材づくり、模擬授業を実施し、相互検討を行う。	・中学校・高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目である。「中等保健体育科教育法(保健1)」において学習した保健の授業づくりに関わる基本的な内容を踏まえ、実践的な指導力の育成を目指した内容とする。 ・学修・教育目標コードのうち特に (B) (C) (D) と深い関連がある。	・教科保健で指導する内容に関わる専門的知識や指導方法が身につけている。 ・保健の授業における評価の考え方や方法が理解できている。 ・保健の授業の指導案づくりや教材づくりを適切に行うことができる。 ・教育実習等で保健の授業を担当する上での実践的な指導力を身につけている。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
解剖学	中学校や高等学校の保健体育の教科書に記載されている身体の骨、筋肉、神経系、循環器系の名称を人体標本を用いて説明を行う。特に運動器については具体的な運動と関連させ説明を行う。	中学校や高等学校の保健体育の授業で学習する身体の基礎的な名称と役割について学習する。また、運動生理学、運動発達論や運動学などの応用できる身体の各部位の詳細な名称とその役割を理解する。また、各種の実技科目で使用する身体各部位を系統的に理解する。学修・教育目標コードのうち特に (B) (E) と深い関連がある。	解剖学のなかでも骨格系、筋系、脈管系、神経系の構造について理解し基礎知識を修得することにある。とくに運動器官である骨格系、筋系については、将来、中学校・高等学校の教師にとっては非常に重要になってくるので、骨標本、筋標本、関節標本などの名称とその役割が理解できる。	a	0.1
				b	0.4
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
体育・スポーツ統計	既存の数値・質的データを用いて、それらの基本的な処理を始め、専門書の講読および卒業研究の取り組み等においても必要とされる統計的方法についての知識について、数式よりも意味や使い方を重視して講義する。	保健体育専攻専門科目のなかの選択科目であり、専門書講読、及び卒業研究遂行の際に必要な基礎的な知識を修得する。学修・教育目標コードのうち特に (B) (C) (E) と深い関連がある。	・測定結果、アンケート結果、実験データ、その他の調査等で得たデータの処理方法を修得する。 ・自然科学の研究に不可欠な道具である統計的方法の本質、仮説検定の仕組みなどを理解する。	a	0
				b	0.4
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.1
運動発達論	誕生から老年にいたるヒトの運動発達の特徴を展望し、スポーツ運動系の運動学習や運動指導について学ぶ。	体育の授業やスポーツ指導の前提条件となる学習者の発達、すなわち就学前の子どもから高校生、さらに成人の運動発達の特徴を理解する科目として意義を持つ。 ・学修・教育目標コードのうち特に (D) (E) と深い関連がある。	・就学前の子どもから老年に至る各年代における具体的な運動指導の計画を作成することができる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0.1
運動生理学	生理学で学習した内容を基礎として、学校体育・スポーツ活動の場において実際に活用できる内容について授業を展開する。	本授業科目では、これまでの中学校や高等学校の保健体育の教員採用試験に出題された問題などについて取り上げ、その対策を含め講義を行う。小・中・高等学校の体育、保健体育の指導要領に記載されている事象を念頭に置きながら授業を展開する。学修・教育目標コードのうち特に (B) (C) と深い関連がある。	運動生理学の立場から運動中及び運動後の安全管理と障害の予防および運動パフォーマンスの向上について基礎的知識を理解ができる。	a	0.1
				b	0.4
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.1
武道B	柔道（武道）の歴史・特性を理解し、正しい基本動作や技能を身に付ける。安全な身の処し方を理解した後に、柔道の技として、投げ技、及び固め技の原理を一つ一つ学ぶ。さらに練習や試合を通すことにより、対人競技としての技能や能力を高めていく。また、柔道試合審判規定などについて理解を深めていく。	・「保健体育専攻専門科目」として武道、特に柔道指導に必要な知識と技能を育成する。 ・学修・教育目標コードのうち特に (B) (C) (F) と深い関連がある。	・柔道（武道）の特性を理解できている。 ・基本動作や個々の技能及び対人技能、試合などを通して、生涯スポーツに役立つ能力を修得できている。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.2
スキー	基礎的なスキー技術の実技指導を行う。また、スキー技術・スキー指導法 等の理論を講義する。	・中学校・高等学校の保健体育授業（自然体験活動）の実践力を高める科目としての意義を持つ。 ・学修・教育目標コードのうち特に (C) (E) (F) と深い関連がある。	・スキーの基礎的な理論が理解できている。 ・スキーの基礎的な技能が習得できている。 ・自然条件とその危険性を理解した上で、適切な活動を実施できている。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.3
				d	0
				e	0.3
				f	0.2
保健体育研究セミナーⅠ	本演習は卒業論文を作成するために必要な保健体育、スポーツおよび健康科学に関する分野の動向や課題について自ら問題意識を持ち、これらの課題を解決していくために必要となる調査方法、方法論、それに関連する文献検索法や統計的な手法を学習する。	保健体育専攻専門科目における必修科目であり、保健体育、スポーツ及び健康科学における研究の動向や研究方法等に関する基礎的な知識と技能を養成する。学修・教育目標コードのうち特に (D) (E) (F) と深い関連がある。	・保健体育、スポーツ及び健康科学における研究方法等に関する基礎的な知識と技能を修得する。 ・従来の研究の動向や課題について理解する。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.4
				f	0.2
保健体育研究セミナーⅡ	前期に学習した「保健体育研究セミナーⅠ」を継続しつつ、卒業研究の課題設定に向けて、各教員から指導・助言を受ける。	保健体育専攻専門科目における必修科目であり、保健体育、スポーツ及び健康科学における研究の動向や研究方法等に関する基礎的な知識と技能を養成する。学修・教育目標コードのうち特に (D) (E) (F) と深い関連がある。	・保健体育、スポーツ及び健康科学における研究方法等に関する基礎的な知識と技能を修得する。 ・従来の研究の動向や課題について理解する。 ・自ら問題意識を持って課題を設定する能力と態度を修得し、卒業研究で取り組む課題を探る。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.2
				e	0.4
				f	0.2
卒業論文	卒業研究の課題設定と遂行に向けて、各教員から指導・助言を受ける。	保健体育専攻専門科目における必修科目であり、保健体育、スポーツ及び健康科学における研究の動向や研究方法等に関する基礎的な知識と技能を養成する。学修・教育目標コードのうち特に (E) と深い関連がある。	・自ら問題意識を持って、教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、研究課題とする。 ・設定した研究課題について、従来の研究の動向や課題について分析し、その独自性を明確にする。 ・研究方法等に関して修得した基礎的な知識と技能を応用し、卒業研究の課題に取り組む。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.6
				f	0.1



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
家庭経営論	まず学問背景である家政学や家庭経営学について考察し、次に家庭科という教科の教育内容としての家庭経営に焦点をあて、社会の変化とのかかわりで家庭生活の変遷をたどり、その後、家庭生活の経営と管理の各論と家庭経営における現代生活の課題を検討する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための必修科目であり、家庭科の教科専門の柱の1領域である「家庭経営」の基礎的な知識を習得する。学修・教育目標のうち「(F) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる」と深い関連がある。	私達の生活拠点である家庭を中心とした生活経営に関する知識を習得するとともに、家庭生活の諸問題を社会との関わりでとらえ、生活課題を解決する基礎力を培うことを目標とする。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.3
衣生活論	心理的、社会的、物理的環境としての衣服を考慮しつつ、着ることの意味および衣服の素材と構造による衣服の着用特性について講義を行う。また、衣活の今日的課題について、地域の生活文化および環境問題としての衣服についても述べる。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための必修科目であり、家庭科の教科専門領域である「衣・住生活」の基礎的な知識を習得する。専門教育学習・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	適切な衣生活のあり方を論理的に考えることができるようになることを到達目標とする。	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
被服構成実習 I	日本の伝統的衣生活形態である和服について大裁単長着の中から浴衣を取り上げ、浴衣の製作法と着装法を学び、和服構成（平面構成）の基礎知識・技術を習得する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための必修科目であり、家庭科の教科専門領域である「衣・住生活」の基礎的な知識・技能を習得する。専門教育学習・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・手縫いは小中学校家庭科において基礎的な技能であるので、手縫いの技法について理解を深める。 ・浴衣の実物製作を通して、中学・高校家庭科被服分野における教材研究を行う。また、	a	0
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
食生活論	現代の食に関する現状と課題について、食と健康、食の安全と衛生、食文化について講義する。また、郷土食や伝統食に関して各自で調査を行い講評し合い理解を深める。	学修・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・①我々の食生活における現状と課題、②日本および世界の食文化、③食と健康（特に生活習慣病との関連）、④食の安全と衛生、の4項目に関する基礎的知識を養う。 ・望ましい食生活を実践する上での基礎的な知識と技能を修得する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
調理実習 I	小学校、中学校、高等学校で行う調理実習の内容について、和食、洋食、中華、韓国等のメニューを段階的に取扱ひ、最後に各班で献立立案から実習までを行う。	学修・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・①基本的な調理操作や調理材料の取扱ひ、②調理科学的知識に基づいた実践力、③郷土食や伝統食への理解、④環境を意識したエコッキングおよび食材の廃棄、の4項目について修得する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
住生活論	住居の歴史的成立の背景と変遷、戦後の住宅政策と住様式の変遷、住まいと生活の関係を中心に講義する。また、これらの題材を基にどのように授業を展開するかなども取り上げる。	家政教育専攻の教科専門科目であり、中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための必修科目であり、家政教育専攻の1専門分野である「住居学」の基礎としての意義を持つ。学習・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・住居の基礎を学ぶことで、自らの住生活に積極的に関わっていく基本的知識と態度を養う。 ・基本的知識を基に住居の授業展開を理解できるようになる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
保育論	生命がどのように誕生し、成長発達するのか、その特徴と発達課題について学習する。また、子どもの人権が福祉、教育、労働などの分野でどのように保障されているかについて考える。	学修・教育目標のうち「(C) 子どもも理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」、「(F) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる」と深い関係がある。	・子どもの育ちと環境との関係について、子どもの心身の発達を踏まえて理解する。 ・子どもの育ちに必要環境とは何かについて具体的に考える。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.3
家族関係論	家族の関係を視点をおいて、さまざまな側面から考察する。	中学校・高等学校「家庭」の免許を取得するための選択必修科目であり、家族関係についての基礎的知識を養成する。学修・教育目標のうち「(F) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる」と深い関係がある。	1. 少子化が深刻となっている現状において、保育所の持つ子育て支援の役割と重要性について理解する。 2. 現在の社会状況下での「家庭」「家族」の意味と機能について理解する。 3. 我が国が現在行っている子育て支援・家庭支援施策の内容について理解する。 4. 家族・家庭の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
生活経済論	家庭科の専門領域として、家計から経済をとらえる視点が重要である。そこで、生活者の視点にたった経済システムの構築の展望を目指す前提として、経済のしくみ、国民経済と家庭経済、「家計調査」を用いて宇都宮市を例に具体的な作業を行いながら実態を把握し、生活経済の今日的課題について検討する。	中学校・高等学校「家庭」の免許を取得するための選択必修科目であり、生活と経済についての基礎的知識を養成する。学修・教育目標のうち「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	消費生活を営む家庭生活を対象として、生活者を取りまく経済的・社会的環境との関係、実施、変化、問題を明らかにし、生活者の視点にたった経済システムの構築を展望することを目標とする。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
生活環境論	快適な生活環境を考える上で必要な論点を衣生活を切り口にして整理し、それらがもつ基本的な問題や諸課題について基礎的な考え方を講義する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための選択必修科目であり、家庭科の教科専門領域である「消費と環境」の基礎的な知識を習得する。専門教育学習・教育目標のうち「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・身近な生活から環境問題を捉えられるようになる。 ・生活を多面的に考えることができるようになる。 ・環境問題解決に果たす生活者の役割を考慮することができるようになる。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
被服素材論	衣生活で欠かせない衣服の役割を考えるうえで必要となる被服素材について、材料学的視点から繊維の物理化学的特性について講義する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための選択必修科目であり、家庭科の教科専門領域である「衣・住生活」の基礎的な知識を習得する。専門教育学習・教育目標のうち「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・高分子材料としての繊維の基礎的知識を修得する。 ・繊維集合体としての糸・布の基礎的知識を修得する。 ・快適な衣生活について材料学の視点から考えられるようになる。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
衣管理論	衣服は着用によって汚れが付着し、本来持っている性能が低下する。衣服の性能を保持していくために洗濯は不可欠である。洗濯に必要な、水、洗剤について理解し、衣服の外観の再生にもつながる漂白や仕上げ、さらに正しい保管の方法などの知識についても身につける。また、洗濯排水や繊維製品の廃棄などの環境問題についても考える。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための選択必修科目であり、家庭科の教科専門領域である「衣・住生活」の基礎的な知識を習得する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・汚れを科学的に理解できる。 ・界面活性剤を科学的に理解できる。 ・洗濯に関する基礎的な知識を習得する。 ・衣服管理と環境の関係について考えられようになる。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
栄養学	各栄養素の種類や代謝、生理作用について、また、エネルギー摂取量や消費量のアンバランスが生活習慣病に繋がること等について講義する。	学修・教育目標のうち「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・各栄養素の種類や代謝・生理作用について基礎知識を修得する。 ・エネルギー代謝と算出方法を理解し、活用できる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
食物科学	食品に含まれる成分や特性、調理過程における食品材料の化学的・物理的变化について、また、食の安全を確保するための食品衛生に関する基礎知識について講義する。	学修・教育目標のうち「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・食品に含まれる成分や特性、おいしさ等の基礎知識について修得する。 ・調理過程における成分間反応について理解し、調理科学的視点をもって調理操作を捉えられるようになる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
住環境論	住まいの室内及び室外環境について、デザイン（インテリアデザイン、街並み景観）、環境共生（住まいの環境共生、エコロジカルタウン）という観点から講義する。	家政教育専攻の教科専門科目の一つとして、住環境に関する基礎的知識を幅広く提供し、この分野への関心を喚起する。学習・教育目標のうち「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	・住まいの室内外の環境及び街環境について、デザイン・景観、環境共生という観点から基礎的知識を習得する。 ・また、それらの知識を基に、主体的に良好な住環境づくりに取り組む姿勢を育てる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
住生活環境実習	住まいの企画、プランニング、設計デザインを演習形式で行う。	家政教育専攻の教科専門科目であり、家政教育専攻の1専門分野である住居学に関して、特に住宅の設計デザインへの意欲を喚起するとともに、主体的に住まいの環境づくりに関わっていく姿勢を育てる。学習・教育目標のうち「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	・住まいの設計デザインとその教育に関する基礎的な知識と技能を修得する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
児童福祉論	「児童虐待」など子どもの社会的排除を主とする課題認識を手がかりに、歴史的に築かれてきた子ども福祉の理念・法律・サービス等に関する理解を深め、子どもの最善の利益が子どものかわるすべての生活場面（法律・制度、施設・機関の運営、子ども福祉の実践の各レベル）に貫かれる社会の実現に向けて、私たちができることは何か、当事者として考える。	学修・教育目標のうち「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」、「(F) 他者を尊重し、協力して課題解決に取組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる」と深い関係がある。	家庭、子育てが多様化した昨今において、子どもの福祉をどう捉えるかは重要な課題であると言ってよい。子どもの福祉の現状と課題について法・制度を踏まえながら理解する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.3
家庭電気・機械及び情報処理	子どもと情報社会の関係は家庭科においても無視できないものである。それらを議論する前提での生活システムを電気・機械・情報の視点から講義する。	高等学校の「家庭」免許を取得するための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・子どもの発達と情報化における基礎的知識を修得する。 ・生活に関する電気学・機構学・情報学の基礎的素養を修得する。 ・家庭科における情報教育の役割を考えられるようになる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0.1
衣生活環境実験	被服素材論を中心に、衣生活論、衣環境論等の被服領域の講義の理論を、実験・実習を通して理解を深める。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための選択必修科目であり、家庭科の教科専門領域である「衣・住生活」の基礎的な知識・技能を習得する。専門教育学習・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係があり、衣生活分野を指導するうえでの実験スキルを養成する。	・伝統染織に関する実習より衣生活の現代的意義について考えられるようになる。 ・衣生活環境を客観的に評価するための実験スキルが身につけている。 ・実験データに基づいて結論を導き出せるようになる。	a	0
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.6
				e	0
				f	0.2
食生活環境実験	食物を科学的に捉えることを中心に、食品の加工、食品の調理性、食品に含まれる栄養素などについて実験する。	学修・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・①基本的な実験操作や実験器具類の取扱い、②食品加工の方法、③食品間の化学反応への理解、④食品に含まれる成分の検出や合成方法、の4項目を修得する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
住生活環境実験	住まいの室内環境を様々な測定機器などを使い測定するとともに、その測定結果と器材を活用した授業計画を立案する。また、リアプリーリフォームの講義と実習も行う。	家政教育専攻の教科専門科目の一つとして、住宅の内部環境を的確に測定できる知識と技能を修得するとともに、リアプリーリフォームの基礎的技術を身に付ける。学習・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	・住宅の内部環境を中心に、環境要因の測定器材の使い方や測定結果の意味などに関する基礎的知識を得るとともに、それらを題材とした授業計画を立案できるようになる。 ・リアプリーリフォームに関する基礎的知識と技能を得る。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.2
中等家庭科教育法Ⅰ	本授業は、中等教育における現代家庭科の教科論及びカリキュラムについて、戦後の変遷を踏まえながら、目標・内容、指導方法、評価等について概説するものである。また、家庭生活を取り巻く諸課題と家庭科教育との関係性を考察することにより、その意義や役割について検討する。	中学校教員免許取得に必須の科目である。中学校・高等学校家庭科を指導するに当たっての基本的な知識・技能を修得する教育目標のうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	・中等教育における現代家庭科の教科としての特質を理解する。 ・中学校家庭科学習指導要領の内容を把握する。 ・中学校における家庭科学習の現状を知り、学習指導にいかそうとする。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
中等家庭科教育法Ⅱ	本授業では、中学校家庭科の指導案作成方法や教材開発の方法について学び、模擬授業を行う。授業観察、授業評価、授業後の意見交換も併せて行い、実践力を培うことを目指す。	中学校教員免許取得に必須の科目である。「中等家庭科教育法Ⅰ」に引き続き、中学校・高等学校家庭科を指導するために必要な教材研究法及び指導法の基本的な知識・技能を修得する。学修・教育目標のうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	・中学校家庭科学習指導案（1時間）を作成できる。 ・1時間の模擬授業ができる。 ・模擬授業の観察、授業評価、意見交換ができる。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
中等家庭科教育法Ⅲ	若者のライフコースの変化をつかみ、家庭や地域の生活を創造する現代的な家庭科教育の課題に応える授業デザインについて学ぶ。	中学校・高等学校教員免許一種（家庭）取得に必須の科目。「中等家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ」において、中学校・高等学校「家庭」のための教材研究法の基礎を修得した上で、ここではさらに生徒の実態に即した指導法について学ぶ。学修・教育目標のうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	家庭や地域の生活を創造する能力や実践的な態度を養う授業デザインの知識とスキルを身につける。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
中等家庭科教育法Ⅳ	中等教育における家庭科教育の位置づけ、小・中・高の一貫性と系統性を検討し、模擬授業とそこから学び取れた課題をまとめ、教材開発を念頭において1単元の授業案を完成する。	中学校・高等学校教員免許一種（家庭）取得に必須の科目、「中等家庭科教育法Ⅰ～Ⅲ」で修得した中学校・高等学校「家庭」のための教材研究法及び指導法を、教材作成や模擬授業等の活動を通して実践的・発展的に学ぶ。学修・教育目標のうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と及び「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	中等教育における家庭科教育の位置づけ、教育内容の系統性をふまえ、家庭科の教育内容及び教育方法について検討し、生活者として主体的に生活を創造する力を育成する家庭科のあり方を構想することを目標とする。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
生活福祉論	生活や福祉の基本的概念をふまえて、生活者から問う福祉社会のあり方を検討し、生活福祉のあり方を模索する。	家政教育専攻の選択専門科目の一つとして、生活福祉への幅広い興味関心を喚起する。学修・教育目標のうち「(F) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる」と深い関連がある。	生活者の視点から福祉をとらえ、生活の福祉とは何か、生活福祉のあり方とはどうあるべきか、について考察し、変化する社会から発生する生活問題の原因を検討し、その解決の方策を考えることを目標とする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.3
消費者教育	消費生活の拠点として家庭をとらえ、家族、家庭経済と消費生活のかかわりを中心に、消費の概念の変化についても検討し、消費生活を営む消費者に視点を合わせ、消費者の権利と責任、消費生活関連法、消費者問題、環境を意識し、持続可能な社会形成に参画する消費者のあり方や環境問題とライフスタイルの関係についてなどの内容を消費者教育推進の立場から学ぶ。	家政教育専攻の選択専門科目の一つとして、消費生活への幅広い興味関心を喚起する。専門教育学習・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	消費生活の拠点として家庭をとらえ、家庭経営の視点から消費生活論を論じる。生活者をとりまく社会的経済的環境の変化の実態を把握し、現代の消費生活がかかえる課題を明らかにするとともに、消費者教育を推進することを目標とする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.3
食教育論	様々な発達段階における子どもの栄養に関する基礎知識について講義する。栄養・食生活に関する教育や指導で用いる教材について検討し評価し合う。	学修・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	①食に関する基礎知識、②子どもの食生活と栄養、③食育の実践方法などについて理解する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
子どもの保健	子どもの保健をめぐる世界と日本の現実を、医学の延長線上として捉えるのではなく、関連する社会制度や施策の現状と課題を踏まえて考える。	家政教育専攻の教科専門科目の一つであり、学修・教育目標のうち「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深く関わる。	家庭、子育てが多様化した昨今において、子どもの保健をどう捉えるかは重要な課題であると言ってよい。子どもの保健の現状と課題について法・制度を踏まえながら理解する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
保育原理	保育・教育についての基本的な概念や方法について学習する。また、子どもの保育に関する昨今の問題についても理解を深める。	学修・教育目標のうち「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」と深く関連づけられる。	本授業は、「保育」に関する基本的な概念や方法について理解を深めることを目的とする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.4
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.1
地域居住論	地域の居住環境を幅広い観点からとらえ、まちづくり、市民参加の手法、都市計画関連法規、街並み景観、NPO・ボランティアなどを取り上げる。	家政教育専攻の専攻専門科目の一つとして、住まいと街環境への幅広い興味関心を喚起する。学修・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	まちづくり、市民参加の手法、都市計画関連法規、街並み景観、NPO・ボランティアなどに関する知識を得る。 課題への取組を通して、より良い地域居住環境づくりのための関心を高める。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.4
				d	0.3
				e	0
				f	0.1
住宅政策論	日本及び海外の住宅政策の変遷、課題、将来の見通しなどについて講述する。	家政教育専攻の専攻専門科目の一つとして、住まいと街環境への幅広い興味関心を喚起する。学修・教育目標のうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関連がある。	日本、欧米諸国の住宅政策に関する知識を得るとともに、住宅政策への関心を喚起する。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.3
				d	0.4
				e	0
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
被服構成実習Ⅱ	各自設計した衣服を製作することにより、衣服の構造、構成方法を理解し、設計した衣服の着心地を確認する。 本授業では、立体構成として、ブラウスまたは、シャツまたは裏なしジャケットを取り上げ、窄衣の構造、立体構成の方法を理解し、着心地や着装方法を確認する。	理論的な学習に基づき、被服の構成や構成を理解し、実際に構成することにより学習を深める。	平面の布を衣服の形にするばかりではなく、動作を阻害しない快適な着心地を与える衣服の構造について縫製の面から理解を深めることを到達目標とする。	a	0.1
				b	0.5
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.1
				f	0
調理実習Ⅱ	調理実習Ⅰの基礎的知識や技術を発展させた内容となり、和食、洋食、中華等の他、各国のメニューを取扱う。また、行事食、伝統食について食文化的背景を踏まえながら実習する。最後は各班で献立立案から実習までを行う。	学修・教育目標のうち「(D)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」と深い関係がある。	・調理における知識や技術を高度に活用できる。 ・行事食・郷土食や各国の料理について説明でき、作成することができる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
家政研究セミナーⅠ	教員全員がそれぞれの専門分野を中心に研究成果等を取り上げ、教員の問題提起、あるいは受講生自らの問題設定を行う。	全専門分野を知り、そのなかから関心に基づいて受講者が各専門分野を選択できるようにする。学習・教育目標のうち「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」と深い関連がある。	家政教育に関する諸分野について、自発的に問題意識を持ち、調査研究し、論理的に考察し、それを口頭および文章で表現する能力、集団において議論する能力を養うことを目標とする。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.1
家政研究セミナーⅡ	受講者が興味・関心のある学術論文を読み、内容について要点を整理・発表し、各専門分野の知識を広げると共に、卒業論文の作成に向けて、研究の進め方、論文の構成、資料収集等について示す。	卒業論文の作成に必要な基礎的知識と技術を修得する。学習・教育目標のうち「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」と深い関連がある。	・卒業論文に向けて自身の興味関心を整理する ・論文の構成を理解する ・各自が卒業論文作成に必要な知識と技術を見出す。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.1
卒業論文	家政教育の様々な問題に関心を持ち、先行研究の批判的検討を通して自己の理論展開を構築し、問題解決のための方法論を考え、論文の形で研究の成果をまとめる。	専攻専門の集大成である。学習・教育目標のうち「(E)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる」と深い関連がある。	研究テーマを設定し、研究の成果を卒業論文としてまとめ、発表し、学生生活の集大成として今後への土台とすることを目標とする。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.1
				e	0.5
				f	0.1
材料加工学Ⅰ	木材加工の基礎知識とその応用まで、一連の流れを説明する。このことによって樹木の重要性、木材の有効活用、強度計算さらには地球環境問題について解説する。	木材加工を行うための、構想力、具現化する力さらに設計から図面製作、材料選定、加工方法、組立並びにその修正法、塗装等を一連の流れとして考えることができるようになる。教師としての視点に立つことができる。特に(D)に深い関連がある。	木材加工を行うための、設計から図面製作、材料選定、加工方法、組立並びにその修正法、塗装等を一連の流れとして考えることができるようになる。教師と生徒の立場を考慮することができる。専門教育学習・教育目標のうち(A)及び(C)と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.2
材料加工学Ⅱ	Fe-C線図を中心に学ぶことによって鉄鋼材料の基礎を知ることができ、他元素との合金化することによって生活に有用なステンレス鋼、合金工具鋼などに変化することについて学ぶ。鋳鉄については身近な例を取り上げわかりやすく講義する。	Fe-C線図、低融金属、切削加工の基礎、砥石の種類について使い方をマスターできる。金属の種類を色、硬さ、火花試験によって判別できる。特に(B)(C)に深い関連がある。	機械加工総論を学ぶことによって、「機械製品ができるまで」と題し創造・独創、概念設計、製図、材料・加工、部品の組立・検査過程を知ることによっての技術教育機械領域の位置づけが理解でき、Fe-C線図、低融金属、切削加工の基礎、砥石の種類について使い方をマスターできる。教師と生徒の立場を考慮することができる。専門教育学習・教育目標のうち(A)及び(B)と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0
機械工学Ⅰ	技術科の機械分野のうち、主としてエネルギー変換に関連する諸現象を理解するために必要となる熱力学、サイクル、燃焼、伝熱工学等の基礎的な事項について講義する。	中学校(技術)、高等学校(工業)の教員免許状を取得するための科目である。 熱工学の理解を深めるとともに「エネルギー変換工学」や「技術学実験実習Ⅳ」で学習する上必要な基礎的知識の習得と物理的な考察ができる能力を身につける。特に(B)(D)に深い関連がある。	・熱工学の理解を深めるとともに基礎的知識の習得と物理的な考察ができる能力を修得する。 ・「エネルギーに関する技術」の教材開発や指導ができるようになる。専門教育学習・教育目標のうち(A)及び(C)と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
機械工学Ⅱ	最初に流体の物理的性質をまなび、次に静止流体及び動いている流体の性質を学ぶ。また、ポンプや油圧装置等の基礎を学ぶとともにそれらの適切な活用方法についても学習する	中学校一種（技術）の教員免許状の取得要件となる科目です。 特に（B）に深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>流体の物理的性質が説明できる。</li> <li>静止流体と動いている流体の違いが理解できる。</li> <li>流体機械の適切な活用方法がわかる。</li> <li>教師と生徒の立場を考慮することができる。専門教育学習・教育目標のうち（A）と深い関連がある。</li> </ul>	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
電気工学Ⅰ	今日の科学技術の基盤となる電気電子工学の一分野である電気回路学の基本法則や定理を学ぶとともに、実際にオームの法則やキルヒホッフの法則の適用方法を学ぶ。そのことと同時にインピーダンスやアドミッタンスの電気的意味を知ることにより、電気回路学の基本の重要性を学ぶ。	中学校一種（技術）の教員免許状を取得するための必修科目です。 特に（B）に深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流回路における電圧や電流の平均値、実効値を定量的に求めることができる。</li> <li>交流回路における電圧、電流に関するフェーザ表示法が説明できる。</li> <li>インピーダンスやアドミッタンスの複素数表示ができ、その物理的意味が理解できる。</li> <li>与えられた回路において、枝路に流れる電流や2つの端子間の電圧を定量的に求めることができる。教師と生徒の立場を考慮することができる。専門教育学習・教育目標のうち（A）に深い関連がある。</li> </ul>	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
電気工学Ⅱ	交流回路における3つの電力や共振回路における共振周波数やクオリティファクターを算出する手法を学ぶことにより、電気回路学の重要性を学ぶ。	中学校一種（技術）の教員免許状の取得要件となる科目です。 特に（B）に深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>皮相電力、有効電力、無効電力、共振周波数及びクオリティファクターの物理的意味を説明できる。</li> <li>与えられた回路において、皮相電力や有効電力等を算出できる。また、効率改善の手法も理解できる。</li> <li>共振回路において、その回路が共振しているときの、有効電力と無効電力の関係を定量的に理解できる。専門教育学習・教育目標のうち（A）に深い関連がある。</li> </ul>	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
栽培	最初に栽培の起源を学び、次に栽培と諸環境の関連性について学ぶ。そして野菜類、草花類の育成方法についても学習する。	中学校一種（技術）の教員免許状を取得するための必修科目です。 特に（B）（D）に深い関連がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>食物の基本的な生理が理解できる。</li> <li>栽培と気象環境、土壌環境及び生物環境の関連性を説明できる。</li> <li>作物の栽培方法が理解できる。専門教育学習・教育目標のうち（A）及び（C）と深い関連がある。</li> </ul>	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.2
プログラミングⅠ	中学校技術・家庭（技術分野）の「情報に関する技術」に関する学習指導に必要な基礎的な知識・技能をプログラミングの基礎を通して習得します。	中学校「技術」免許取得の為の必修科目であり、技術教育専攻の専攻専門教育科目の一つとして、中学校の「情報に関する技術」の学習指導を行う教員に必要な基礎的な知識・技能や指導方法を修得します。学修・教育目標のうち特に（D）と深い関連がある。	中学校技術・家庭（技術分野）の「情報に関する技術」の学習指導を行うための基礎となる知識・技能を習得し、次の事項を到達目標とします。 （1）コンピュータの基本的な情報処理の仕組みを説明できる。 （2）基本的なプログラミングの知識・技能を活用することができる。 （3）適切なアルゴリズムの構築と基礎的なプログラムの作成ができる。専門教育学習・教育目標のうち（C）と深い関連がある。	a	0.4
				b	0
				c	0
				d	0.6
				e	0
				f	0
プログラミングⅡ	中学校技術・家庭（技術分野）の「情報に関する技術」に関する学習指導に必要な基礎的な知識・技能を、コンピュータプログラミングの演習を通じて修得します。さらに、Web上で利用できる教材の作成やコンピュータ制御について導入します。	高校「情報」免許取得及び中学校「技術」免許取得の為の選択科目です。中・高等学校の「情報」に関する学習指導を行う教員に必要な応用的な知識・技能や指導方法、教材作成方法を修得します。学修・教育目標のうち特に（D）と深い関連がある。	「情報」に関する学習指導を行うための応用となる知識・技能を習得し、次の事項を到達目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ内の情報処理の仕組みを説明できる。</li> <li>コンピュータプログラミングの知識・技能を習得し、発展的なプログラムを作成できる。</li> <li>ソフトウェアとハードウェアとの関係を考慮したプログラミングができる。</li> <li>学習指導に必要な簡単な教材を作成することができる。専門教育学習・教育目標のうち（A）及び（C）と深い関連がある。</li> </ul>	a	0.4
				b	0
				c	0
				d	0.6
				e	0
				f	0
製図	製図の基本をマスターするために文字練習、記号練習、曲線練習を行い、2年次で製作する課題を第三角法を用いて製図する。	製図の基本である、誰が見ても同じものが製作できる図面を書けるようになる。特に（B）に深い関連がある。	図面とは何かを理解でき、それを見る人がどのような部品であるかがわかる。さらに製作可能な図面であることを自らチェックできるようになる。専門教育学習・教育目標のうち（A）と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
技術学実験実習Ⅰ	木材加工と金属加工を行い、加工学ⅠおよびⅡで学んだことを実践できるようになる。	道具・工具の使い方を理解でき、ものの加工にはそれぞれに合った道具を選定できるようになる。特に(B)に深い関連がある。	丸鋸昇降盤、自動かん盤、手押しかん盤、旋盤、ボール盤、フライス盤を自由に使用できるようになる。専門教育学習・教育目標のうち(A)と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
技術学実験実習Ⅱ	今日の科学技術の基盤となる電気電子工学における基礎的分野に関するテーマ(8つ程度)について実験を行うことにより、すでに学習済みの電気工学Ⅰ、Ⅱの内容をより確実なものにする。同時に電圧計、電流計、発振器、オシロスコープ等の汎用測定器の取り扱い方法を完全に習得する。	中学校一種(技術)の教員免許状を取得するための必修科目です。特に(C)に深い関連がある。	・テーマ毎に用いる各種測定器を間違えずに使用できる。 ・オシロスコープを用いて、各種交流電圧波形を観測できる(振幅、周波数等が読み取れる)。その際、プローブの取り扱いも説明できる。 ・チームワークの大切さを知るとともに、科学技術論文の書き方を修得している。 ・レポートを書くことにより、すでに学習済みの電気工学Ⅰ、Ⅱの内容をより確実なものとなすことができる。専門教育学習・教育目標のうち(B)と深い関連がある。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
技術学実験実習Ⅲ	電気工学Ⅰやアナログ電子回路の講義で学んだ理論について実際に測定、観察し電気理論に関する理解を深める。ハンダ付け等製作にも時間をかけ加工の技能も向上させる。	中学校「技術」の免許を取得するための必修科目である。将来技術科の教員として相応しい、電気・ものづくり分野の技術を習得させる。特に(B)に深い関連がある。	・トランジスタを用いた回路の動作について理解できる ・プログラミングができる ・オシロスコープを使いこなせる ・ハンダを使って電子工作ができる専門教育学習・教育目標のうち(A)及び(B)と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0
技術学実験実習Ⅳ	機械の基礎となる原理を簡単な実験や演習を通してその理解を深める。題材は中学校等で実施されているものを取り上げ、講義と機械に係る教材製作を実施する。機械について基礎的な理論や概念的なものではない実質的な技術を習得し、機械に関する技術指導に必要な説明・支援方法を学び、教員としての資質と実践力を高めることを目指す。	中学校(技術)、高等学校(工業)の教員免許状を取得するための科目です。技術教育として必要な実験方法や実験機器の扱いを学び、教材開発法を修得することを目標とします。特に(B)に深い関連がある。	技術教育として必要な実験方法や実験機器の扱いを学び、教材開発法を修得することを目標にします。専門教育学習・教育目標のうち(A)と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
技術科教育法Ⅰa	授業では、技術科教育の意義、歴史的背景、現状、論点について講義を行う。	教育・教職に関する基礎的な学習を前提とし、それらを基礎に教科指導に関して学が発展的な内容である。特に(B)に深い関連がある。	(1)技術科教育は、わが国において普通教育としての技術教育を担う教科であることがわかる。 (2)技術教育とは、社会的生産における技術に関する科学的認識、生産技能の基本、技術観・労働観を育成する教育であることがわかる。 (3)技術科の学習指導計画を立案することができる。専門教育学習・教育目標のうち(A)と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
技術科教育法Ⅰb	授業設計、授業の診断と評価、学習指導法、技術科の施設設備と安全管理、教材研究について学ぶ。	中学校(技術)の教員免許状を取得するための必修科目である。 自らの力で教材開発や授業設計ができ、授業の内容や方法を創造的に改善する能力を培うことを目標とする。特に(B)に深い関連がある。	・自らの力で教材開発や授業設計を行うことができるようになる。 ・授業の内容や方法を創造的に改善する能力を培うようになる。専門教育学習・教育目標のうち(A)と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
技術科教育法Ⅱ	中学校技術科の授業に係る加工、エネルギー変換、情報に関する技術などの各領域についての内容、それらの指導とその評価方法を学ぶ。	中学校(技術)の教員免許状を取得するための必修科目である。 中学校技術科の授業内容に於ける材料と加工、エネルギー変換、情報に関する技術など、及びそれらの指導とその評価方法を修得する。特に(B)～(F)に深い関連がある。	・中学校技術科で扱う、材料と加工、エネルギー変換、情報に関する技術などの内容について説明できる。 ・それらの内容、指導とその評価方法を修得する。専門教育学習・教育目標全てに深い関連がある。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
技術科教育法Ⅲ	電気工学、機械工学、情報、材料加工などに関する中学校技術科向け「ものづくり」教材を自らの力で教材開発や授業設計について学ぶ。	中学校（技術）の教員免許状を取得するための必修科目である。 技術科担当教員として必要な教材開発能力、実践力を身につけることを目標とする。特に（B）（C）に深い関連がある。	・技術科担当教員として必要な教材開発能力、実践力を修得する。 ・開発した教材を用いた授業計画を作成することができる。専門教育学習・教育目標のうち（A）及び（B）と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0
工業数学	まずは高校数学の復習から始める。極限值や導関数の定義などである。更に逆関数や双曲線関数、テイラー展開について学んで行く。さらに積分について学び、一次の微分方程式の解法について学ぶ。これらは演習を通し、知識を定着させる。	高校「工業」の免許取得のための選択科目である。またこの科目は、技術科の殆ど全ての授業の根幹である。今後4年生までの他授業科目の理解する為の基礎知識を習得する。 特に（B）に深い関連がある。	・微分、積分の演算ができる	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0
機械設計	機械工学の4力学を用いて設計を行う。テーマに関してはガイダンスの時に決める。実験は設計通りになっているのかを確認し、実験を行い、評価し、再試作も行う。	具体的なテーマに関してはものの落下運動、梁の強度を応用した橋等々の設計を行う。特に（B）（C）に深い関連がある。	機械工学の4力学すなわち熱力学、流体力学、材料力学および機械力学を駆使してもの設計ができるようになる。専門教育学習・教育目標のうち（A）及び（B）と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0
応用力学	応力、ひずみ、弾性エネルギー等の力学的な諸現象について理解を深め、材料力学の基礎を学ぶとともに機械設計への応用力を養う。	中学校一種（技術）の教員免許状の取得要件となる科目です。 特に（B）に深い関連がある。	・機械や構造物にある力が作用したとき、どのような抵抗力が生じるのか理解できる。  ・また、いかなる変形が生じるかについても説明できる。 専門教育学習・教育目標のうち（A）と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
エネルギー変換工学	各種エネルギーを利用するためのエネルギー変換方式について、それらの原理と利用技術について学習する。また、エネルギーと大気環境保全に深く関わるエンジンについて、そのサイクル、構造、燃料、性能、将来の動向を、さらに、エネルギー利用効率や排気ガスなどの環境問題の改善方法について講義する。	技術教育専攻の専門科目、卒業要件に必要となる科目である。また、高等学校（工業）教員免許状の取得要件となる科目である。 「エネルギー変換に関する技術」の教材開発や指導ができる力を修得することを目標とする。特に（B）に深い関連がある。	・エネルギーの変換の基礎的事項を説明できるようになる。 ・中学校技術科「エネルギー変換に関する技術」の教材開発や指導ができる力を修得する。専門教育学習・教育目標のうち（A）と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
計測工学	科学技術の基盤でもあり、また中学校技術・家庭科での重要な分野である電気に関する計測方法について主に学ぶ。汎用測定器である回路計の動作原理をまず学習し、それを抵抗の測定に適用し、刻印された値とは若干異なることを体験する。このことより、電気に関する学習では実験が非常に大切であることを学ぶ。更に、アナログ回路計とデジタル回路計の違いを学ぶ。さらに測定機器に表示されている記号や数値の意味を学ぶ。	中学校一種（技術）の教員免許状の取得要件となる科目です。 特に（C）に深い関連がある。	・回路計の動作原理を電氣的に説明できる。 ・回路計により測定された値と刻印された値は一般に異なるが、それらの誤差の取り扱いについて定量的に把握できる。 ・アナログ回路計とデジタル回路計の違いを説明できる。 ・測定機器に表示されている記号や数値の意味を説明できる。専門教育学習・教育目標のうち（B）と深い関連がある。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
アナログ電子回路	ダイオード・トランジスタ・FET等電子回路部品について、演習を交えながら講義を行い理解を深める。更に半導体やICについても講義する。	中学校「技術」の免許を取得する為の必須科目である。特に（B）～（F）に深い関連がある。	・ダイオード・トランジスタ・FET等電子回路部品の動作原理について理解している ・電子回路部品を利用した回路の特性を数値的に理解できる ・オペアンプやICを用いた回路の特性を理解できる ・専門教育学習・教育目標の全てと深い関連がある	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
デジタル電子回路	今日の情報化社会を支えているデジタル電子回路について学ぶ。主にダイオードやトランジスタを用いて構成される、AND、OR、NOT回路等の動作原理について学ぶ。また、これらの回路を組み合わせて構成される、組み合わせ論理回路や順序論理回路についても学ぶ。その際、所望する回路を作成するにはブール代数の考えを適用する。以上のことより、デジタル電子回路の重要性を理解する。	中学校一種（技術）の教員免許状の取得要件となる科目です。 特に（C）（D）に深い関連がある。	・ダイオードやトランジスタの動作原理を定性的に説明できる。 ・AND、OR、NOT回路等を作ることができる。 ・ブール代数における諸定理が説明できる。 ・所望する動作を実行する組み合わせ論理回路や順序論理回路の設計指針を把握することができる。専門教育学習・教育目標のうち（B）及び（C）と深い関連がある。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.2
				f	0



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
技術研究セミナーⅠ	これから4年間に渡って学習する内容について、また将来中学校技術科の教員になるために必要となる授業科目の入門である。まずガイダンスを行い、電気分野・機械分野・情報分野・材料分野などについて、演習を交えながら学んでいく。	将来、技術科教員になった際、生徒達に指導できる能力を身に付ける 特に (B) (C) に深い関連がある。	・直回路の設計ができる。エネルギー変換の基礎が理解できる。材料力学の基礎を理解できる。行列式の計算ができる。専門教育学習・教育目標のうち (A) 及び (B) と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0
技術研究セミナーⅡ	卒業研究を展開していくため必要となる。資料、文献収集とその整理法、研究論文の輪読、報告書の作成などの基礎・基本を学ぶ。	技術教育専攻の専門科目で、卒業要件に必要となる科目である。 4年次に履修する卒業研究の指導を受ける予定の研究室に所属し、卒業研究を展開していくため必要となる。資料、文献収集とその整理法、研究論文の輪読、報告書の作成などの基礎・基本を修得する。特に (B) に深い関連がある。	・研究論文の資料、文献収集とその整理法を修得する。 ・研究論文、報告書の作成などの基礎・基本を修得する。専門教育学習・教育目標のうち (A) と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
卒業論文	指導教員の研究室に所属し、技術教育に関する教材開発や専門分野に関する研究を進め、論文作成と口頭発表を学ぶ。	技術教育専攻の専門科目で、卒業要件に必須となる科目である。 指導教員の研究室に所属し、技術教育に関する教材開発や専門分野に関する研究を進め、論文作成と口頭発表を修得する。 特に (B) (D) に深い関連がある。	・技術教育に関する教材開発や専門分野に関する研究を自らの力で進めることができる。 ・研究論文の作成と口頭発表ができる。専門教育学習・教育目標のうち (A) 及び (C) と深い関連がある。	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.2
				f	0
英作文Ⅰ	聞き取りや発話の練習と有機的に関連させた英作文演習を通して、学校英文法の学習棄却と再学習・発展学習を行い、総合的な英語表現力の向上をはかる。	・言葉の仕組みそのものである文法の知識は英語の学習指導や教材理解・研究のための最重要基盤である。本授業では文法を正しく理解し、効果的に運用するための基礎的な素養を深める。 ・中1、高1 英語免許修得のために本学部で定める免許所要の必修単位である。 ・専門教育学習・教育目標のうち特に (D) と特に関係が深い。	・高校までの学習英文法の内容を正しく理解し、(作文において) 正確に運用することができる。 ・学習指導や教材理解・研究等の教師の視点から学習英文法について考えることができる。 ・学習英文法に基づき、より発展的な文法項目を学び、運用できる力を身に付ける。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
英作文Ⅱ	聞き取りや発話の練習と有機的に関連させた英作文演習を通して、学校英文法の学習棄却と再学習・発展学習を行い、総合的な英語表現力の向上をはかる。	・言葉の仕組みそのものである文法の知識は英語の学習指導や教材理解・研究のための最重要基盤である。本授業では文法を正しく理解し、効果的に運用するための基礎的な素養を深める。 ・中1、高2 英語免許修得のために本学部で定める免許所要の必修単位である。 ・専門教育学習・教育目標のうち特に (D) と特に関係が深い。	・高校までの学習英文法の内容を正しく理解し、(作文において) 正確に運用することができる。 ・学習指導や教材理解・研究等の教師の視点から学習英文法について考えることができる。 ・学習英文法に基づき、より発展的な文法項目を学び、運用できる力を身に付ける。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
オーラルコミュニケーション演習Ⅰ	英語による発展的なオーラルコミュニケーション力の涵養のために会話や発表、リスニングなどの言語活動による練習を行う。	コミュニケーション重視の英語教育において、口頭運用能力は指導者の不可欠の素養であり、この授業はその基礎と発展を図るものである。学習・教育目標コード (B) (D) と特に関係が深い。	日常的なことや身の回りのことをはじめとして、さまざまな話題について口頭の英語で表現したり意見を述べたりすることができる。また授業遂行に最低限必要なクラスルームイングリッシュを問題なく使いこなす口頭運用能力を身に付けている。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
オーラルコミュニケーション演習Ⅱ	英語による発展的なオーラルコミュニケーション力の涵養のために会話や発表、リスニングなどの言語活動による練習を行う。	コミュニケーション重視の英語教育において、口頭運用能力は指導者の不可欠の素養であり、この授業はその基礎と発展を図るものである。学習・教育目標コード (B) (D) と特に関係が深い。	日常的なことや身の回りのことについて不自由なく英語で表現できるだけでなく、学術的、社会的な問題や抽象的な話題などについて論理的に意見を述べ、書くことができる。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
現代英語表現法演習	現代英語の諸特徴の中から、興味の持てそうなトピックを取り上げ、講義・演習形式で学習する。	コミュニケーション重視の英語教育において、総合的な英語運用能力に長けていることは指導者の不可欠の素養である。この授業は総合的な英語運用能力の発展学習・教育目標コード (D) と特に関係が深い。	日常的なことや身の回りのことについて不自由なく英語で表現できるだけでなく、学術的、社会的な問題や抽象的な話題などについて論理的に意見を述べ、書くことができる。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
イギリス文化論	日本人になじみの深い国でありながら、その実情の知られていないイギリスの文化について、実態を明らかにするとともに、イギリス人とのコミュニケーションが可能となるように、イギリス文化を英語により論ずる。	イギリス文化を学ぶことで、文化の多様性について理解を深めるとともに、英語の背景文化についての知識を得る。学習・教育目標コード(D)と特に関係が深い。	イギリス文化の実態を知り、イギリス人と意思疎通ができるコミュニケーション能力の基礎を身につける。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
アメリカ文化論	米国の文化や歴史を多角的観点から概観する。	米国について学ぶことで、異文化への知識や理解を深める。学習・教育目標コード(D)と特に関係が深い。	米国の歴史・文化について知識と理解力を身に付ける。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
英文法演習	学習英文法を確認しつつ、記述的(科学的)な観点から英文法についての理解を深めるための演習を行う。伝統英文法の研究の成果を概観し、学習英文法の理解の深化と検証の観点の涵養をはかる。	・教科「英語」に関わる免許法指定科目中の英語学・言語学関連の導入的な科目であり、言語の科学的研究に関する基礎的専門知識や方法論習得への入門にあたる。 ・専門教育学習・教育目標のうち特に(D)と深い関連がある。	・ことばや文法をテーマとした導入的な専門文献(原書)を読むことができる。 ・言語の実態に客観的、科学的に接近しようとする態度が身についている。	a	0.2
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0
英語学演習	英語教員養成の観点から、教材研究開発の基礎となる専門力を身につけるため、英語の言語学的研究の目的、方法と成果を概観し、具体的な言語現象についての基本的な知見を理解する。	・教科「英語」に関わる免許法指定科目中の英語学・言語学関連の導入的な科目であり、言語の科学的研究に関する基礎的専門知識や方法論習得への入門にあたる。 ・専門教育学習・教育目標のうち特に(D)と深い関連がある。	・ことばや文法をテーマとした導入的な専門文献(原書)を読むことができる。 ・言語の実態に客観的、科学的に接近し、自ら探究しようとする態度が身についている。	a	0.2
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0
英語音声学	英文による英語音声学の入門書を講読し、英語の音声の諸特徴を把握する。とりわけ発音記号の読み方や表し方に習熟し、イントネーションにも注意を払う。また自身の発音の矯正も行う。	中1、高1英語免許修得のために本学部で定める免許所要の必修単位である。学習・教育目標コード(D)と特に関係が深い。	英文で書かれた専門的内容を読み取ることに慣れる。辞書や教科書などで用いられている発音記号の意味を理解する。自身の発音や発声の仕方を客観的に把握する。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
英語文学演習A	中高の英語教科書関連する文学作品を取り上げる。「物語」(「歌」「詩」「映画」「伝記」も含む)を中心に取扱いながら、Reading能力を高め、分析力や洞察力を養う。また、受講生による模擬授業としてteaching plan作成からプレゼンまで行う。	教科専門科目なので将来の英語教員の資質向上に向けた指導と実践を行う。学習・教育目標コード(D)と特に関係が深い。	日本の中学・高校の英語の教科書内容を吟味しながら、それに関連する英語圏文化や文学につながる事項をピックアップして、実際の授業に直接的、間接的に役立つ情報を集め、理解を深める。語学教育の背景としての豊かな知識を形成する。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
英語文学演習B	中高の英語教科書関連する文学作品を取り上げる。「物語」(「歌」「詩」「映画」「伝記」も含む)を中心に取扱いながら、Reading能力を高め、分析力や洞察力を養う。また、受講生による模擬授業としてteaching plan作成からプレゼンまで行う。	教科専門科目なので将来の英語教員の資質向上に向けた指導と実践を行う。学習・教育目標コード(D)と特に関係が深い。	日本の中学・高校の英語の教科書内容を吟味しながら、それに関連する英語圏文化や文学につながる事項をピックアップして、実際の授業に直接的、間接的に役立つ情報を集め、理解を深める。語学教育の背景としての豊かな知識を形成する。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
英語文学演習C	中高の英語教科書関連する文学作品を取り上げる。「物語」(「歌」「詩」「映画」「伝記」も含む)を中心に取扱いながら、Reading能力を高め、分析力や洞察力を養う。また、受講生による模擬授業としてteaching plan作成からプレゼンまで行う。	教科専門科目なので将来の英語教員の資質向上に向けた指導と実践を行う。学習・教育目標コード(D)と特に関係が深い。	日本の中学・高校の英語の教科書内容を吟味しながら、それに関連する英語圏文化や文学につながる事項をピックアップして、実際の授業に直接的、間接的に役立つ情報を集め、理解を深める。語学教育の背景としての豊かな知識を形成する。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
英語文学演習D	中高の英語教科書関連する文学作品を取り上げる。「物語」「歌」「詩」「映画」「伝記」も含む)を中心に扱いつながりながら、Reading能力を高め、分析力や洞察力を養う。また、受講生による模擬授業としてteaching plan作成からプレゼンまで行う。	教科専門科目なので将来の英語教員の資質向上に向けた指導と実践を行う。学習・教育目標コード(D)と特に関係が深い。	日本の中学・高校の英語の教科書内容を吟味しながら、それに関連する英語圏文化や文学につながる事項をピックアップして、実際の授業に直接的、間接的に役立つ情報を集め、理解を深める。語学教育の背景としての豊かな知識を形成する。	a	0.2
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
英語科教育法Ⅰa	英語教育についての基礎知識について学ぶ。英語教育の意義・目的、学習指導要領、コミュニケーション能力、指導方法の基礎について理解する。授業は講義、ディスカッション、タスクの組み合わせにより進める。	英語科教員免許取得には必修の専門教育科目になる。英語教育法の基礎について理論と実践から学び、英語でのコミュニケーション能力を育てる指導力の基礎力を養う。学習・教育目標コード(B)(D)と特に関係が深い。	英語教育の基礎知識について理解する。指導案や授業展開の仕組みなど、指導法の基礎について理解する。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
英語科教育法Ⅰb	第二言語習得理論の基礎について学び、指導方法、評価方法などについて、理論と実践からの基礎を養う。授業は講義、模擬授業実践、振り返り、ディスカッションの組み合わせにより進める。	英語科教員免許取得には必修の「英語科教育法Ⅰa」に続く専門教育科目になる。模擬授業実践、その振り返りをグループディスカッションを通して行う。英語でのコミュニケーション能力を育てる指導の基礎力を養う。学習・教育目標コード(B)(D)と特に関係が深い。	英語科教育の基礎知識について理解を深める。指導方法、評価についての基礎的な知識・技能を修得する。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
英語科教育法Ⅱ	「英語科教育法Ⅰa,Ⅰb」の履修が前提の授業である。指導の基礎力の充実、応用力の養成をめざし、とりわけ、教育実習Ⅱにおける生徒への実際の指導を考慮した授業内容である。	授業案作成、(補助)教材・ワークシート作成準備、授業マネジメント、学習者へのフィードバック、授業・学習者評価等の観点から、英語授業の指導力、指導技術を緻密に練り上げ、教育実習での実践を裏打ちする授業力の養成をめざす。学習・教育目標コード(B)(D)と特に関係が深い。	模擬授業での振り返りを中心に、特に以下の指導力・指導技術を身につける。事前に用意したものにとられない、学習者の反応に合わせた柔軟な授業力。学習形態(クラス全体、個別、ペア、小グループ)の適切な選択と有効な組み合わせ。「学習者への働きかけ」「学習者の反応へのフォロー・アップ」に必要な英語コミュニケーション能力。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
英語科教育法Ⅲ	「英語科教育法Ⅰa,Ⅰb」「英語科教育法Ⅱ」の履修が前提の授業である。指導の基礎力の定着、応用力の発展をめざし、教育実習Ⅱの経験を取り込んだ授業内容である。	教科「英語」の目標を確認し、カリキュラム、シラバス、単元、教材、1時間の授業内容・方法、評価、学習者、授業者をマクロとミクロの両面で考察する。その中心はあくまでも学習者であり、コミュニケーション重視である。その考察は履修者各自の教育実習Ⅱの経験を踏まえ、小グループで行う。それを模擬授業の組み立て・振り返りに生かし、一人ひとりの授業力の向上を図る。学習・教育目標コード(B)(D)と特に関係が深い。	マクロ、ミクロの観点で英語授業への認識を深め、模擬授業に取組みながら、以下の点を身につける。教科「英語」の目標に照らした、1時間の授業のあり方が展開できる。授業作り、授業の振り返りにあたり、常に学習者中心、コミュニケーション重視の姿勢を保つことができる。Reflective teachingの継続実践に向けた、授業分析力、授業改善力、そのための自己啓発力を養う。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
英語学特殊講義A	英語の諸特徴の一部を理論言語学の視点から学修する。	英語教育専攻の選択専門科目の一つとして、中高の英語教員に必要な理論言語学の基礎知識を授ける。学習・教育目標コード(B)と特に関係が深い。	英語学関連の専門文献を読む力を養う。学校文法に対する批判的かつ発展的知識を養う。自身の言語運用を客観的に捉える。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
英語学特殊講義B	英語の諸特徴の一部を理論言語学の視点から学修する。	英語教育専攻の選択専門科目の一つとして、中高の英語教員に必要な理論言語学の基礎知識を授ける。学習・教育目標コード(B)と特に関係が深い。	英語学関連の専門文献を読む力を養う。学校文法に対する批判的かつ発展的知識を養う。自身の言語運用を客観的に捉える。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
英語学特殊講義C	英語の諸特徴の一部を理論言語学の視点から学修する。	英語教育専攻の選択専門科目の一つとして、中高の英語教員に必要な理論言語学の基礎知識を授ける。学習・教育目標コード(B)と特に関係が深い。	英語学関連の専門文献を読む力を養う。学校文法に対する批判的かつ発展的知識を養う。自身の言語運用を客観的に捉える。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
イギリス文学史	古代、中世から現代にわたるイギリス文学史を概観します。	教員養成の観点から、必要な教養として、または専門の研究に必要な基礎知識として役立ててください。学習・教育目標コード(B)(C)(F)と特に関係が深い。	イギリス文学の生成、発展、消長をイギリスの文化、歴史、社会的背景のなかに位置づけ、理解できる。イギリス文学を味わう素養を身につける。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
アメリカ文学史	アメリカ文学史上代表的な作家と作品を精選し、その歴史的社会的意義や価値について講義する。	教員養成の観点から、英語教科書に散見する文化的・文学的情報を歴史の枠組みの中で整理し、現代社会や人間の問題を考察する。学習・教育目標コード(B)(C)(F)と特に関係が深い。	この文学史は、文学や文化に関する様々な情報を体系的に位置付け、さらに、それを現在の社会や人間の問題を考察する糸口にしていく。アメリカの植民地時代から第二次世界大戦後、今日までを概観し、それぞれの時代の文学作品の特徴について紹介する。異文化理解のために断片的で無秩序な情報を体系的に理解する枠組みを形成する。	a	0.1
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
英米文学特殊講義A	アメリカ文学史上代表的な作家と作品を精選し、その歴史的社会的意義や価値について講義する。	教員養成の観点から、英語教科書に散見する文化的・文学的情報を歴史の枠組みの中で整理し、現代社会や人間の問題を考察する。学習・教育目標コード(B)(C)(E)と特に関係が深い。	この文学史は、文学や文化に関する様々な情報を体系的に位置付け、さらに、それを現在の社会や人間の問題を考察する糸口にしていく。アメリカの植民地時代から第二次世界大戦後、今日までを概観し、それぞれの時代の文学作品の特徴について紹介する。異文化理解のために断片的で無秩序な情報を体系的に理解する枠組みを形成する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
英米文学特殊講義B	文学作品を読みながら、その芸術的価値について論じる。	英語による芸術作品を理解することは、英語教育に大きな力を与える。学習・教育目標コード(B)(C)(E)と特に関係が深い。	英語の文学作品の分析と鑑賞ができることを目指す。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
英米文学特殊講義C	文学作品を読みながら、その芸術的価値について論じる。	英語による芸術作品を理解することは、英語教育に大きな力を与える。学習・教育目標コード(B)(C)(E)と特に関係が深い。	英語の文学作品の分析と鑑賞ができることを目指す。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.4
				e	0.1
				f	0
英語科教育法特殊講義A	英語教育指導法について、理論と実践から学びを深める。指導法、評価法について探求するとともに、教室における具体的な問題解決に対する実践的能力を養う。	英語教育専攻の選択専門科目の一つとして、英語教員に必要な英語でのコミュニケーション能力を育てる指導力を養う。学習・教育目標コード(A)(D)と特に関係が深い。	英語教育に関する発展的知識と実践力を身につける。授業展開や学習活動の工夫、指導の工夫について理解を深める。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
英語科教育法特殊講義B	小・中・高の英語教材研究、教材開発に関する学びを深める。	英語教育専攻の選択専門科目の一つとして、英語教員に必要な英語でのコミュニケーション能力を育てる指導力を養う。学習・教育目標コード(A)(D)と特に関係が深い。	英語教育に関する発展的知識と実践力を身につける。教材研究・開発に関する理解を深める。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1
英語科教育法特殊講義C	小・中・高等学校の授業分析を通じて、授業研究力の育成を図る。	英語教育専攻の選択専門科目の一つとして、英語教員に必要な英語でのコミュニケーション能力を育てる指導力を養う。学習・教育目標コード(A)(D)と特に関係が深い。	英語教育に関する発展的知識と実践力を身につける。授業分析力と授業研究力を養う。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.1
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
現代英語総合演習	英語の終日集中訓練プログラム (Intensive Training Course of English) を受講者がTA (Teaching Assistant) となって自ら企画し、実施する。	・教科である英語を活用した総合的な教育活動の主体的体験は(英語)教員としての実践力育成の一助となる。 ・専門教育学習・教育目標のうち特に(D) (F) と深い関連がある。	・プログラムの企画と実施を通して英語力、英語指導力、企画・運営力、ヒューマンスキルなどを習得または向上させる。 ・教育実習Ⅱへ向けて、教材の選択・作成、言語活動の計画・実施、指示・説明のしかたや学習者へ接し方など、言語学習指導の実践的な側面を体験的に習得する。	a	0.2
				b	0
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.3
英語研究セミナーA I	英語学、英米文学、英語科教育の各分野において、4年次の卒業論文作成を見据え、調査・研究方法や論文作成の基本的知識・技能の学習、基本文献の講読などの演習を行う。	英語教育についての意識を高めつつ、各自の専門テーマについて卒業論文の準備をする第一段階の専門教育科目である。自ら設定する課題について当該分野の知識・技能と方法論を身に付け、解決に向けて主体的に取り組む。学習・教育目標コード(B) (E) と特に関係が深い。	英語学、英米文学、英語科教育の各分野において、卒業論文作成に必要な基本文献を読みこなすことができる。卒業論文作成に必要な、調査・研究方法を学ぶ。論文作成の基本的知識・技能を修得する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0
英語研究セミナーA II	英語学、英米文学、英語科教育の各分野において、「英語研究セミナーA I」を踏まえて、調査・研究や論文作成の方法などについての知識や技能を高めるとともに文献講読などの演習をすすめるとともに、卒業論文を見据えた個別の具体的な課題についても取り組みを深める。	「英語研究セミナーA I」を踏まえ、各自の課題の主体的解決に向けて専門の知識・技能と方法論の実践力を更に深める科目である。学習・教育目標コード(B) (E) と特に関係が深い。	英語学、英米文学、英語科教育の各分野において、卒業論文作成に必要な、調査・研究方法についての知識や技能が高まる。各自の設定する課題について、各分野の知識・技能と方法論を学ぶ。課題解決に向けて主体的に取り組めるようになる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0
英語研究セミナーB I	英語学、英米文学、英語科教育の各分野において、4年次の卒業論文作成を見据え、調査・研究方法や論文作成の基本的知識・技能の学習、基本文献の講読などの演習を行う。	英語教育についての意識を高めつつ、各自の専門テーマについて卒業論文の準備をする第一段階の専門教育科目である。自ら設定する課題について当該分野の知識・技能と方法論を身に付け、解決に向けて主体的に取り組む。学習・教育目標コード(B) (E) と特に関係が深い。	英語学、英米文学、英語科教育の各分野において、卒業論文作成に必要な基本文献を読みこなすことができる。卒業論文作成に必要な、調査・研究方法を学ぶ。論文作成の基本的知識・技能を修得する。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0
英語研究セミナーB II	英語学、英米文学、英語科教育の各分野において、「英語研究セミナーB I」を踏まえて、調査・研究や論文作成の方法などについての知識や技能を高めるとともに文献講読などの演習をすすめるとともに、卒業論文を見据えた個別の具体的な課題についても取り組みを深める。	「英語研究セミナーB I」を踏まえ、各自の課題の主体的解決に向けて専門の知識・技能と方法論の実践力を更に深める科目である。学習・教育目標コード(B) (E) と特に関係が深い。	英語学、英米文学、英語科教育の各分野において、卒業論文作成に必要な、調査・研究方法についての知識や技能が高まる。各自の設定する課題について、各分野の知識・技能と方法論を学ぶ。課題解決に向けて主体的に取り組めるようになる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0
卒業論文	英語科教育学、英米文学、英語学を主な分野として、卒業研究の主題や計画に応じ、文献講読や課題演習、研究発表などを通じた研究・論文作成指導を行う。	英語教育専攻に関わる教職・教科の知識・技能、専攻専門分野の理解・探究などの統合を図る。学習・教育目標コード(B) (E) と特に関係が深い。	主として英語科教育学、英米文学、英語学の各分野のなかから、卒論の主題となる課題を見つけることができる。自ら設定した課題の解決に向けて必要な、調査・研究方法を修得する。自らの課題とその解決に向けての調査・研究の過程・結果を論文にまとめることができる。	a	0.1
				b	0.2
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.3
				f	0
特別支援教育概論	障害とは何か、その概念について考察を加え、障害児教育がどのような変遷をしてきたかを学び、今日の特別ニーズ教育の国際的動向について学ぶ。そして我が国の特別支援教育の制度・課題について考察する。	特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目であり、特別支援教育の入門的な概論である。特別支援教育に関する関心を深め、基礎的な知識の獲得を目指す。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」および「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」と深い関連がある。	・ICF (国際的生活機能分類) による障害の捉え方について、理解する。 ・障害児の教育がどのように生じ、発展してきたか、障害児教育史に関する知識を獲得する。 ・今日の我が国における特別支援教育制度や教育の現状についての基礎的な知識を獲得する。	a	0
				b	0.5
				c	0.4
				d	0
				e	0
				f	0.1
知的障害児心理・生理・病理	知的障害児に関して、心理的特性とその支援方法、生理・病理の基本的知識を扱う。	知的障害児教育に関する基礎的な知識を身に付け、教職への意識を高める。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」および「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」と深い関連がある。	・特別支援学校の教員として必要な知的障害児の基本的特性について理解する。 ・知的障害をめぐる様々な問題に関心を持ち、心理学等の知識を用いて自分の考えを述べることができる。	a	0
				b	0.5
				c	0.4
				d	0
				e	0
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
知的障害児教育課程論	知的障害児の心理的特徴をおさえ、知的障害特別支援学校における教育課程について学習する。特に教科・領域を合わせた指導である生活単元学習、日常生活の指導、作業学習などや独自の領域である自立活動について基礎的知識の獲得を目指す。	特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目であり、特別支援教育における知的障害児教育の独自の教育課程について基礎的な知識の獲得を目指す。知的障害のある児童生徒の教育について関心を深め、基礎的な知識の獲得を目指す。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」	・知的障害児教育について基礎的な知識を獲得する。 ・知的障害特別支援学校における教育課程の独自性について理解をし、各指導形態の特徴について学ぶ。 ・知的障害児に対する教育について関心を持ち、教育の在り方について考える機会とする。	a	0
				b	0.5
				c	0.3
				d	0.1
				e	0
				f	0.1
肢体不自由児心理学	肢体不自由といわれる人への教育的対応に関して、心理学的な視点から具体的に考えることができるようになるための基盤を築く。	特別支援学校教員免許を取得するための必修科目であり、肢体不自由教育に関する入門編としての意義を持つ。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と深い関連がある。	・肢体不自由といわれる人への教育的対応に関して、心理学的な視点から自分の考えを具体的に述べることができる。 ・肢体不自由がある子どもの音声言語以外の様々な“ことば”を受信できる	a	0
				b	0.3
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.2
				f	0.2
肢体不自由児教育概論	肢体不自由の原因、特徴。特性について学ぶ。肢体不自由児教育の教育課程・教育内容について学習する。	特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目であり、特別支援教育における肢体不自由児教育の入門的な概論である。肢体不自由のある児童生徒の教育について関心を深め、基礎的な知識の獲得を目指す。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と深い関連がある。	・肢体不自由の病因について基礎的な知識を獲得する。 ・肢体不自由特別支援学校における教育課程や教育内容の特徴について学ぶ。 ・肢体不自由児に対する教育について関心を持ち、教育の在り方について考える機会とする。	a	0
				b	0.5
				c	0.3
				d	0.1
				e	0
				f	0.1
病弱児生理学	障害がある人、とくに病弱といわれる人との係わり合いをもつにあたって、知っておいた方がよいと思われる生理学的知見に関する理解を深める。	特別支援学校教員免許を取得するための必修科目であり、病弱教育に関する入門編としての意義を持つ。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と深い関連がある。	障害がある人に関する基本的な生理学的知見を説明できる。	a	0
				b	0.4
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.2
病弱児教育概論	病弱教育の対象の変遷と今日の病弱教育対象児の特徴について学ぶ。病弱児教育の教育課程・教育内容について学習する。	特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目であり、特別支援教育における病弱児教育の入門的な概論である。病弱の児童生徒の教育について関心を深め、基礎的な知識の獲得を目指す。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と深い関連がある。	・病弱児教育について基礎的な知識を獲得する。 ・病弱特別支援学校における教育課程や教育内容の特徴について学ぶ。 ・病弱児に対する教育について関心を持ち、教育の在り方について考える機会とする。	a	0
				b	0.5
				c	0.3
				d	0.1
				e	0
				f	0.1
知的障害児心理学特論	知的障害児の人格形成をテーマに、知的障害児の自己意識の発達について学ぶ。	知的障害の人格形成を論じた論文等は数少ない。しかし、幼児・児童・生徒の心理学的発達を捉えた支援を考える上で重要なテーマである。知的障害児の自己意識の発達に関する知識の獲得と理解を目指す。 学習・教育目標コードのうち「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」および「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	知的障害児の主体性や個性的な自己実現の支援の糸口を学ぶことができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.3
				e	0.1
				f	0.1
知的障害児指導法	知的障害児の特徴を踏まえた具体的な学習指導や支援の方法について扱う。	知的障害児教育に関する実践的知識を身につけ、教職への意識を高める。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」および「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	・知的障害児への指導方法を具体的に考えることができる。 ・指導や支援の過程を振り返ることができる。	a	0
				b	0.3
				c	0.1
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.1

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
知的障害児自立支援論	知的障害幼児・児童・生徒の特別支援教育のなかで、特に、自立活動、生活単元学習に焦点をあて、自立支援の考え方や支援の方法を演習も交えながら学ぶ。	知的障害特別支援学校の自立活動、生活単元学習などについて理解し、実際に、活動を創造しコーディネートする能力を培う。 学習・教育目標コードのうち「(D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	知的障害幼児・児童・生徒の自立を目指した具体的な指導方法を身につけることができる。	a	0
				b	0.1
				c	0.2
				d	0.3
				e	0.2
				f	0.2
障害児療育論	障害児の保育に必要な知識や、障害のある幼児や「気になる子」を支援するための方法について扱う。	特別支援教育に関する実践的知識を身につけ、教職への意識を高める。教師にとって必要な省察力や協働する力の獲得を目指す。 学習・教育目標コードのうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・障害のある幼児や「気になる子」をとらえる視点や支援方法について理解する。 ・他者と協働して支援計画を立てるプロセスを理解する。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.3
				f	0.1
視覚障害児教育概論	以下の事項について解説する。 1 盲視の触覚と学習 2 弱視児の視知覚と学習 3 視覚障害の定義と教育の場 4 盲児の指導 5 弱視児の指導 6 重複障害児の指導 7 視覚障害教育の基礎基本	特別支援学校教員免許を取得するための必修科目であり、視覚教育に関する入門編としての意義を持つ。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と深い関連がある。	視覚障害、すなわち見えない、見えにくいことによる心理学的特性の基礎を理解した上で、視覚障害児の発達的特徴、指導法の基本について理解する。	a	0
				b	0.5
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.0
聴覚障害児教育概論	手話、補聴器試用、発音指導などの実技、体験を取り入れながら、聴覚障害児指導における実践的な内容を教授する。	特別支援学校教員免許を取得するための必修科目であり、聴覚教育に関する入門編としての意義を持つ。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」と深い関連がある。	聴覚障害児の発達的特徴を捉え、特別支援教育の中で扱うべき指導事項とその内容および方法について理解すること、また聴覚障害者の就労の現状と課題および社会生活に関わる福祉、医療、法律について知ることを目標とする。	a	0
				b	0.4
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
重複障害児教育概論	重複障害、重度重複障害および重症心身障害といわれる人への教育的対応において重要になる視点に関して理解を深める。	特別支援学校教員免許を取得するための必修科目であり、肢体不自由児心理学、病弱児生理学の履修を前提とした応用編としての意義を持つ。 学習・教育目標コードのうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・重複障害、重度重複障害および重症心身障害といわれる人への教育的対応において重要になる視点に関して自分の考えを述べることができる。 ・重複障害がある子どもの音声言語以外の様々な“ことば”を受信できる	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.2
発達障害児教育概論	文科省によると、一般の小学校・中学校に知的に障害を伴わない高機能自閉症、アスペルガー症候群、LD、ADHDとが約6.5%存在すると報告されている。よって、彼らの障害特性を理解し、一般の学級における指導技法を学習する。	特別支援教育が盲・聾・養護学校から一般の幼・小・中学校へ広がり、そこに在籍する発達障害児の課題について学習することは、教師として重要な意義を持つものとする。 学習・教育目標コードのうち「(B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」および「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」と深い関連がある。	LD、ADHD、高機能自閉症と言われる発達障害児の特性を理解し、幼・小・中学校における彼らの指導技法を学習することを目標とする。	a	0
				b	0.3
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.1
				f	0.1
障害児教育学演習Ⅰ	障害児教育に関する歴史的に重要な図書・原典を読み、特別支援教育の先達の思想や教育観について学ぶ。また、その思想の背景にある歴史的な社会背景・教育事情について理解を深める。	特別支援教育学における教育思想、教育制度についての知識の獲得とともに、論理的な思考の仕方について学習する。知的障害児教育の体験を踏まえて、特別支援教育指導者としての思想・考え方の獲得を目指す。 学習・教育目標コードのうち「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」と深い関連がある。	・障害児教育の先達の思想について学び、その先駆性と限界性について歴史的に考察できるようになる。 ・特別支援教育学における自己の問題意識を深め、問題探求の基礎的力を獲得させる。 ・特別支援教育の実践について学び、特別支援教育教師としての資質・知識の獲得をする。	a	0
				b	0.2
				c	0.4
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.2
障害児教育学演習Ⅱ	特別支援教育学における教育制度・教育史・教育方法などの各自の問題意識に基づいた論文を購読し、その論理性、構成などについて考察し、今日における問題の所在について考察する。	特別支援教育学における教育思想、教育制度についての知識の獲得とともに、論理的な思考の仕方について学習する。知的障害児教育の体験を踏まえて、特別支援教育指導者としての思想・考え方の獲得を目指す。論文の書き方について実践的に学ぶ。 学習・教育目標コードのうち「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」と深い関連がある。	・特別支援教育の今日的課題について研究論文購読することによって考察をする。論文執筆に関する知識を得るとともに論文構成や論理性、実証性について実践的に学ぶ。 ・専門性のある特別支援教育教師としての資質・知識の獲得をする。	a	0
				b	0.2
				c	0.4
				d	0.1
				e	0.1
				f	0.2

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
障害児心理学演習 A I	知的障害および発達障害のある幼児・児童・生徒とかわるための理論および方法論を主に文献購読を通して学ぶ。また演習、討議を交えて臨床に役立てるための思考を身につける。	特別支援教育専攻の選択専門科目の一つである。特別支援学校教員に必要な資質を文献購読と演習形式で培う。 学習・教育目標コードのうち「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」と深い関連がある。	知的障害および発達障害のある幼児・児童・生徒、一人ひとりの個性的自己実現に向けて、教員として持つべき、観察、分析、実践の視点を身につけることができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
障害児心理学演習 A II	知的障害および発達障害のある幼児・児童・生徒とかわるための理論および方法論を主に事例を通して学ぶ。また、実践形式の演習、討議を交えて臨床に役立てるためのプランニング力を身につける。	特別支援教育専攻の選択専門科目の一つである。特別支援学校教員に必要なプランニング能力を文献購読と事例を通じた演習形式で培う。 学習・教育目標コードのうち「(C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる」と深い関連がある。	B I を継続しつつ、身につけた理論・方法論を基盤とし、臨床場面でのプランニング能力を養うことができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.1
障害児心理学演習 B I	言語やコミュニケーション、各種障害がある人との事例研究や実践研究に関する文献あるいは教育実践報告の吟味および種々の障害疑似体験を行なう。そのなかで、受講学生各々が自身の教育観や障害観、科学観などを吟味し、障害がある人への教育的対応において必要となる視点や方法論などについて自分自身の考えを構築し、深めることを目標とする。また、研究を進めていく上で必要となる種々の機材の使い方や記述記録のとり方などについても演習する。  また、受講学生の希望に応じて、特別支援学校や特別支援学級、施設や病院、教育相談場面などの見学やそうした場での実践研究を行なうことも可能である。受講学生の主体的な参加を期待する。	特別支援教育専攻の選択専門科目の一つとして、特別支援学校教員に必要な資質の開発について演習形式で行う。 学習・教育目標コードのうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	自身の教育観や障害観、科学観などを吟味し、障害がある人への教育的対応において必要となる視点や方法論などについて自分自身の考えを述べることができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.2
障害児心理学演習 B II	言語やコミュニケーション、各種障害がある人との事例研究や実践研究に関する文献あるいは教育実践報告の吟味および種々の障害疑似体験を行なう。そのなかで、受講学生各々が自身の教育観や障害観、科学観などを吟味し、障害がある人への教育的対応において必要となる視点や方法論などについて自分自身の考えを構築し、深めることを目標とする。また、研究を進めていく上で必要となる種々の機材の使い方や記述記録のとり方などについても演習する。  また、受講学生の希望に応じて、特別支援学校や特別支援学級、施設や病院、教育相談場面などの見学やそうした場での実践研究を行なうことも可能である。受講学生の主体的な参加を期待する。 なお、本演習は、「障害児心理学演習 C I」と内容的に連続するものであり、続けて受講すること。	特別支援教育専攻の選択専門科目の一つとして、特別支援学校教員に必要な資質の開発について演習形式で行う。 学習・教育目標コードのうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	自身の教育観や障害観、科学観などを吟味し、障害がある人への教育的対応において必要となる視点や方法論などについて自分自身の考えを述べることができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.2
障害児教育方法学演習 I	学校や保育の場で支援が必要とされる子どもたちに関する研究について扱う。観察記録（フィールドノート）の作成方法、授業ビデオからの記録の起こし方、その分析方法についても演習する。	特別支援教育に関する実践的な知識・関心を深める。 学習・教育目標コードのうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	特別支援教育に関する自分自身の研究の問いをたて、その研究課題を明らかにするための方法について吟味することができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.2
障害児教育方法学演習 II	学校や保育の場で支援が必要とされる子どもたちに関する研究について扱う。観察記録（フィールドノート）の作成方法、授業ビデオからの記録の起こし方、その分析方法についても演習する。	特別支援教育に関する実践的な知識・関心を深める。 学習・教育目標コードのうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	特別支援教育に関する自分自身の研究の問いをたて、その研究課題を明らかにするための方法について吟味することができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.1
				e	0.3
				f	0.2
卒業論文	自身の関心、問題意識に基づいて、研究テーマを設定し、自らの問いに答えを出す作業を行う。	特別支援教育専攻の必修専門科目として、特別支援学校教員および特別支援教育に必要な資質のいっそうの開発を意図しながら、受講生の関心に基づいて設定された研究テーマに応じて指導する。 学習・教育目標コードのうち「(E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	自身の設定した問いに対して、自らが手に入れた事実に基づきながら、自身の答えを自分のことばで述べるることができる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.3
				f	0.1
アドバンスト算数	小学校算数科の学習指導上の諸問題を踏まえ、具体的な教材を例に挙げながら、適切な学習活動を展開するための手立てについて考察する。	「算数」及び「算数科教育法」の内容を踏まえ、算数科の学習指導上の課題に対する専門的理解を深め、実践的な知識・技能を習得する。学修・教育目標のうち、特に (D) と深い関連がある。	・算数の指導を通して育成すべき力について理解する ・学習指導上の諸問題を踏まえ、教材、授業展開や学習活動、指導や評価について理解を深める	a	0
				b	0.2
				c	0.3
				d	0.4
				e	0
				f	0.1



授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
アドバンスト小学校理科実験	小学校現場で理系科目を指導するに際し、特に実験に対する苦手意識の減少を図る。小学校教科書記載の実験・観察の題材の中で、特に専門的知識・技能を要する課題を取り上げ、修得の機会を提供する。	小学校アドバンスト科目群（選択専門科目）の一つである。理系以外の学生の小学校理科実験指導力の向上を目指したものである。専門教育学習・教育目標のうち（D）及び（E）と深い関連がある。	小学校教科書記載の実験・観察の題材を、安全に配慮しながら指導できる。	a	0.1
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.4
				e	0.2
				f	0.1
アドバンスト小学校英語教育	小学校外国語活動実践のための知識と技能について、児童の実態に合わせた指導ができるように学ぶ。	教員採用条件として重要視されている小学校外国語活動の指導技術を身につける。学習・教育目標コード（D）と特に関係が深い。	小学校外国語活動の指導に必要な基礎的知識を持ち、現実に即した授業を計画・実施し、それを振り返り、より良い実践のために児童の実態に合わせて授業改善を行う力が身につけている。	a	0.2
				b	0.1
				c	0.1
				d	0.5
				e	0.1
				f	0
アドバンスト特別支援教育	通常の学級に在籍する発達障害児に対する指導方法や支援方法について学び、学級経営の在り方について学ぶ。	小学校アドバンスト科目群の選択科目である。小・中学校の教員採用試験に合格した学生を主対象とし、通常の学級における学級経営や発達障害児への対応方法について学習する科目である。学修・教育目標のうち、特に（B）～（F）に深い関連がある。	通常の学級における発達障害児への指導方法、支援方法、教示の仕方など具体的な例を通して学び、教員としての資質を向上させる。	a	0
				b	0.2
				c	0.2
				d	0.2
				e	0.2
				f	0.2
International Political Economics	Since the end of the cold war at the beginning of 1990s, Three factors have affected the world economically as well as politically. First, globalization has interconnected the world more and more closely. Second, rapid technological development has changed industrial structure, financial businesses and daily life. Third, emerging economies have become more and more important in the world economy as well as politics. We will learn these changes and discuss benefits and issues brought about by them.	この授業は、全学共通科目の“Learning+1”が目標とする「英語運用能力や異文化社会およびグローバルな共存社会への知識を深め、国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。	This course provides participants with clear images of the current issues that the world economy is now facing and tackling with. In addition, based on the discussion of those issues in the class, participants are expected to have their own opinions about how to challenge with them.	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
Global Management : Asia and Development	This course provides students with the opportunities for critically reviewing and analyzing the on-going global challenges, beyond borders and across disciplines around the world. Through providing conceptual clarity and concrete case studies, students will be directed to understanding and drawing an overall picture of global issues. Students will also learn about some practical technics and tools for problem analysis, in order to analyze the global issues and seek the real global agenda.Globalization is a relatively new aspect, in association with economic activities, political interventions, social network and many more aspects beyond borders. Therefore, it is also critical to learn and explore about the new actors in the scene such as NGOs and Civil Society. The course will then finally explore the possible ways and alternatives of solution for global issues,examining the major key actors.	This course is related proactively to “Learning+1” as to gaining practical skills of English proficiency and inter-cultural communication, required for professionals in the international field	At the end of the course with proactive attendance, students will be able to:- Clarify and understand roles of the actors in global issues- Address, demonstrate and analyze the current issues of globalization and the way forward	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
Globalization and Society	In this course, we learn and discuss about what “globalization”; is and what have been going on in this global society. This course introduces some basic ideas of “globalization” and “global issues” in local and global communities. Also, through some groupworks and workshops, some participatory learning skills of global education will be introduced so that we can understand those global issues and take actions for our common future.	この授業は、全学共通科目の“Learning+1”が目標とする「英語運用能力や異文化社会およびグローバルな共存社会への知識を深め、国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。	The aim of this course is to think globally, act locally and, most importantly, to change personally. In this course, students are expected: 1) to recognize critical events and problems in the world as “global issues”, 2) to analyze the causes and the connections with us and Japanese society, and 3) to present his/her own action plan for a fairer and more sustainable society.	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
Risk Management	シラバスなし。	シラバスなし。	シラバスなし。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
Intercultural Education	This course examines various theories and practices of intercultural/multicultural education, with a focus on the concepts like bilingualism, heterogeneity, citizenship, social cohesion and so on.	この授業は、全学共通科目の“Learning+1”が目標とする「英語運用能力や異文化社会およびグローバルな共存社会への知識を深め、国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。	This course aims at making students understand educational challenge in multicultural society.	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3

授業科目名	授業内容	学修・教育目標との関連	授業の到達目標	学修目標コード	ポイント配分
国際インターンシップ	シラバスなし。	シラバスなし。	シラバスなし。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3
海外英語研修	オーストラリアのサザンクロス大学で行われる2週間の英語研修とホームステイが中心ですが、出発前に事前指導を行い、帰国後に事後指導も行います。	グローバル人材育成の観点から大学が提供する英語研修プログラムの一つに位置づけられます。外国で生活し、仕事が行えるような英語の技能を獲得し、心的態度も涵養します。また、学生の専門領域（地域デザイン科学、国際学、教育学、工学、農学）の見地から、あるいはより一般的には自然や環境などの見地から、オーストラリアと日本を比較し、現地により深い交流をするには何が必要かも学びます。	専門性を取り入れたカリキュラムに基づいて英語の総合的スキルを高め、外国でのホームステイによる生活を通じて、英語圏の国で暮らせる力を身につけることが目標です。	a	0.7
				b	0
				c	0
				d	0
				e	0
				f	0.3